

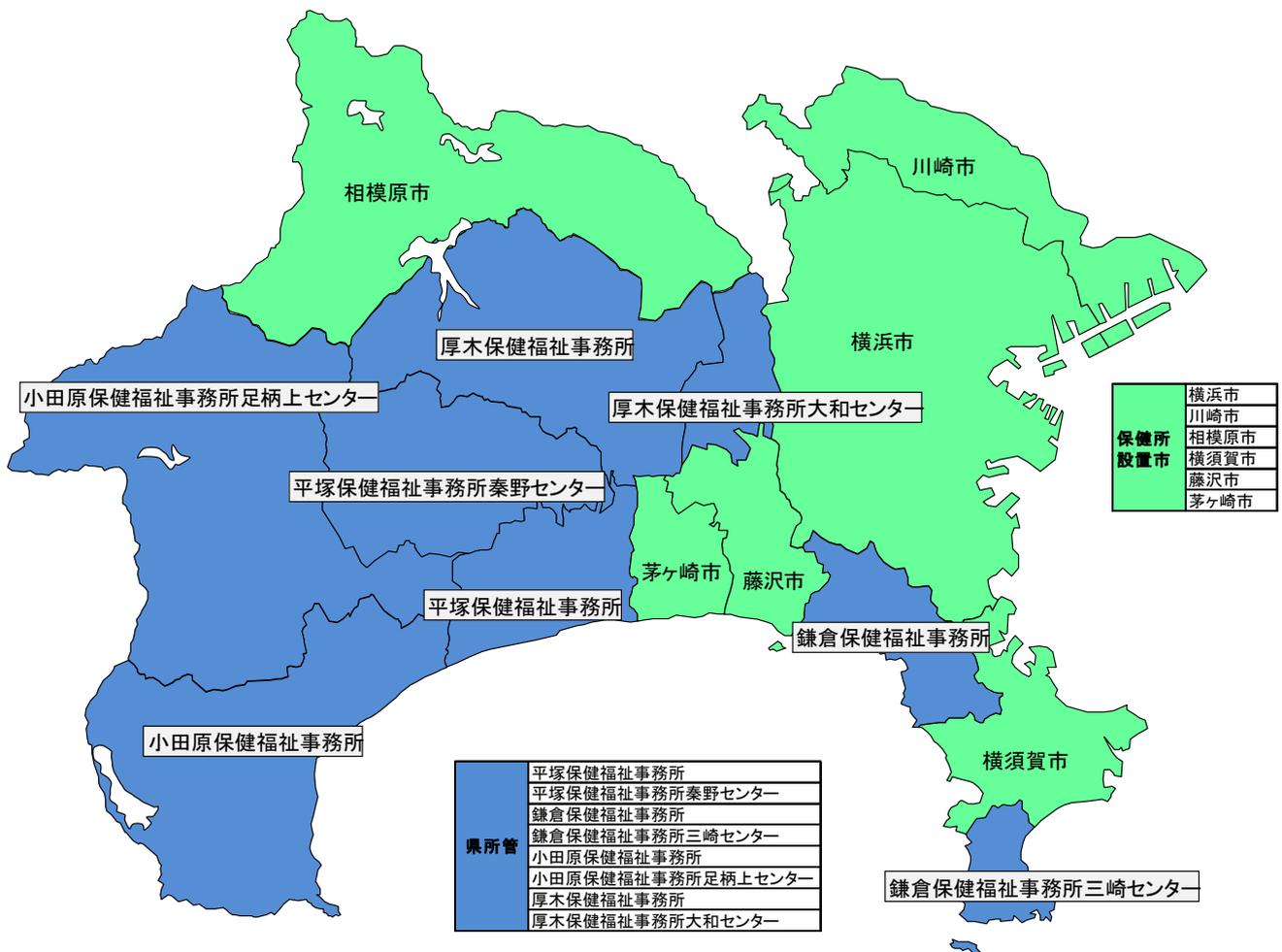


2021年

神奈川県感染症

PART I 2021年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 2021年地域における感染症発生状況の概要



はじめに

2019年（令和元年）12月に中国湖北省武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス感染症（coronavirus disease 2019: COVID-19）は、2022年（令和4年）8月現在も流行終息の兆しはなく、新しい変異株が次々と発生して、世界中で感染拡大が継続しています。世界保健機関（World Health Organization: WHO）の発表によると、2022年（令和4年）8月21日現在のCOVID-19累積報告数は5億9,323万6,266人で、644万8,504人の死亡が確認されました。一方、国内においては、2022年（令和4年）8月27日現在、1,818万425人の新型コロナウイルス（Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2: SARS-CoV-2）検査陽性者と、38,522人の死亡が報告されています。変異株の一つであるオミクロン株の流行により、感染者数が急増し、2022年（令和4年）7月から始まった第7波は、2020年の初発例確認以降では最大の流行規模となり、WHO西太平洋地域（Western Pacific Region: WPR）の中では、日本からの報告が最多となっています。現在、感染症法に基づく感染症発生動向調査では、新型コロナウイルス感染症は全数把握対象疾病で、診断したすべての医師に管轄の保健所への届出が義務付けられています。しかしながら、これだけ膨大な感染者数では、このシステムの運用方法自体の検討が必要となり、高齢者や重症化リスクの高い人のみを全数届出として、その他は感染者数のみの把握にする等、サーベイランスの在り方についての検討も行われています。COVID-19の流行で、国と地方自治体の協力、情報連携の重要性が再認識され、自治体間の情報連携も益々重要になっています。地方衛生研究所の存在意義が大きくなっている今こそ、ピンチをチャンスに変えて、国立感染症研究所との連携、地方衛生研究所同志の連携を強化して、健康危機管理や感染症対策に積極的に関わっていく必要があると考えています。

神奈川県衛生研究所は、神奈川県基幹感染症情報センターとして、本庁や保健福祉事務所、保健所を始め、県内33市町村の担当課や神奈川県医師会、病院協会、関係機関の方々との連携を強化して、積極的に情報発信に取り組んでいます。COVID-19の流行以降、集合形式の研修会は激減していますが、ウェブ方式の研修会のシステムが普及し、強化されました。それぞれの利点を活かした研修会の在り方を検討するとともに、研究所のホームページ改訂にも取り組んでいます。

『神奈川県の感染症』は、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、茅ヶ崎市及び神奈川県保健福祉事務所（センター）をはじめとする本県関係機関と神奈川県衛生研究所が協力して収集した情報をまとめたPART I（神奈川県感染症発生動向調査の概要）と、各地域における感染症発生状況の概要を記載したPART IIに分けて収録していますので、関係の皆様方の感染症対策の参考にしていただければ幸いです。

『神奈川県の感染症』の作成にあたり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

2022年（令和4年）8月

神奈川県衛生研究所長 多屋 馨子

目 次

< PART I > 2021 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	8
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点	11
(2) 週報対象疾患（神奈川県全県）	12
(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）	21
3 トピックス	
(1) 新型コロナウイルス感染症について	25
(2) RSウイルス感染症について	30
(3) 梅毒について	32

【資 料】

全数把握対象の感染症 保健所別累積報告数	36
----------------------------	----

< PART II > 2021 年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況	37
2 病原細菌検出概況	38
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	39
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）	50

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) ウイルス検査状況（発生動向調査）

ア 5類感染症（定点把握疾患）

(ア) インフルエンザ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

(神奈川県衛生研究所)

54

② 横浜市（横浜市衛生研究所）

55

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）

57

④ 相模原市（相模原市衛生研究所）

58

(イ) ウイルス性感染性胃腸炎

a 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検査状況

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 59
- ② 川崎市（川崎市健康安全研究所） 59

b 集団感染性胃腸炎事例からの原因ウイルス検査状況

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 59
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 59
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 62
- ④ 横須賀市（横須賀市健康安全研究センター） 63
- ⑤ 藤沢市（藤沢市保健所） 63

(ウ) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、
流行性角結膜炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 64
- ② 川崎市（川崎市健康安全研究所） 65
- ③ 相模原市（相模原市衛生研究所） 65

イ 4類感染症（全数把握疾患）

(ア) 蚊媒介感染症

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 66
- ② 川崎市（川崎市健康安全研究所） 66

ウ 5類感染症（全数把握疾患）

(ア) 麻しん・風しん

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 67
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 67
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 67
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 68
- ⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） 68

(イ) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、 日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	68
② 川崎市（川崎市健康安全研究所）	68
(ウ) HIV/エイズ	
a 神奈川県の HIV/エイズの概要（医療危機対策本部室）	69
b HIV 検査の実施状況	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市・藤沢市及び茅ヶ崎市を除く） （神奈川県衛生研究所）	70
② 川崎市（川崎市健康安全研究所）	72
③ 相模原市（相模原市衛生研究所）	72
④ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	73
⑤ 藤沢市（藤沢市保健所）	73
エ 新型インフルエンザ等感染症	
(ア) 新型コロナウイルス感染症	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	74
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	75
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	76
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	77
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	78
⑥ 藤沢市（藤沢市保健所）	79
(2) 感染症流行予測調査	
ア 感受性調査（抗体保有状況調査）	
(ア) インフルエンザ（神奈川県衛生研究所）	80
(イ) 麻疹（神奈川県衛生研究所）	83
(ウ) 風疹（神奈川県衛生研究所）	85
(エ) 水痘（神奈川県衛生研究所）	88
イ 感染源調査	
(ア) 日本脳炎（神奈川県衛生研究所）	90

(3) 感染症媒介蚊のサーベイランス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く） （神奈川県衛生研究所）	91
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	91
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	94
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	94
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	95
⑥ 藤沢市（藤沢市保健所）	96

2 細菌性感染症

(1) 細菌性腸管系感染症検査状況

ア 3類感染症

(ア) 腸管出血性大腸菌感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	97
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	97
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	99
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	99
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	100
⑥ 藤沢市（藤沢市保健所）	100

(イ) 細菌性赤痢・コレラ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	101
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	101
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	101
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	102
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	102

(ウ) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） （神奈川県衛生研究所）	102
② 横浜市（横浜市衛生研究所）	102
③ 川崎市（川崎市健康安全研究所）	102
④ 相模原市（相模原市衛生研究所）	103
⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター）	103

イ 5類感染症

(ア) 細菌性感染性胃腸炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 103

ウ 薬剤耐性菌

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 104

② 横浜市（横浜市衛生研究所） 105

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 106

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 107

⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） 107

⑥ 藤沢市（藤沢市保健所） 107

(2) 細菌性呼吸器系感染症検査状況

ア 2類感染症

(ア) 結核

a 感染診断検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 108

② 川崎市（川崎市健康安全研究所） 109

③ 相模原市（相模原市衛生研究所） 110

b 遺伝子型別検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 111

② 横浜市（横浜市衛生研究所） 112

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 112

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 112

イ 4類感染症

(ア) レジオネラ症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 113

② 横浜市（横浜市衛生研究所） 113

③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 113

④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 113

⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） 113

ウ 5類感染症

(ア) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 114
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 114
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 115
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 115
- ⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） 115

(イ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、 侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 115
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 117
- ③ 川崎市（川崎市健康安全研究所） 119
- ④ 相模原市（相模原市衛生研究所） 119
- ⑤ 横須賀市（横須賀市健康安全科学センター） 119

(ウ) マイコプラズマ肺炎

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 119

(エ) 百日咳

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 120
- ② 横浜市（横浜市衛生研究所） 120

3 その他の感染症

(ア) つつが虫病

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）
（神奈川県衛生研究所） 120
- ② 川崎市（川崎市健康安全研究所） 120

【参考資料】

予防接種実施状況.....	121
感染症関係機関.....	122

< PART I > 2021年神奈川県感染症発生動向調査の概要

I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、1998年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、1999年4月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

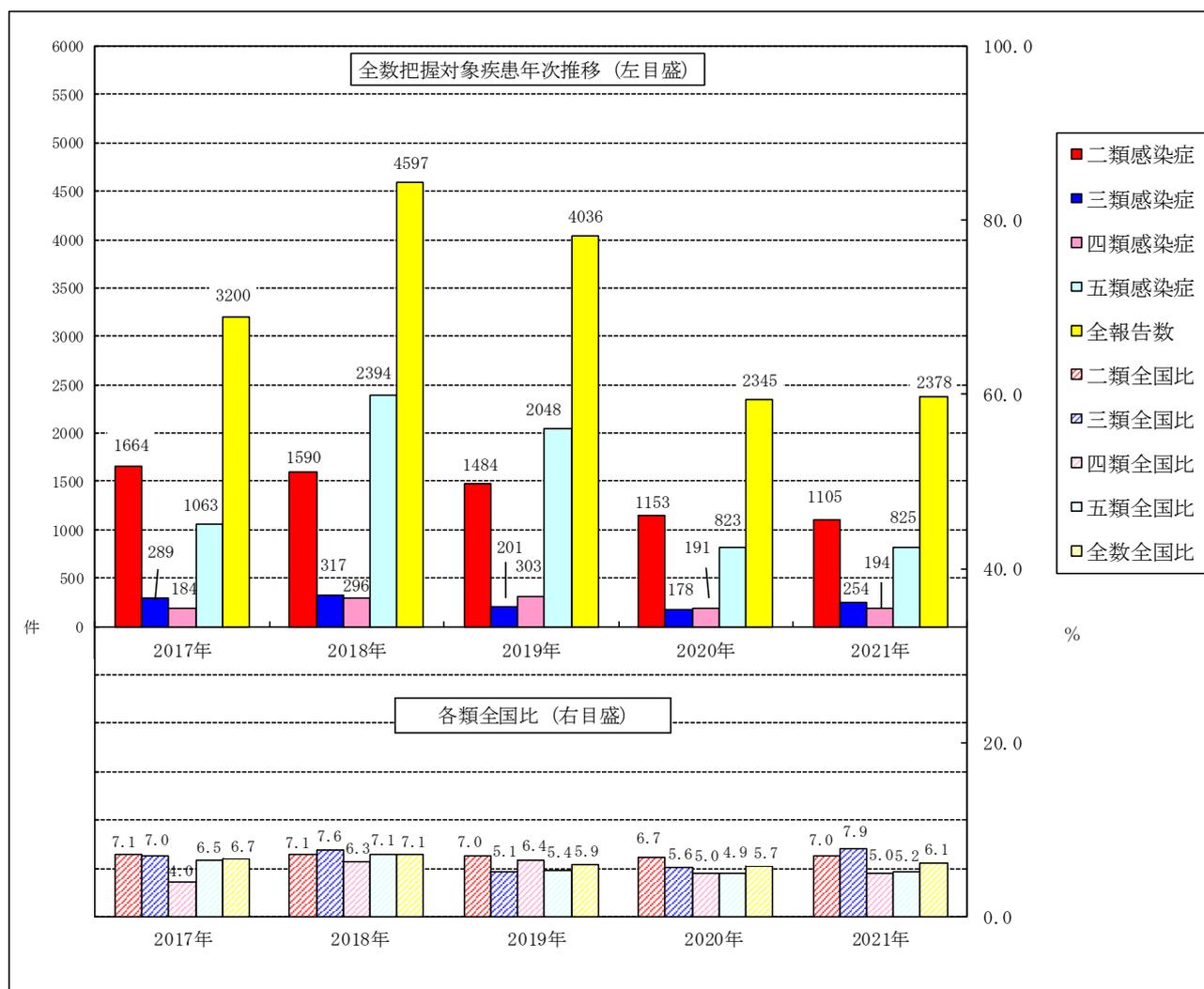
1 全数把握対象疾患

2021年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、2,378件と前年より33件増加した。

類別では、二類感染症1,105件、三類感染症254件、四類感染症194件、五類感染症825件であった。

全数把握対象疾患の年次推移は、図1全数把握疾患の推移のとおり。保健所別の報告数は、【資料】「全数把握疾患保健所別累積報告数」を参照。

図1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》報告はなかった。

《二類感染症》届出は結核のみで、前年 1,153 件から 1,105 件と 48 件減少した。

《三類感染症》届出は腸管出血性大腸菌感染症のみで、前年 173 件から 254 件と 81 件増加した。

表 1 三類感染症報告数

(件)

疾患名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	神奈川県(左を除く)	
コレラ			1										
細菌性赤痢	17	15	3	3									7
腸管出血性大腸菌感染症	267	300	189	173	254	165	47	7	1	12	1	21	3,220
腸チフス	3	2	6	1									4
パラチフス	2		2	1									
合計	289	317	201	178	254	165	47	7	1	12	1	21	3,231

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※疑似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》6疾患の報告があり、報告数は193件であった。E型肝炎が61件と報告が比較的多くみられた。つつが虫病は前年27件から17件と減少している。輸入感染症のデング熱は前年から引き続き低い水準に、マラリアは報告なしとなっている。レジオネラ症は前年112件から108件と減少している。

表 2 四類感染症報告数

(件)

疾患名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	神奈川県(左を除く)	
E型肝炎	14	46	49	39	61	27	15	4	5	1	1	8	452
A型肝炎	19	95	41	7	4	1	2					1	71
エキノコックス症				1	1					1			23
オウム病			1										
ジカウイルス感染症	2												
コクシジオイデス症	1												
つつが虫病	16	15	18	27	17			1				16	534
デング熱	26	22	36	1	2	1	1						8
日本紅斑熱	1												
マラリア	1	1	6	3									29
ライム病	1	1											
レジオネラ症	101	114	152	112	108	42	21	6	6	6	1	26	2,112
レプトスピラ症	2	2		1									34
合計	184	296	303	191	193	71	39	11	11	8	2	51	3,909

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※疑似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

《五類感染症》18 疾患の報告があり、報告数は 825 件であった。最も報告の多かった疾患は梅毒で、前年 219 件から 333 件と 114 件増加した。

表3 五類感染症報告数

(件)

疾患名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年								全国
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(茅ヶ崎市)	(左を除く神奈川県)	
アメーバ赤痢	90	76	81	54	57	18	14	7	1	2	3	12	529
ウイルス性肝炎	12	17	19	17	17	8	6	1				2	201
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	123	233	207	122	122	50	29	12	3	12		16	2,038
急性弛緩性麻痺		8	3	2	1		1						22
急性脳炎	47	36	65	32	17	3	12					2	334
クロイツフェルト・ヤコブ病	14	18	11	4	7	4	1	1		1			178
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	47	56	76	51	40	20	4	1	4	1		10	646
後天性免疫不全症候群	82	75	71	65	67	32	12	6	2	2	1	12	1,047
ジアルジア症	2	6	3	2	3		2			1			36
侵襲性インフルエンザ菌感染症	26	35	38	22	12	6	1	1	1	2		1	194
侵襲性髄膜炎菌感染症	3	1	6										
侵襲性肺炎球菌感染症	238	225	205	102	91	39	16	7	8	4		17	1,388
水痘(入院例)	15	53	41	26	18	4	5	1	2	2	1	3	298
梅毒	322	352	269	219	333	151	64	12	14	21	4	67	7,873
播種性クリプトコックス症	11	11	12	5	12	7	2		1	1		1	159
破傷風	5	5	3	5	5	3	1			1			93
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	6	4	2	7	1							1	
百日咳		763	547	79	21	3	6	1	1	1		9	746
風しん	10	414	295	8	1	1							12
麻しん	9	7	94	1									6
薬剤耐性アシネトバクター	1	2											24
合計	1,063	2,397	2,048	823	825	349	176	50	37	51	9	153	15,937

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※疑似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※平成30年1月1日より百日咳が定点報告から全数報告になった

※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数報告疾患になった

2 定点把握対象疾患

(1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

(単位：医療機関数)

区 分	定点医療機関数				
	県域※	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	125	153	61	39	378
小児科定点	73	94	37	30	234
眼科定点	17	22	9	4	52
STD（性感染症）定点	24	29	12	5	70
基幹定点	5	4	2	1	12

※横須賀市・藤沢市・茅ヶ崎市の定点医療機関数を含む

【2022年4月25日現在 感染症発生動向調査による】

○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

○小児科定点

対象疾患名： RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

○基幹定点

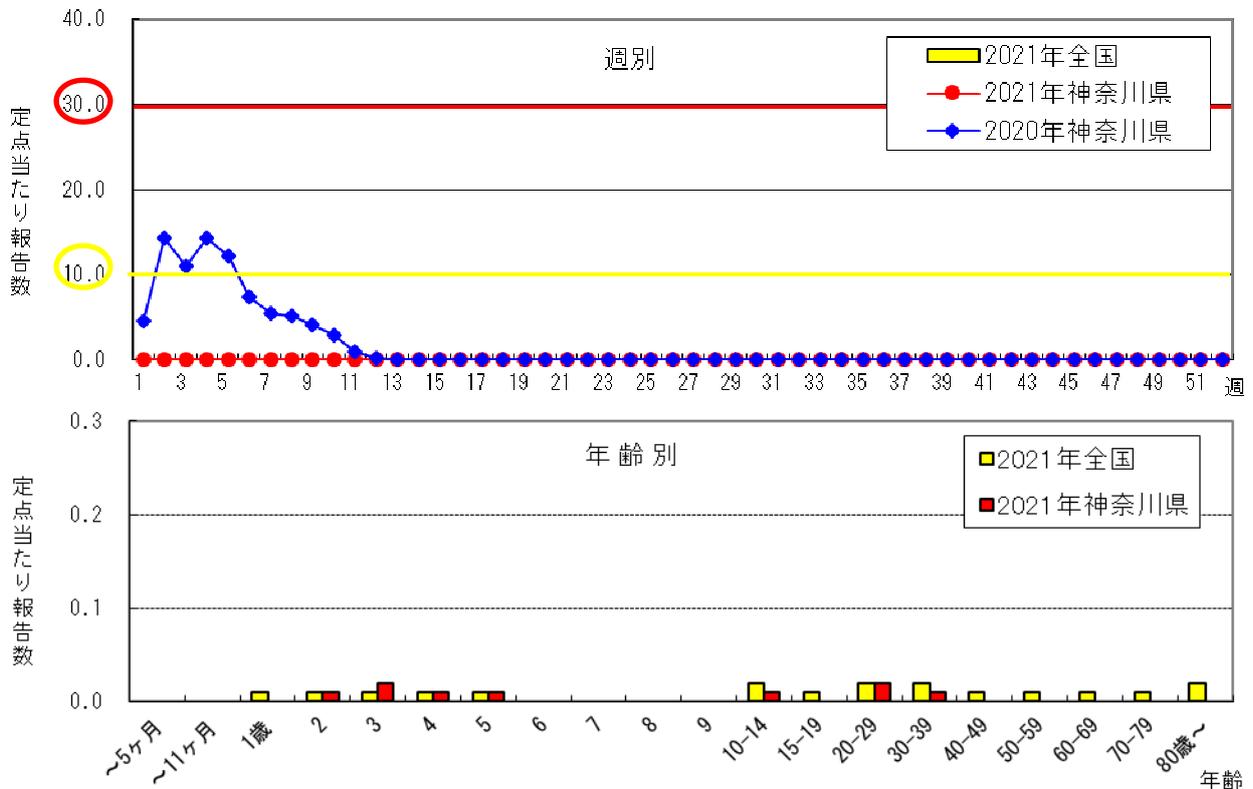
対象疾患名： 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・無菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・クラミジア肺炎（オウム病を除く）・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

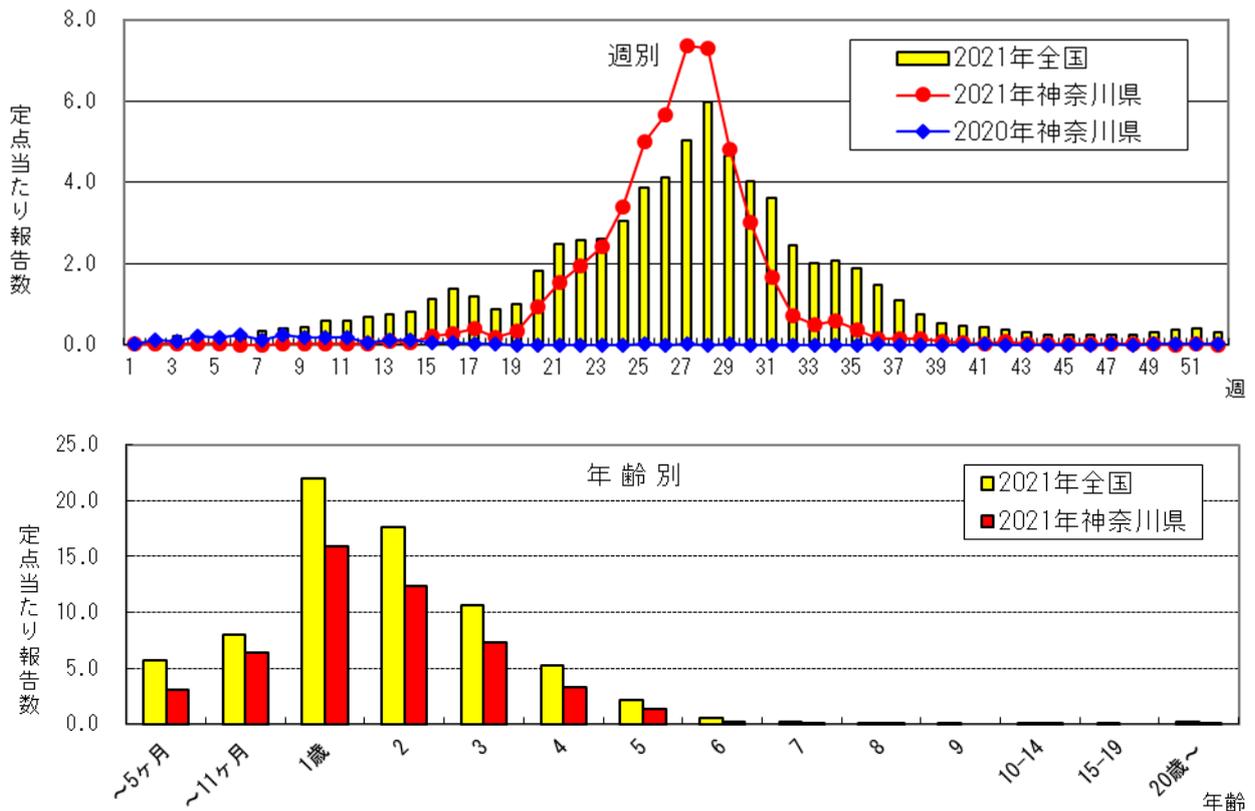
(2) 週報対象疾患（神奈川県全県） *注意報・警報基準のある疾患に○は警報レベル、○は注意報レベルを示す
インフルエンザ

2020/2021 シーズンは、報告はほとんどなかった。



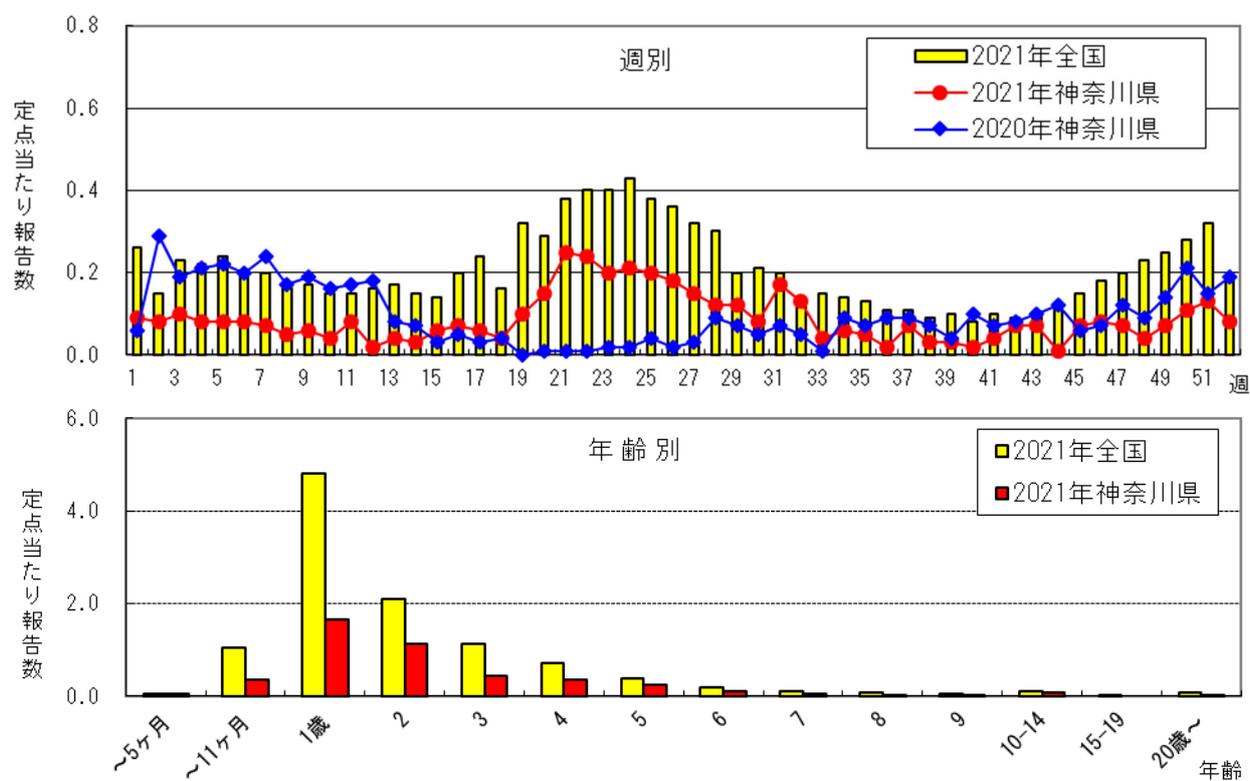
RS ウイルス感染症

2021 年は 19 週から報告数が増え始め 27 週をピークとする流行がみられた。



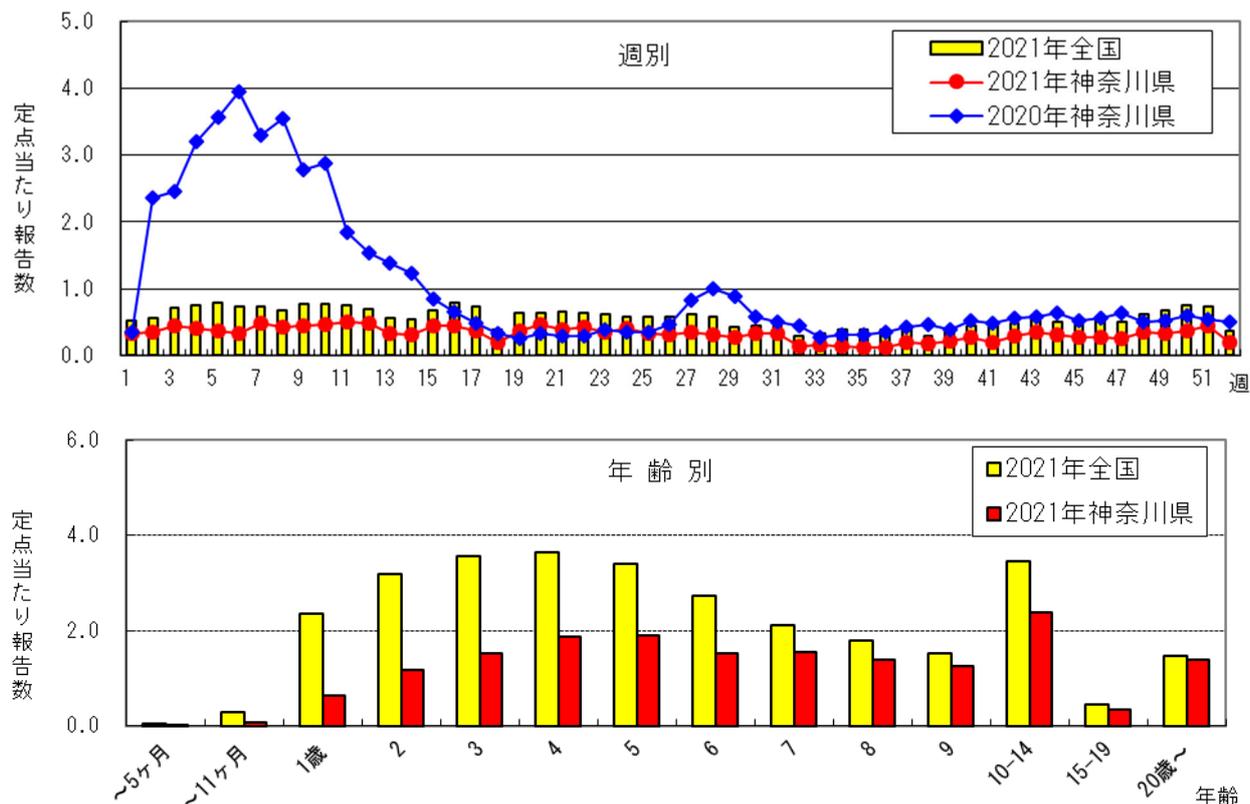
咽頭結膜熱

2021年は前年と比較して夏季に報告数が増加したが、一年を通じて報告数は少なく警報レベルを超える週はなかった。年齢別では、1歳で最も多く報告された。



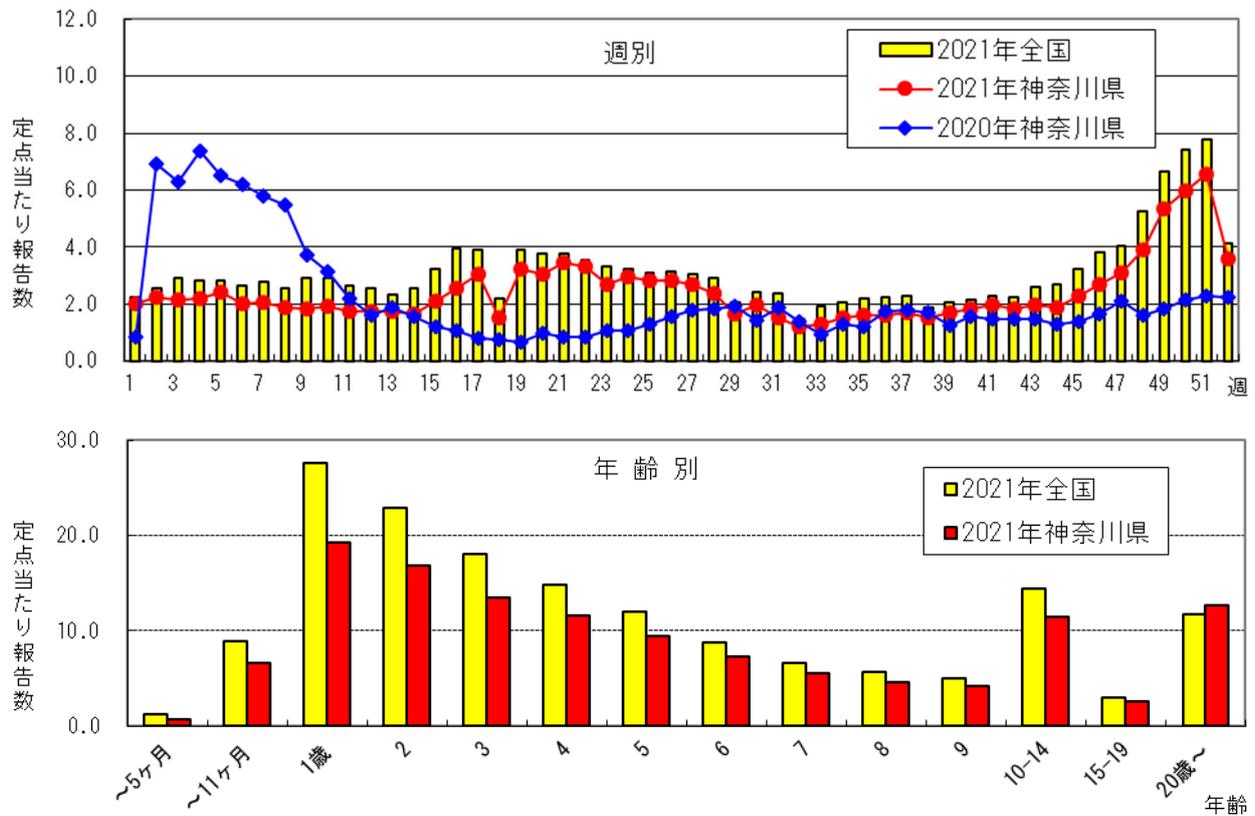
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2021年は一年を通じて報告数は少なかった。年齢別では、4～5歳を中心に報告された。



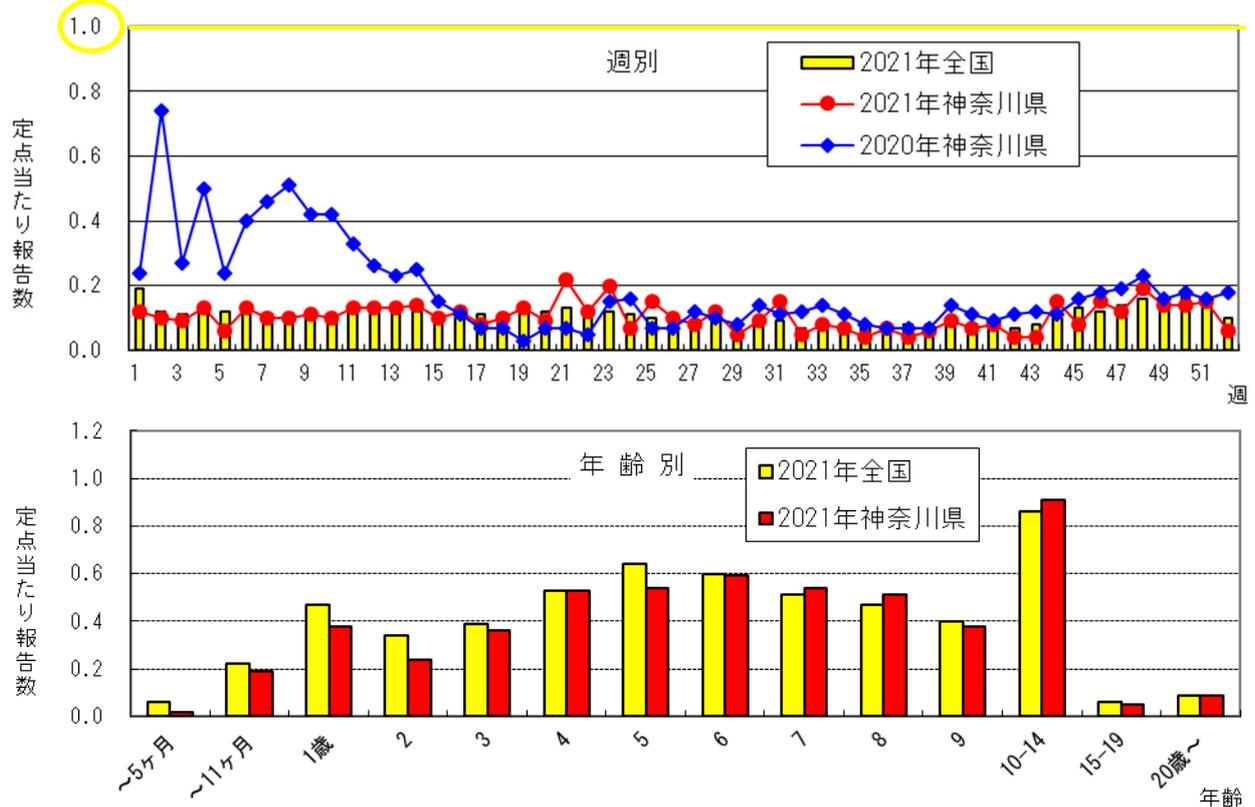
感染性胃腸炎

2021年は45週から報告数が増加し51週にピークがみられたが、例年冬と同程度の流行であった。年齢別では、1歳で最も多く報告された。



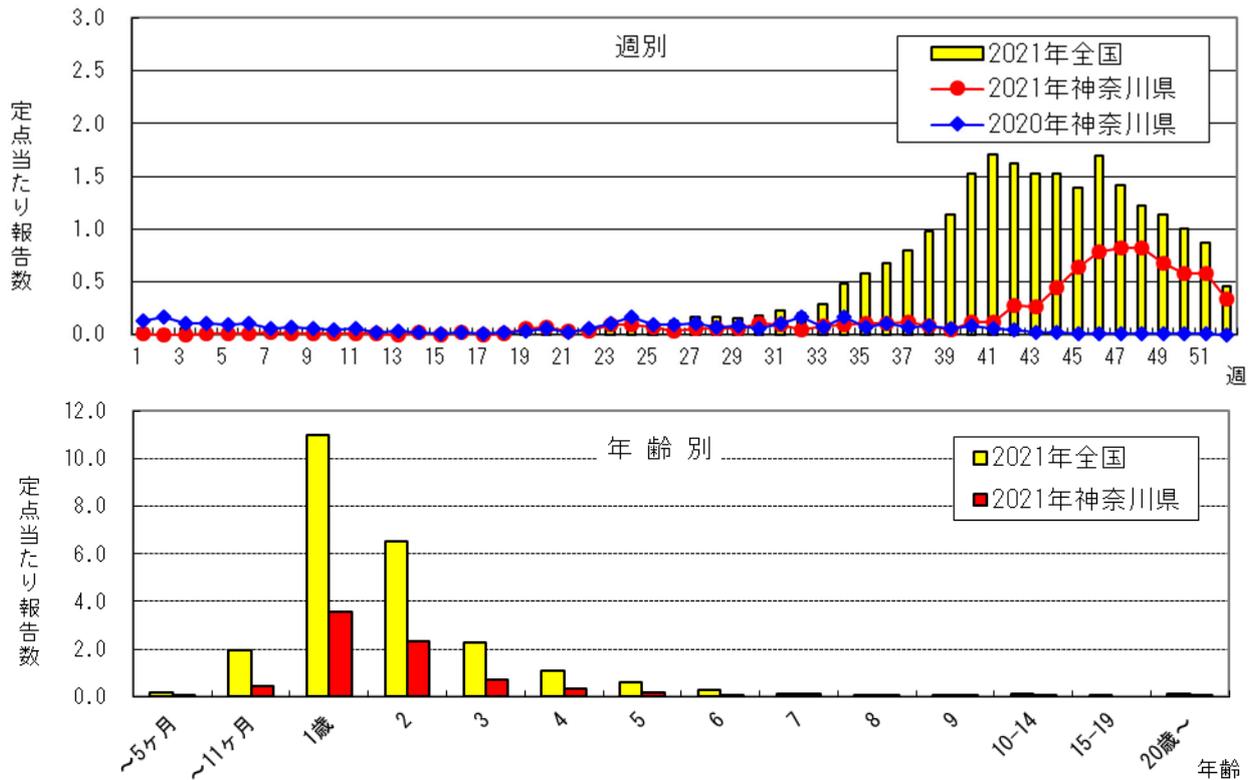
水痘

2021年は一年を通じて報告数は少なかった。年齢別では、6歳を中心に報告された。



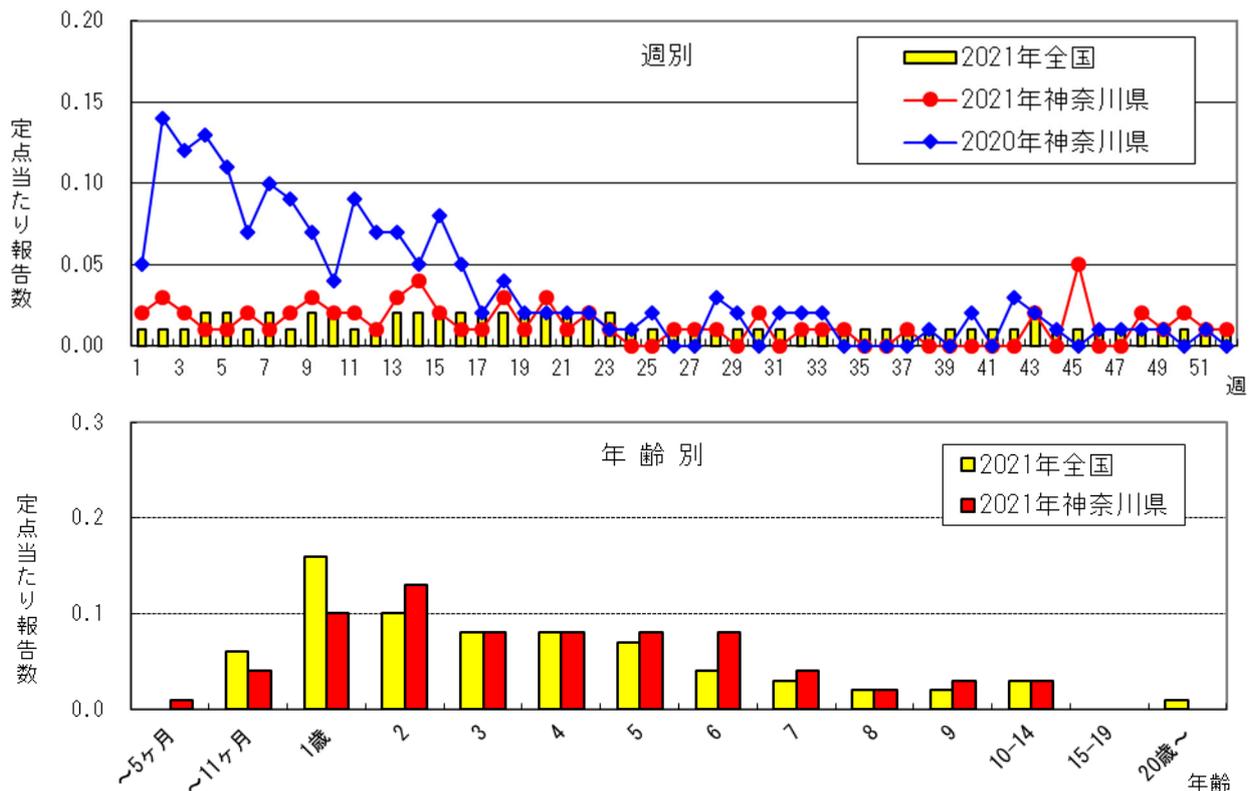
手足口病

2021年は夏の報告はほとんどなかったが、45週から報告数が増加しはじめ49週をピークとする流行がみられた。年齢別では、1歳を中心に報告された。



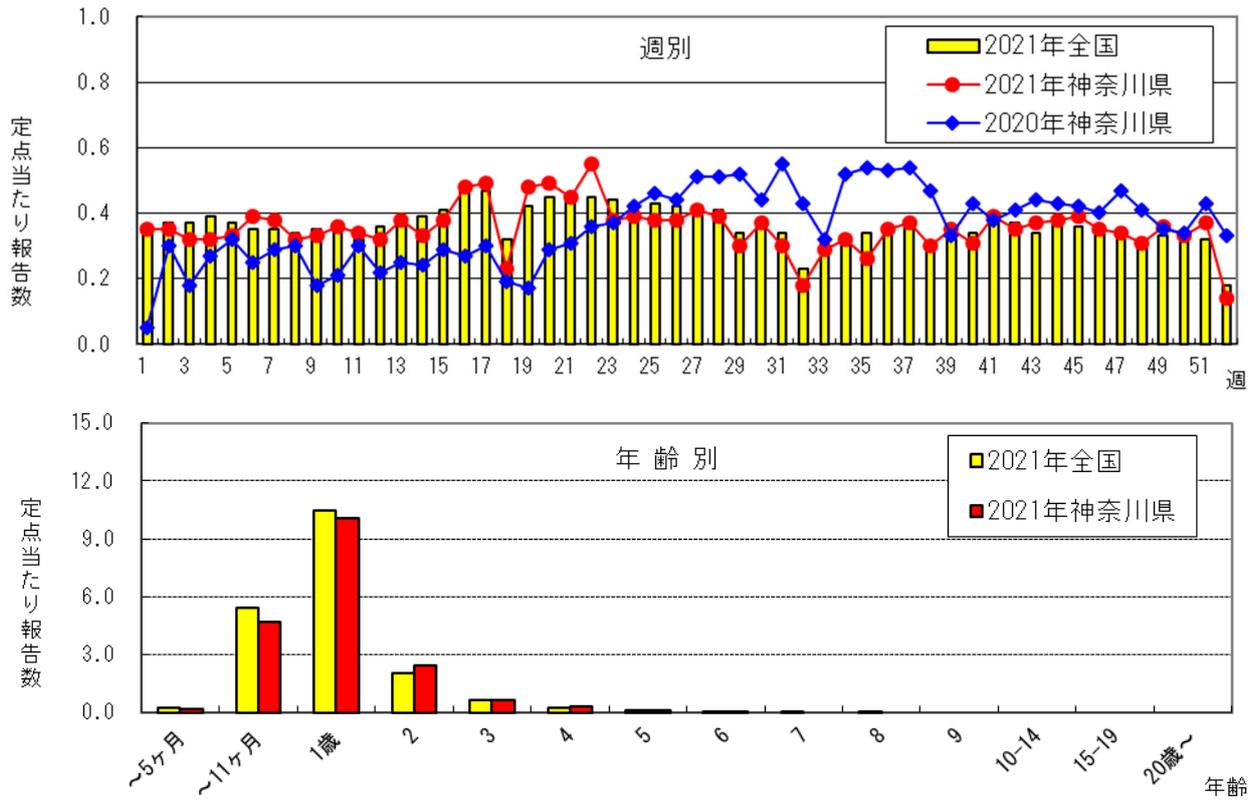
伝染性紅斑

2021年は一年を通じて報告数は少なかった。年齢別では、2歳を中心に報告された。



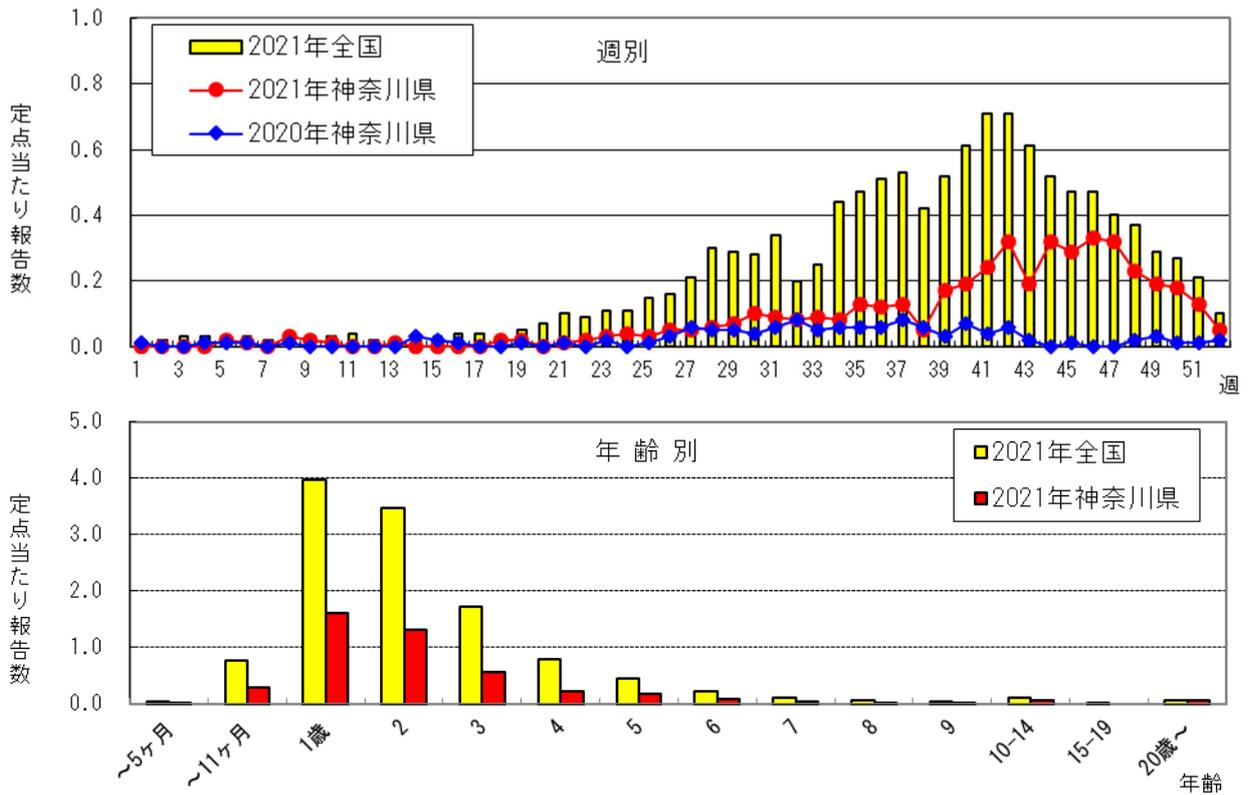
突発性発しん

2021年は、前年と報告数はほぼ変わらなかった。年齢別では、1歳で多く報告された。



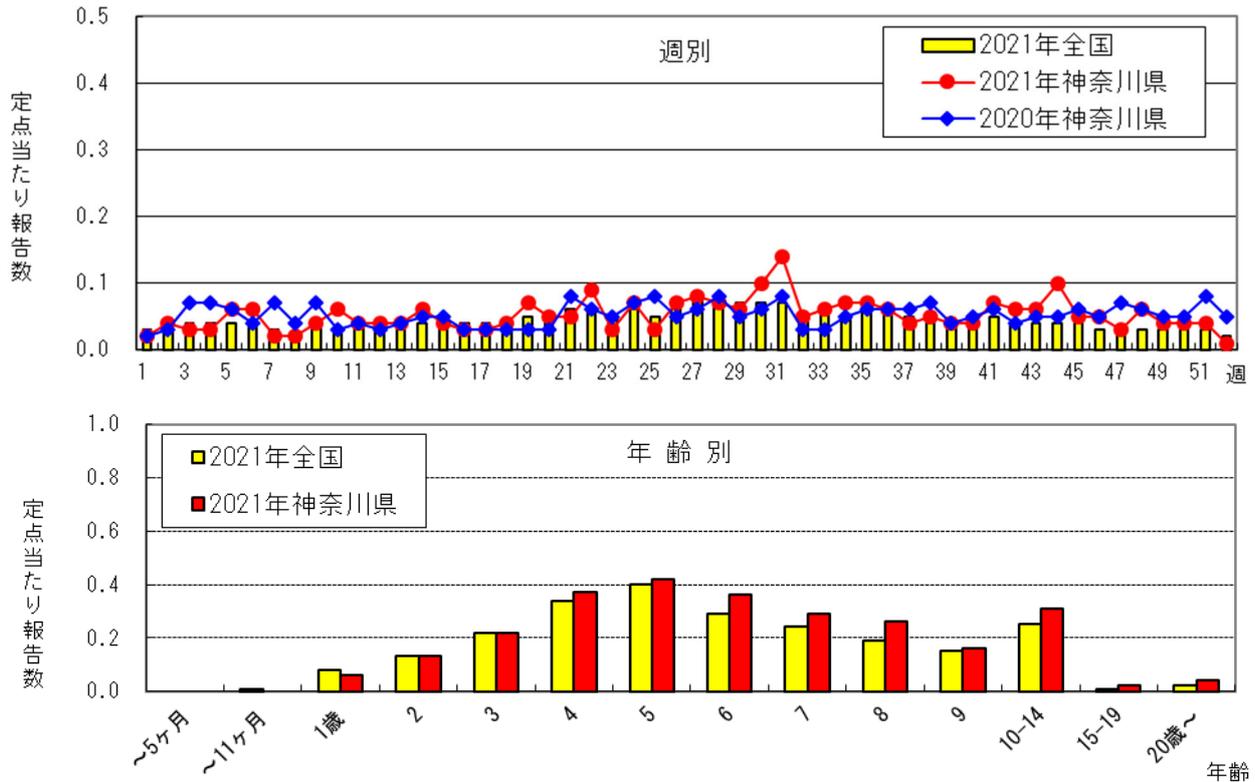
ヘルパンギーナ

2021年は秋から冬に報告数の増加がみられた。年齢別では、1歳を中心に報告された。



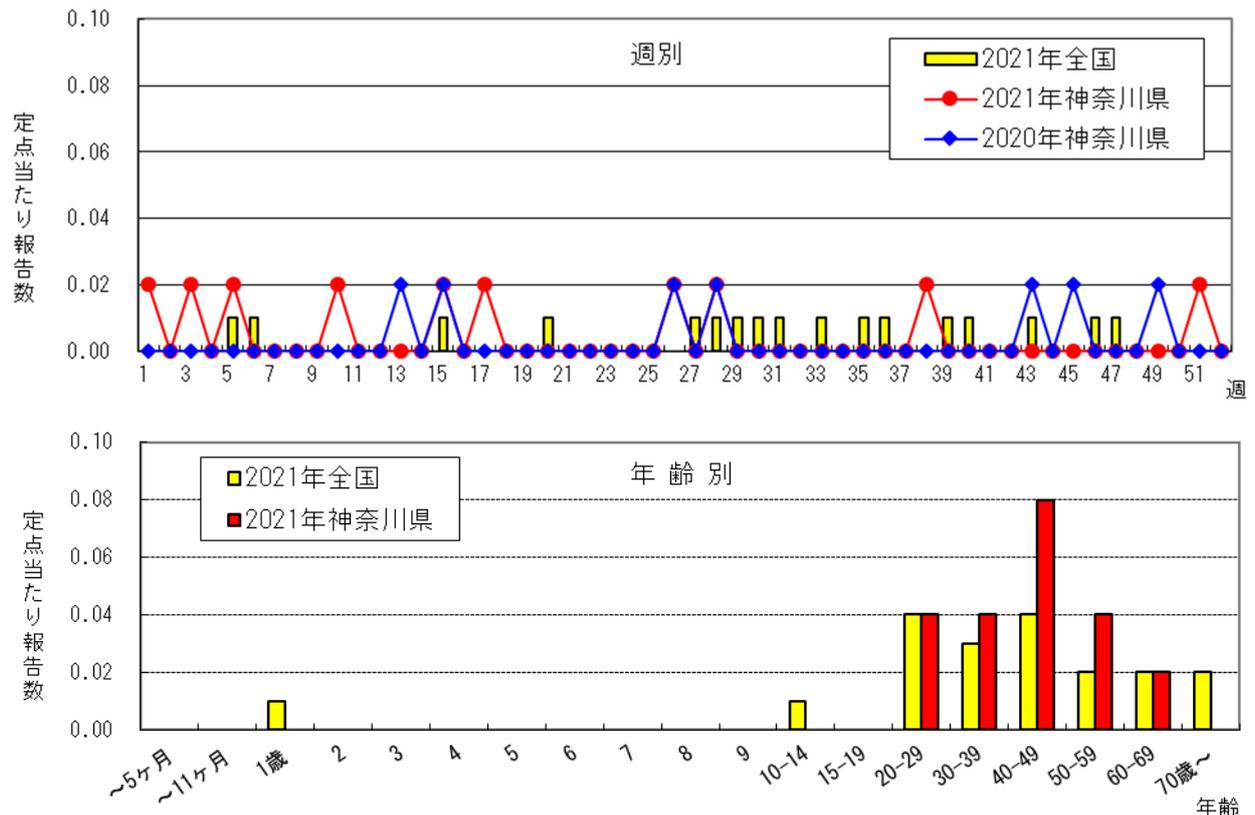
流行性耳下腺炎

2021年は、前年に引き続き一年を通じて報告は少なかった。年齢別では、5歳を中心に報告された。



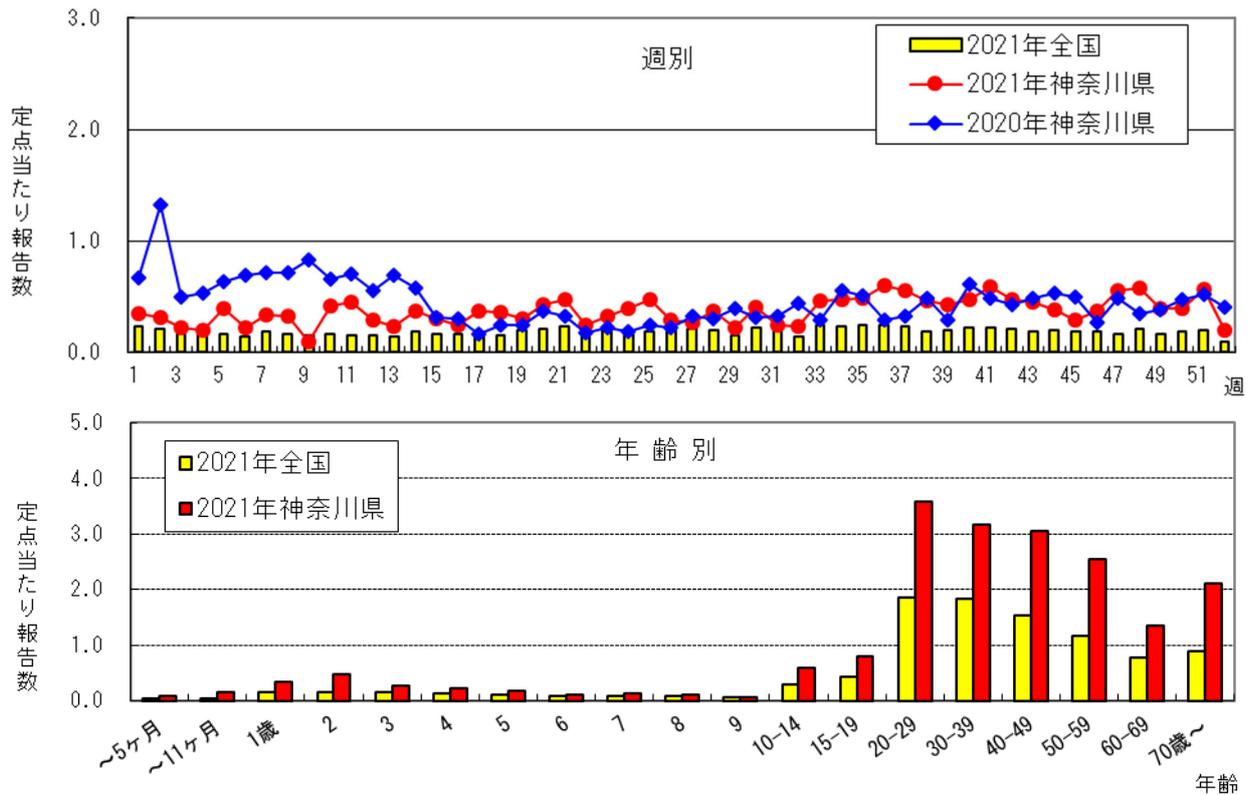
急性出血性結膜炎

2021年は、前年に引き続き一年を通じて報告は少なく、大きな変化はなかった。年齢別では、40歳代を中心に報告された。



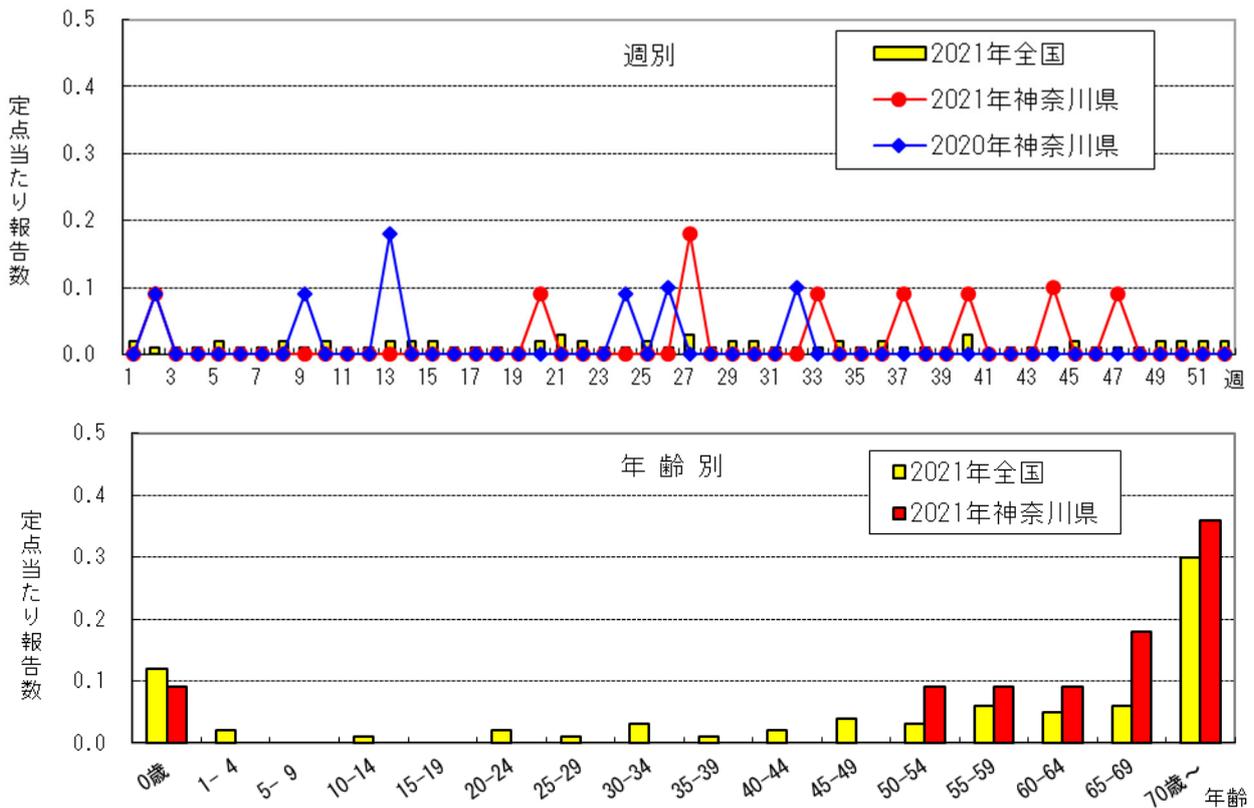
流行性角結膜炎

2021年は、前年と同様、報告数は少なかった。年齢別では、20歳代を中心に多く報告された。



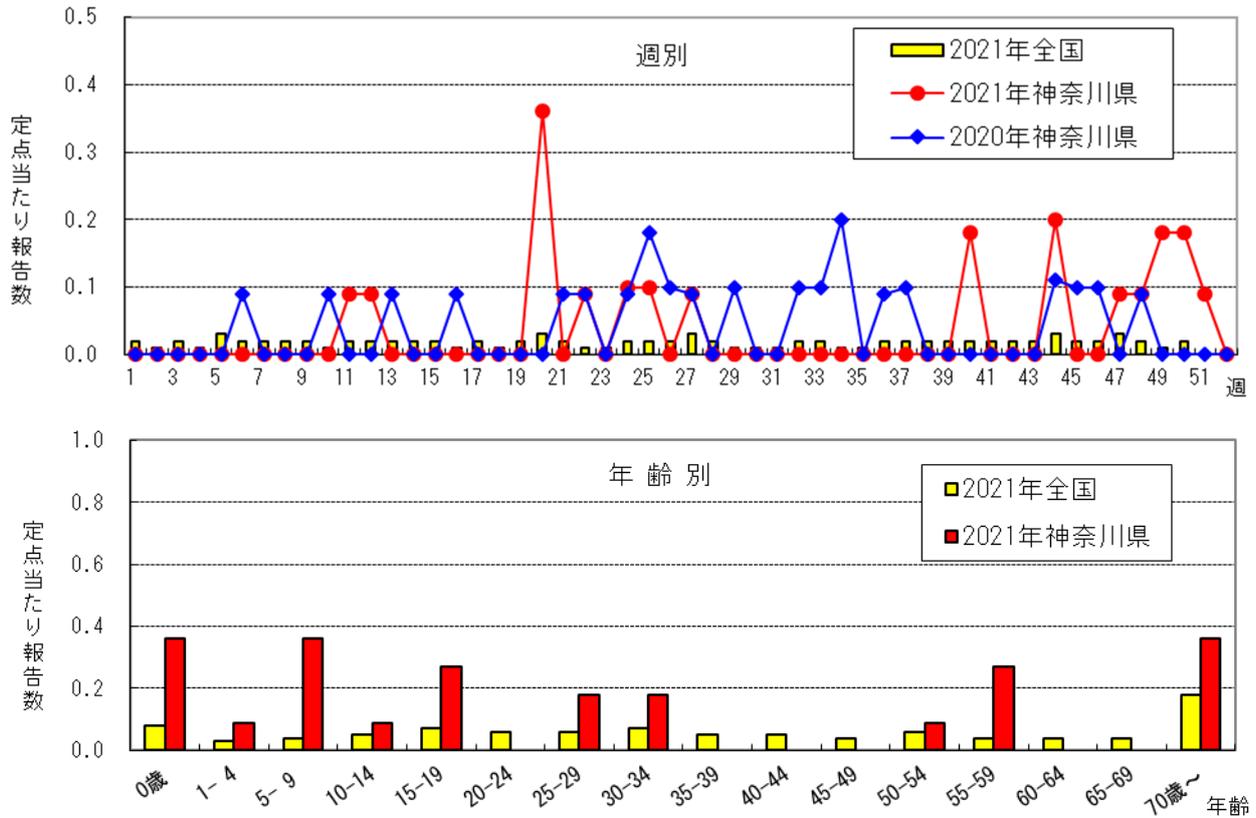
細菌性髄膜炎

2021年は、前年に引き続き一年を通じて報告数はとても少なかった。年齢別では、70歳以上に多くみられた。



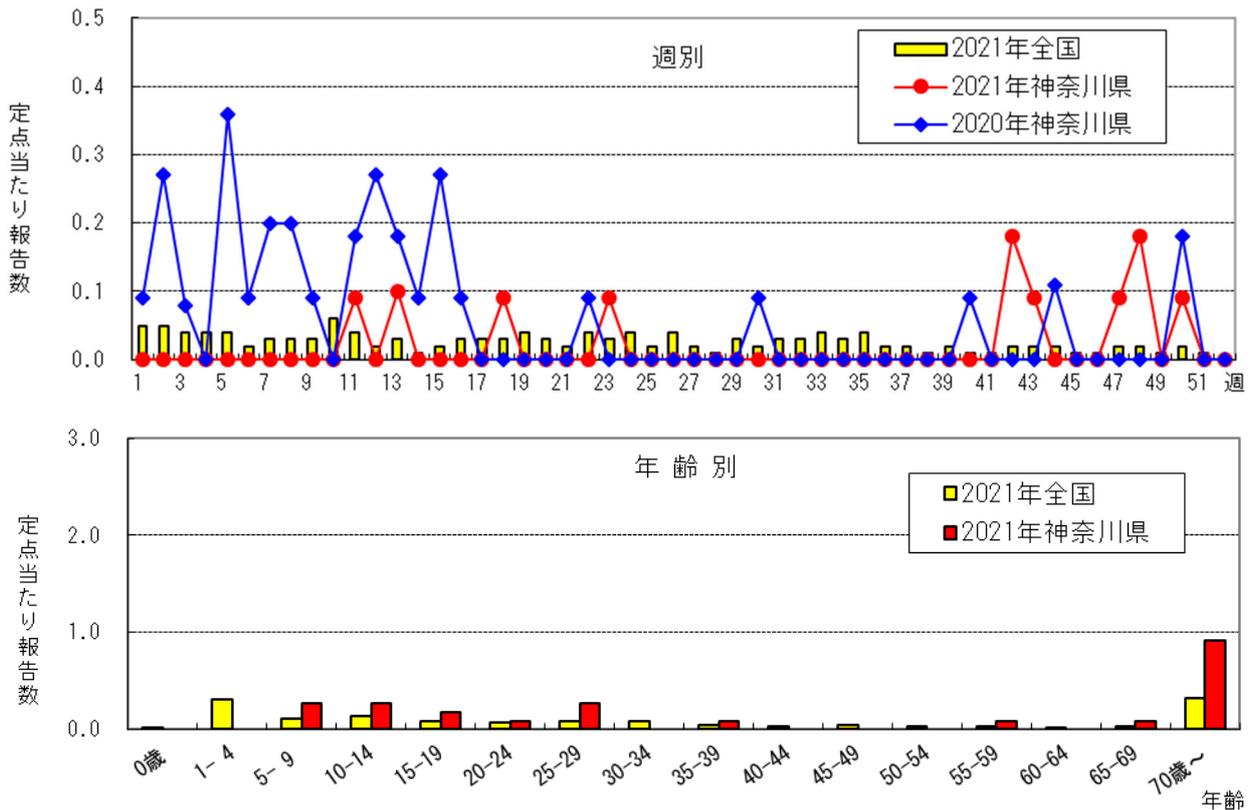
無菌性髄膜炎

2021年は、前年と変わらず報告数はとても少なかった。



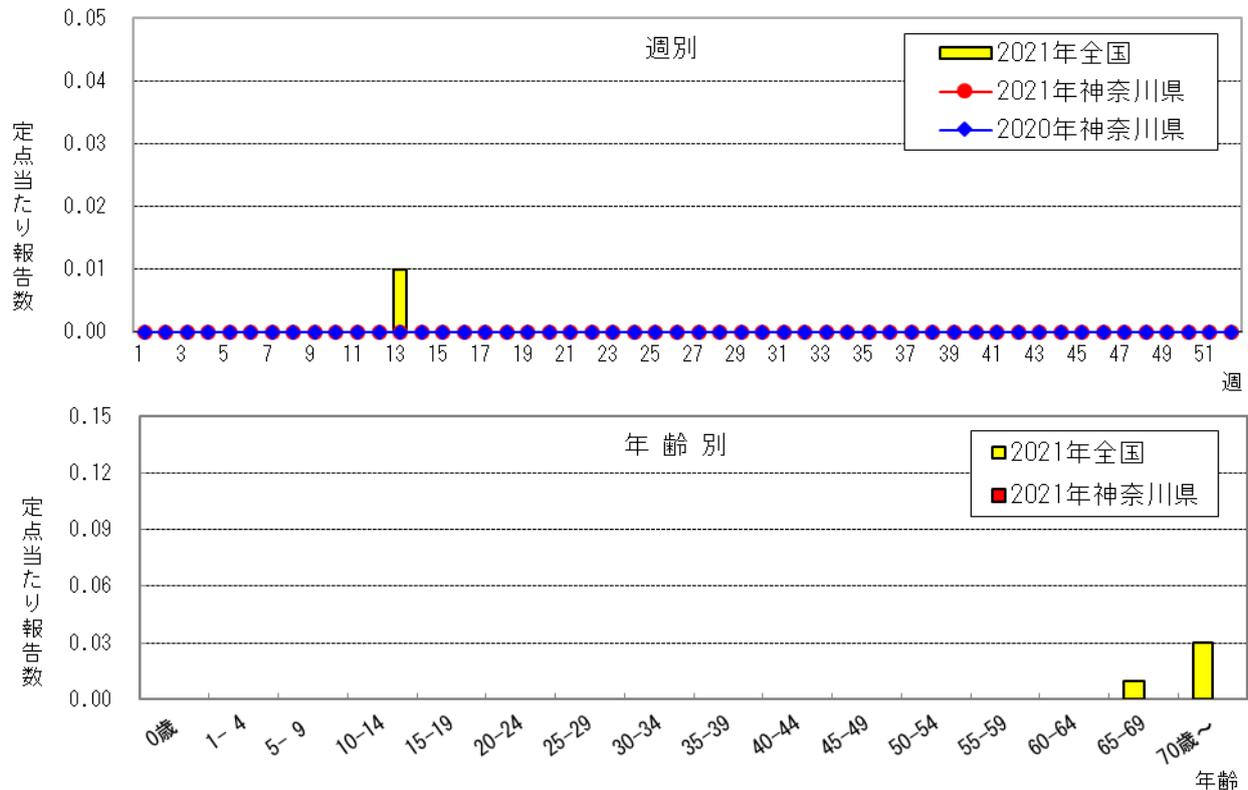
マイコプラズマ肺炎

前年も少なかったが、2021年はさらに報告数が減少した。年齢別では、70歳以上に多くみられた。



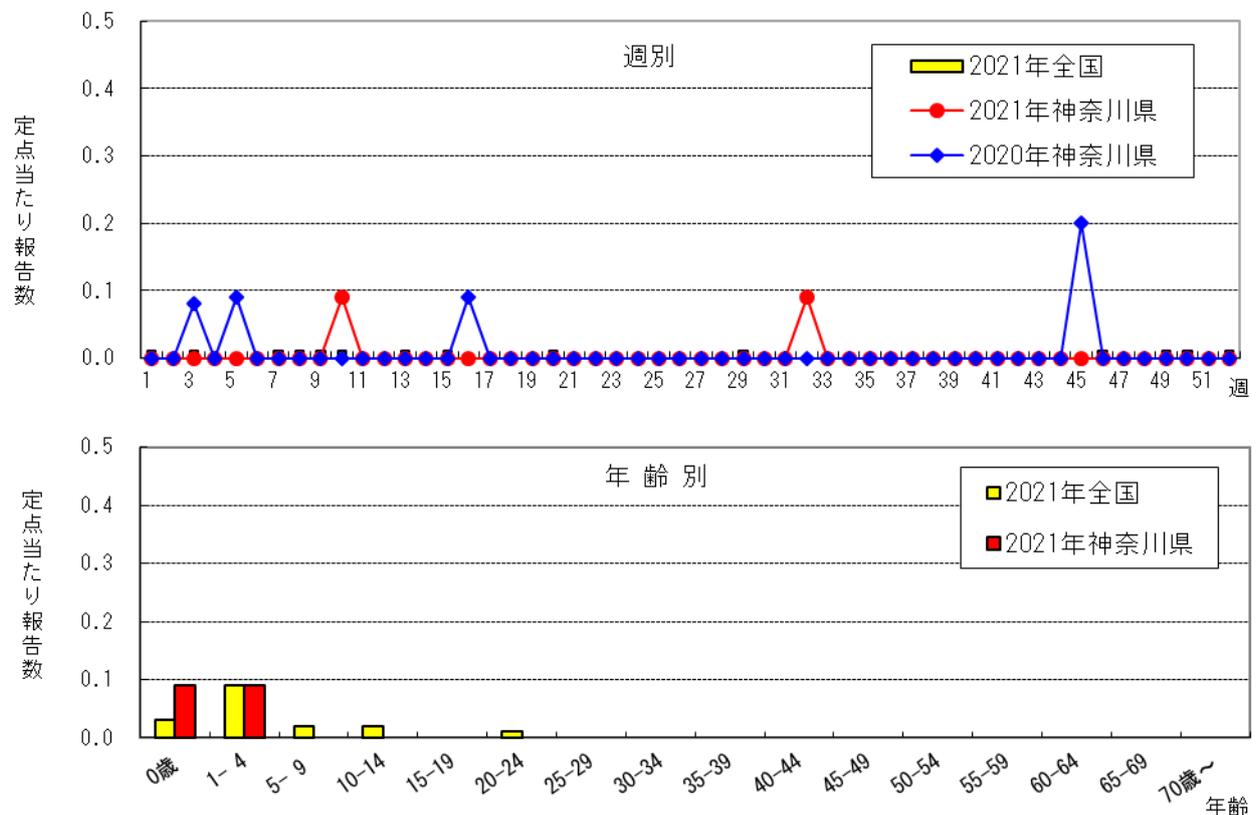
クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2021年は報告がなかった。



感染性胃腸炎（ロタウイルス）

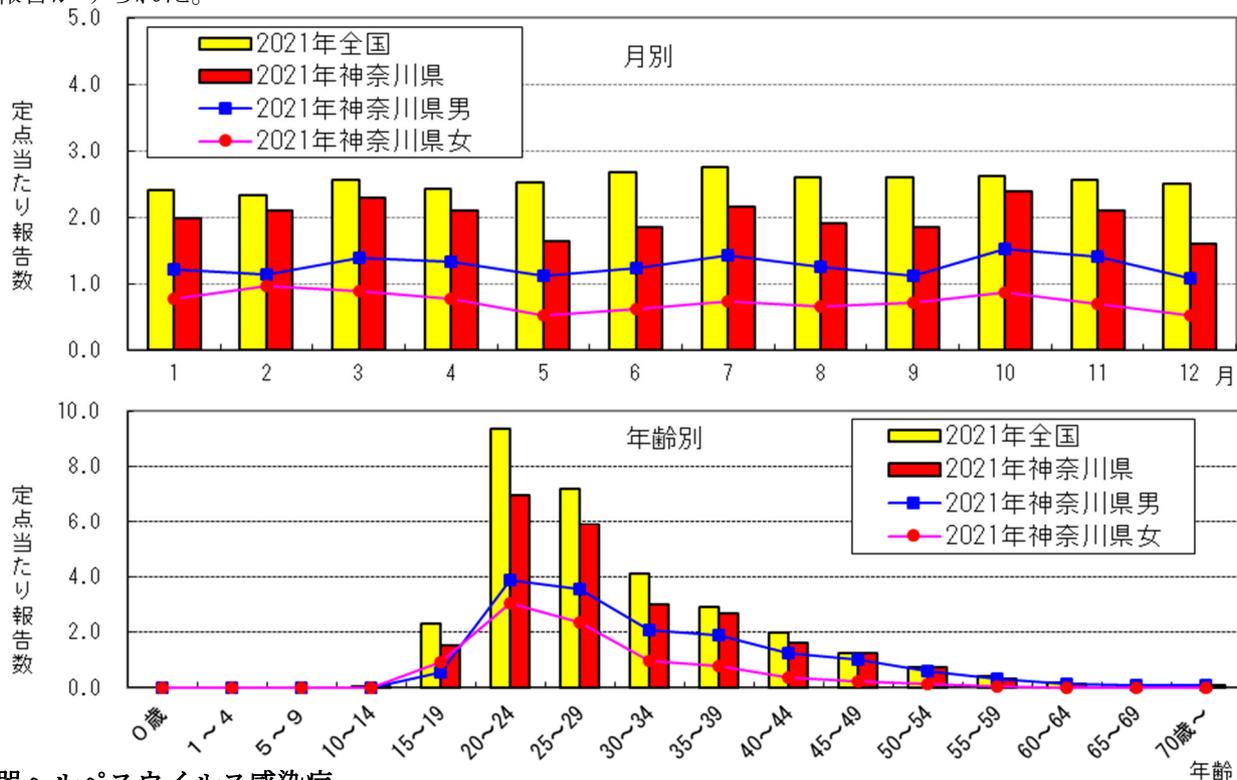
2021年は報告がほとんどなかった。年齢別では、0～4歳で報告された。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

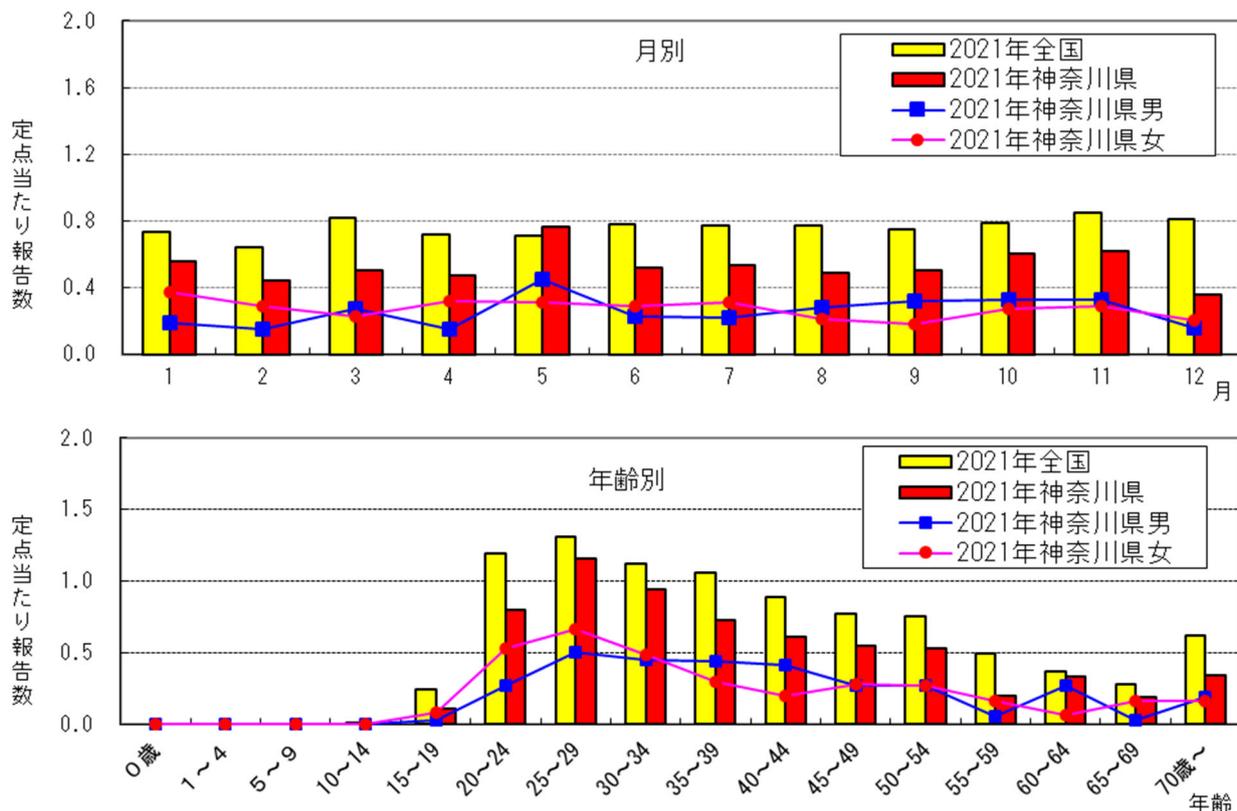
性器クラミジア感染症

全国と比べて神奈川県の報告数は全体に少ない傾向だった。年齢別では、男女ともに 20 歳代を中心に報告がみられた。



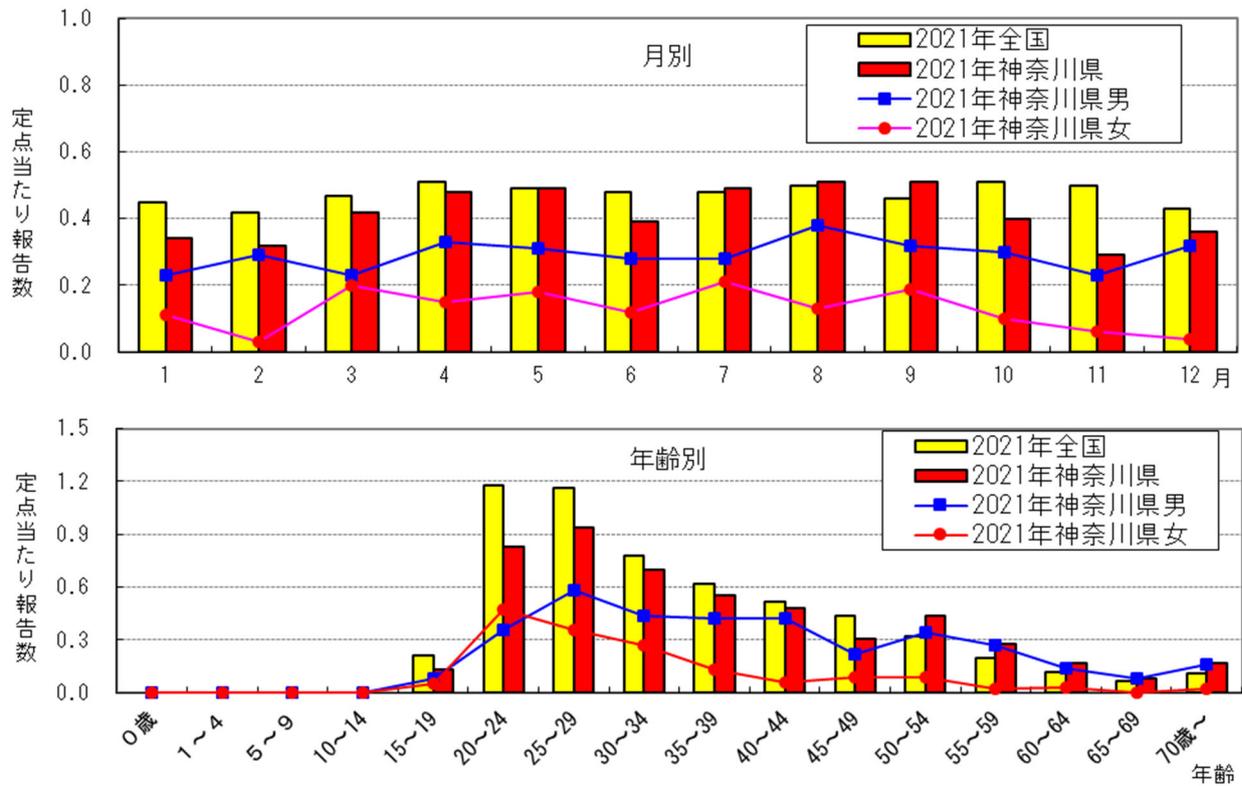
性器ヘルペスウイルス感染症

全国と比べて神奈川県の報告数は全体に少ない傾向だった。年齢別では、男性は 20 歳代後半から 40 歳代前半にかけて、女性は 20 歳代後半を中心に、幅広い年齢層で報告された。



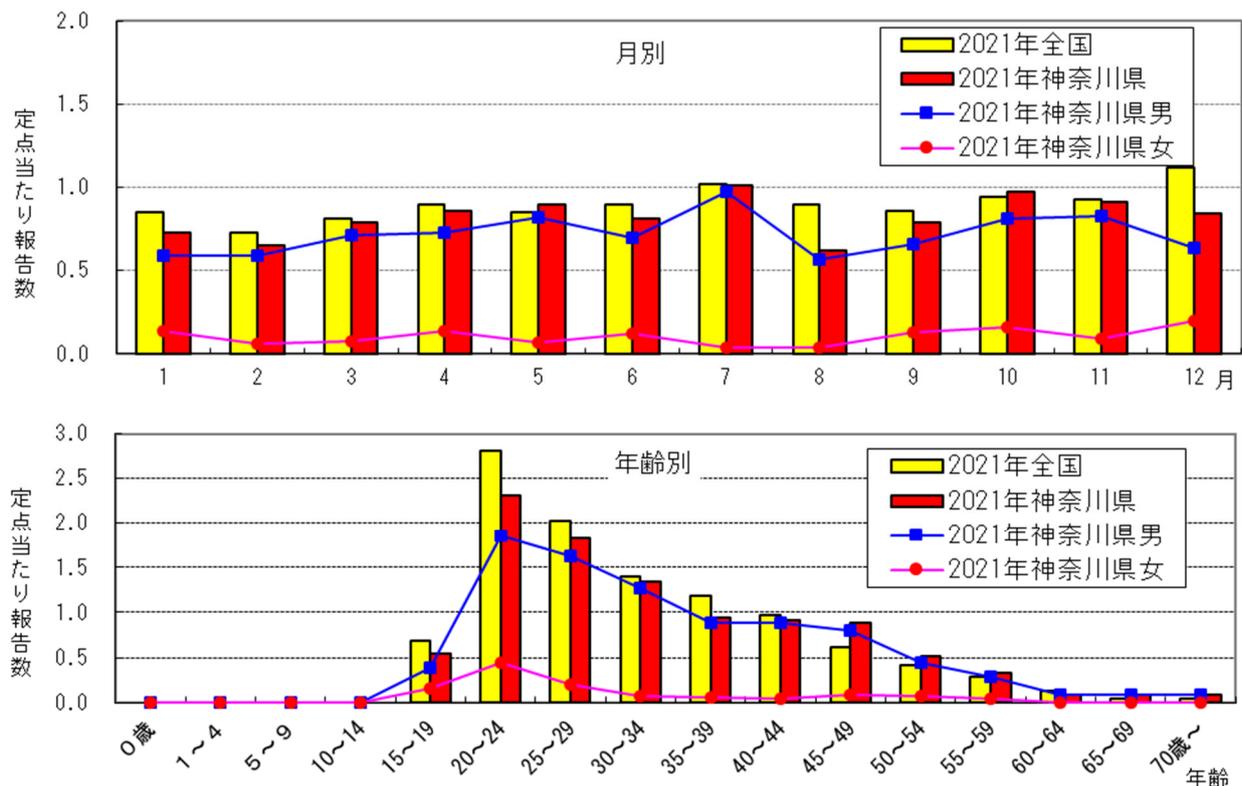
尖圭コンジローマ

全国と比べて神奈川県は報告数は全体に少ない傾向だった。年齢別では、男性は 20 歳代後半を中心に、女性は 20 歳代前半を中心に報告された。



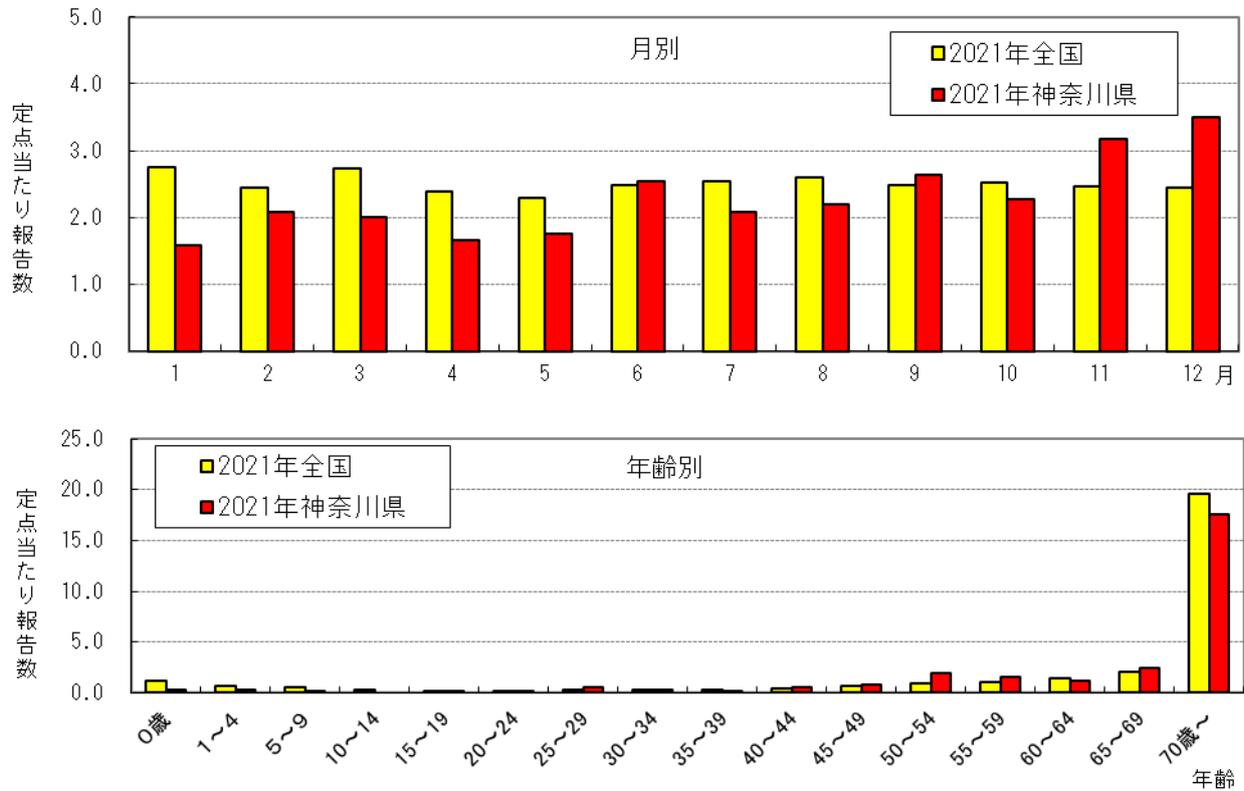
淋菌感染症

全国と比べて神奈川県は報告数は全体に少ない傾向だった。年齢別では、男性が 20 歳代前半をピークに 40 歳代まで幅広く報告された。



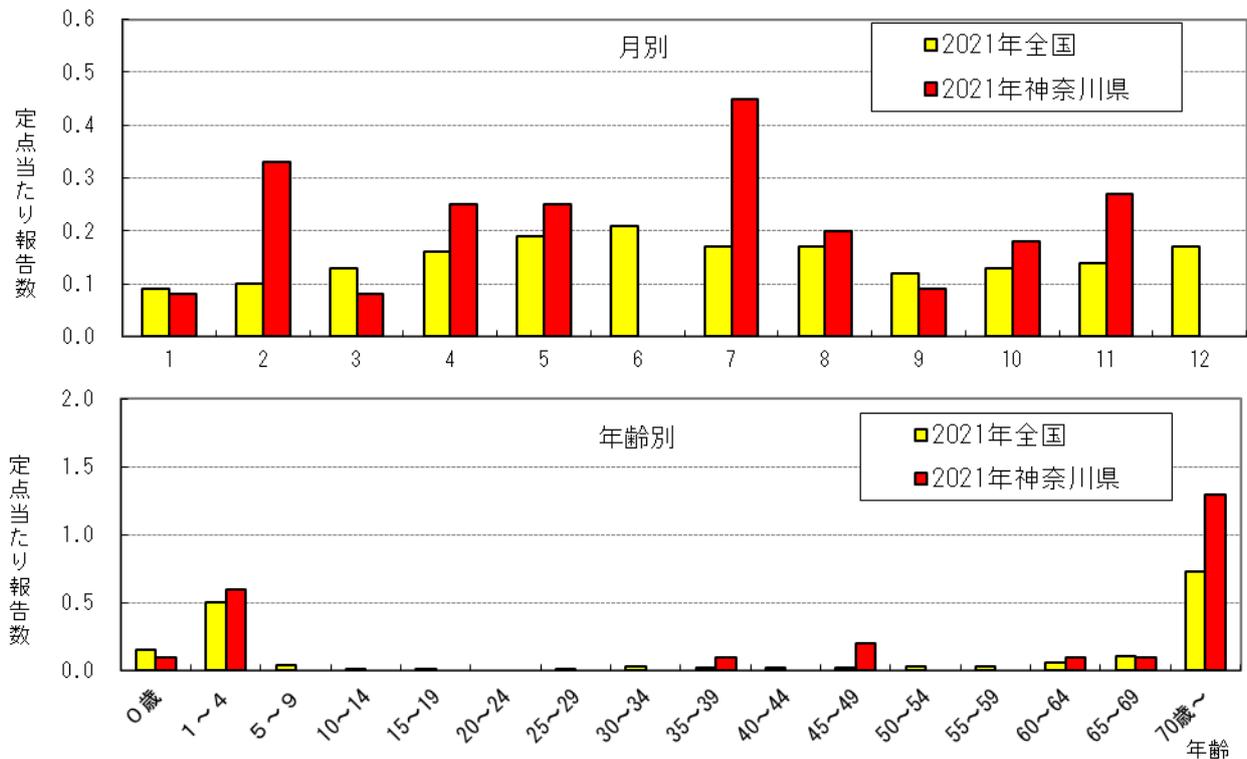
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

全国より神奈川県の実報告数は少なかった。年齢別では、70歳以上に多く報告された。



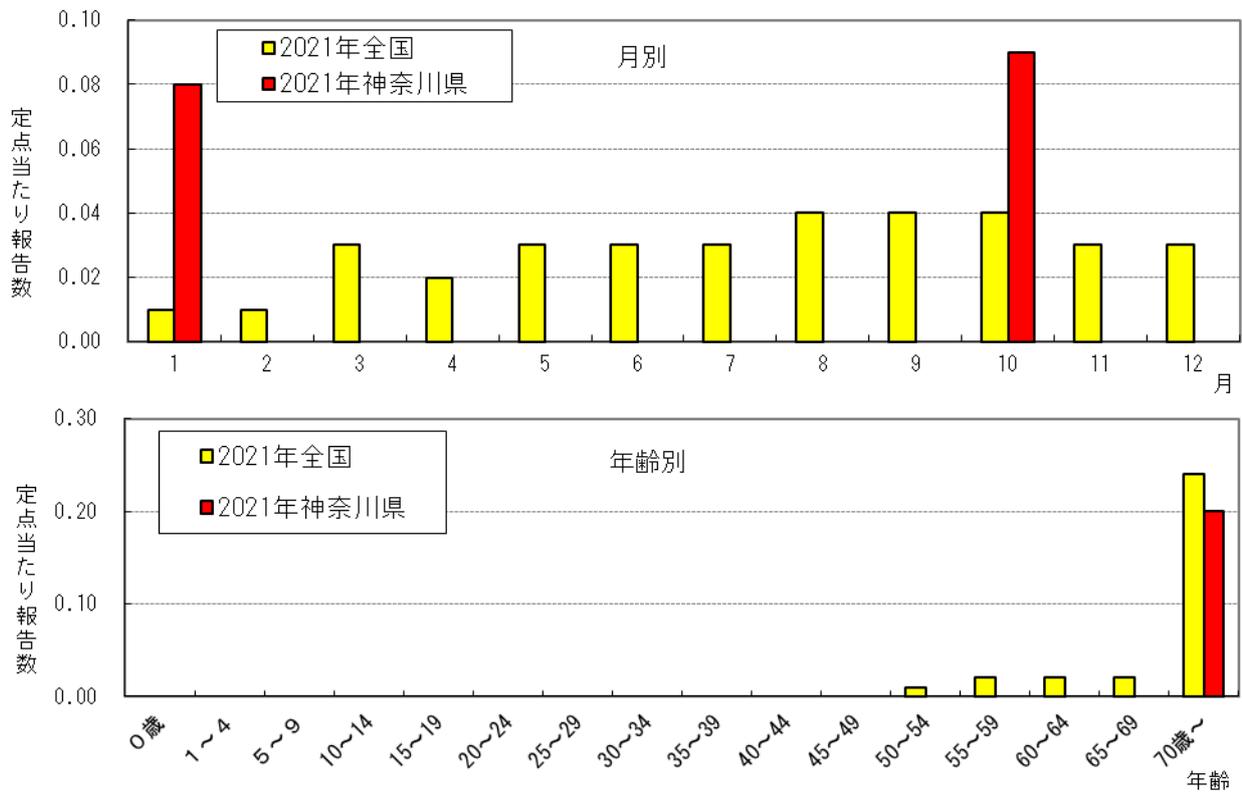
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

7月、2月に多く報告された。年齢別では、70歳以上に多く報告された。



薬剤耐性緑膿菌感染症

月別では1月と10月に報告があり、年齢別では、70歳以上に報告があった。



3 トピックス

(1) 新型コロナウイルス感染症について

(令和3年度神奈川県感染症発生動向調査解析委員会報告資料より一部抜粋)

新型コロナウイルス感染症は、国内では2020年1月に初めて感染者が確認され、同年2月より感染症に基づく指定感染症となった。県内では2020年1月16日に1例目が確認された。2021年は第3波から第5波の3回の流行がみられた。第4波はアルファ株、第5波はデルタ株が中心であった。

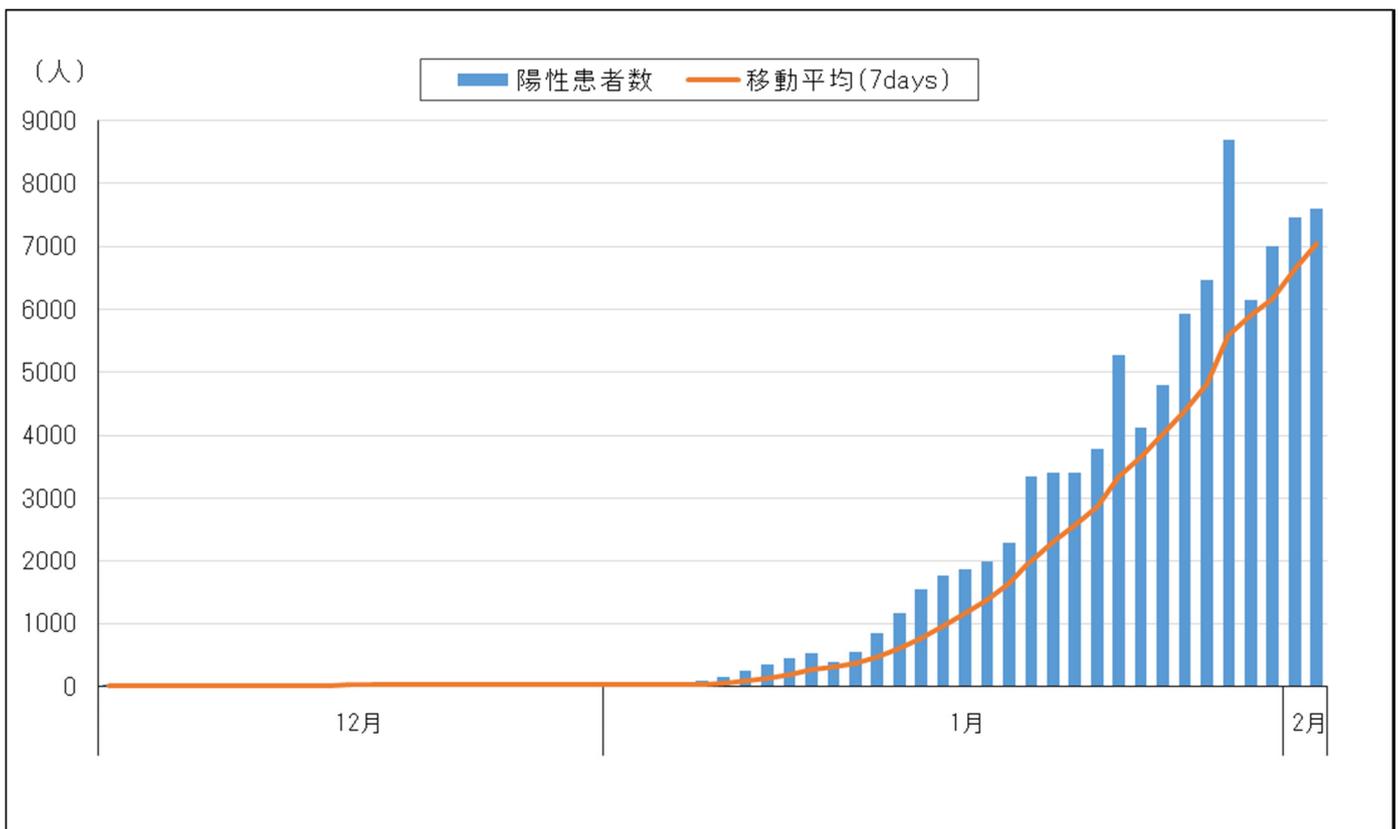
2022年に入りオミクロン株中心の急拡大が起きている(第6波)。

第6波では10歳未満、10歳代の感染者数が増加している。

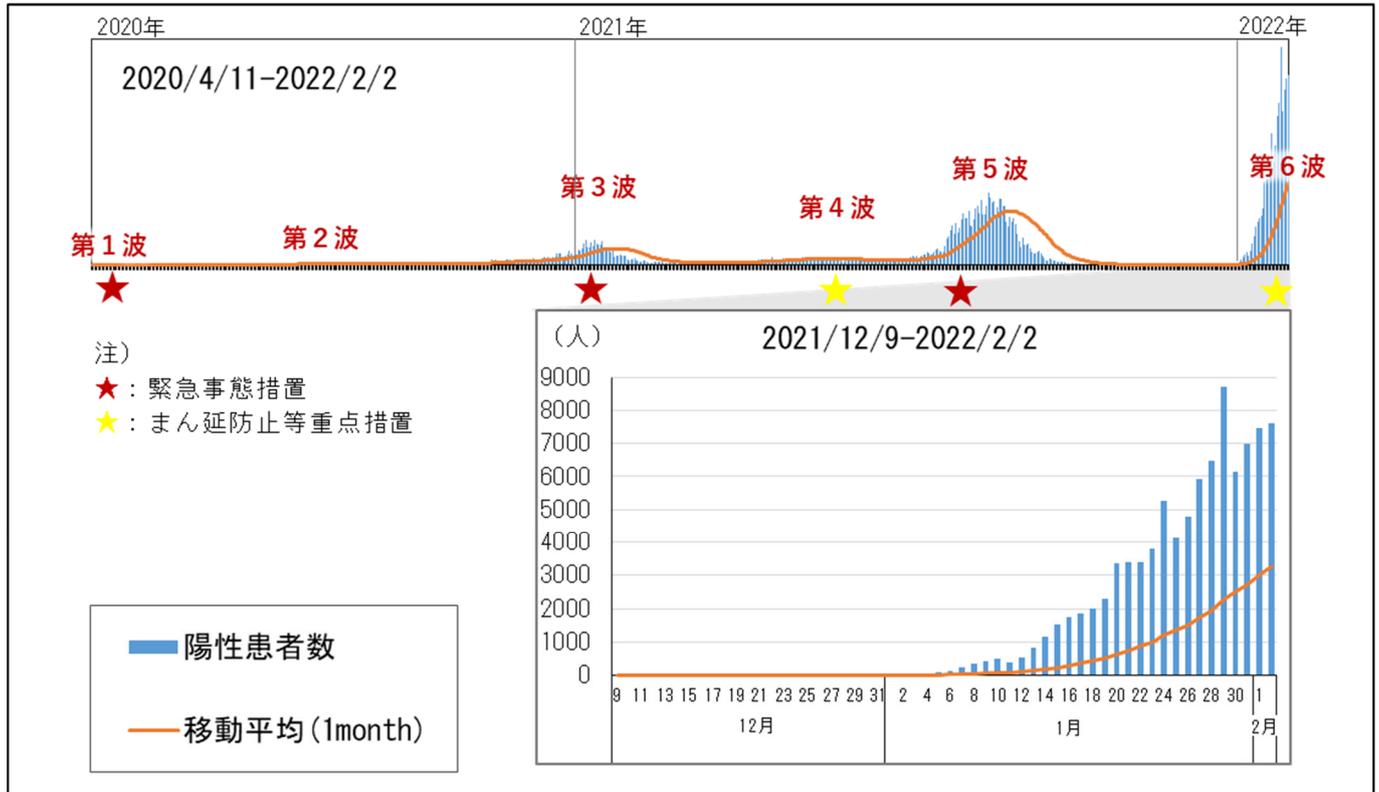
※新型コロナウイルス感染症については2020年の国内発生から複数回の流行を繰り返し、いまだ終息が見通せない状況であるため2021年のみでなく、2020年、2022年についても記載する。

ア 神奈川県の新型コロナウイルス感染症の日別報告数と移動平均線(7days)

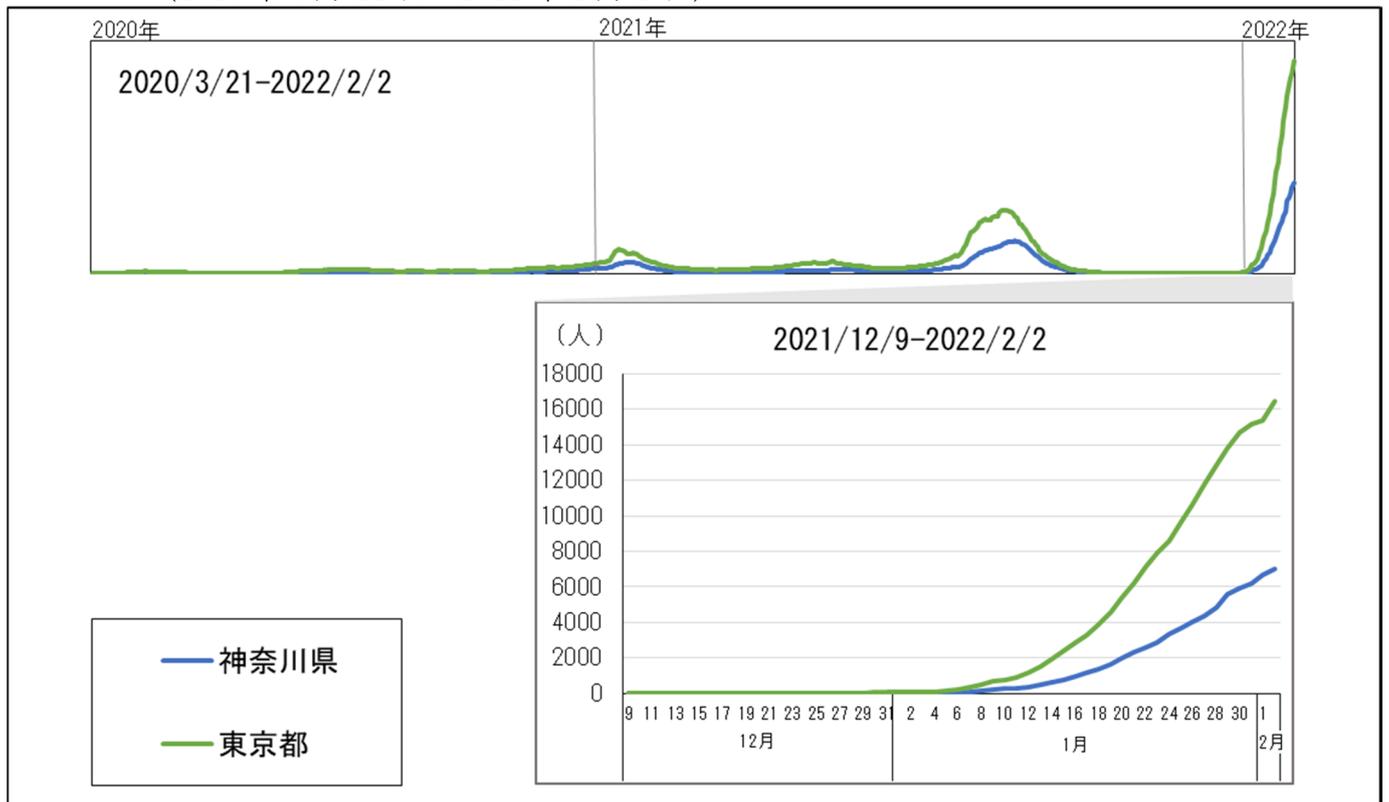
(2021年12月2日～2022年2月2日 神奈川県)



イ 神奈川県の新型コロナウイルス感染症の日別報告数と移動平均線（1month）
 （2020年4月11日～2022年2月2日 神奈川県）



ウ 神奈川県の新型コロナウイルス感染症報告数の移動平均(7days)
 東京都と神奈川県の比較
 （2020年3月21日～2022年2月2日）



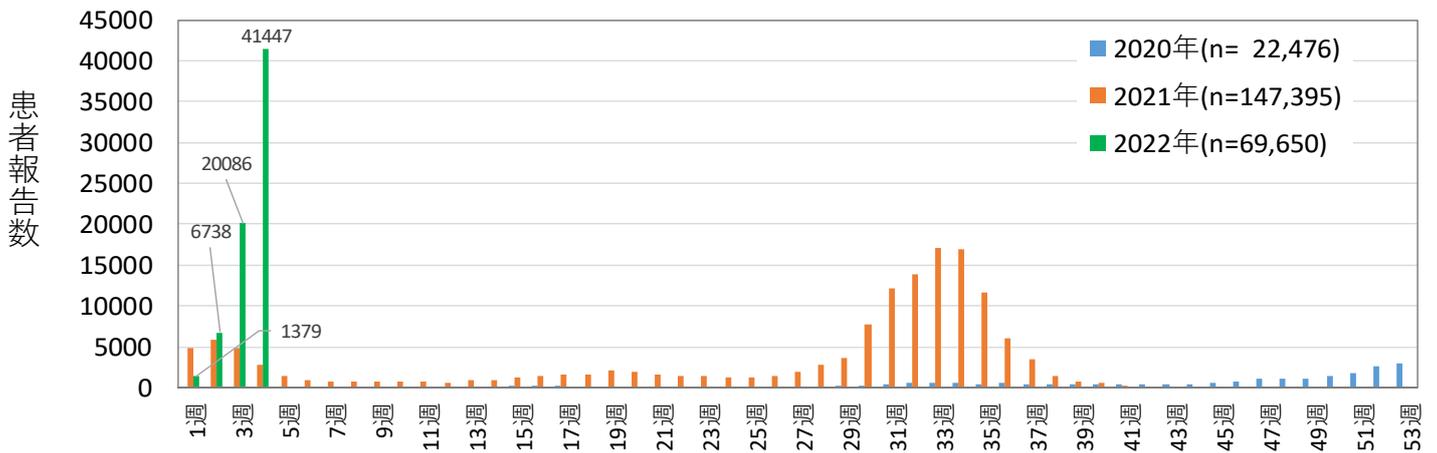
エ 2020年、2021年 神奈川県の新型コロナウイルス感染症報告

(ア) 神奈川県の新型コロナウイルス感染症患者の週別報告数

新型コロナウイルス感染症の週別患者報告数

2020年第3週～2022年第4週 神奈川県

(2020年1月19日～2022年1月30日)

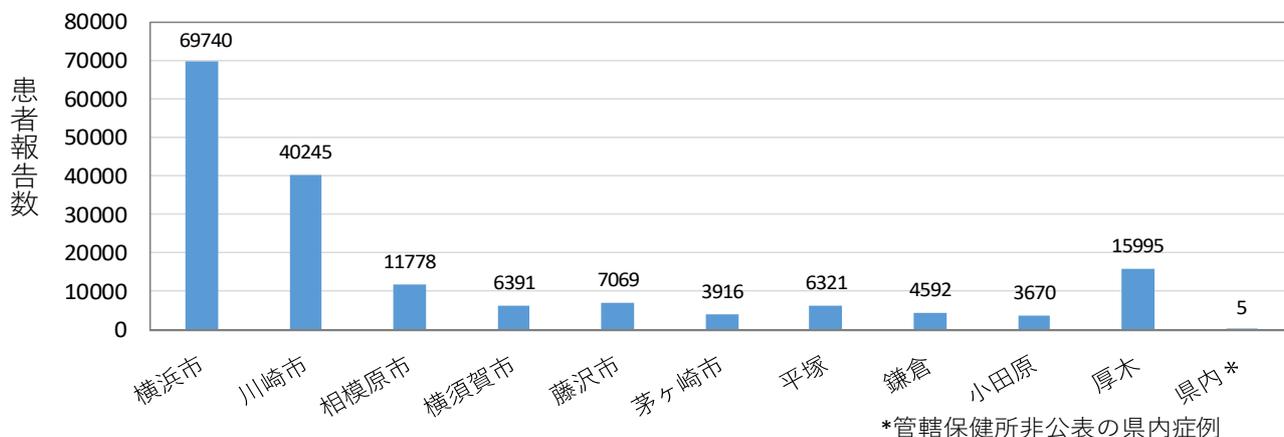


(イ) 神奈川県の新型コロナウイルス感染症患者の保健所別報告数

2020年第3週～2021年第51週 神奈川県

(2020年1月16日～2021年12月26日)

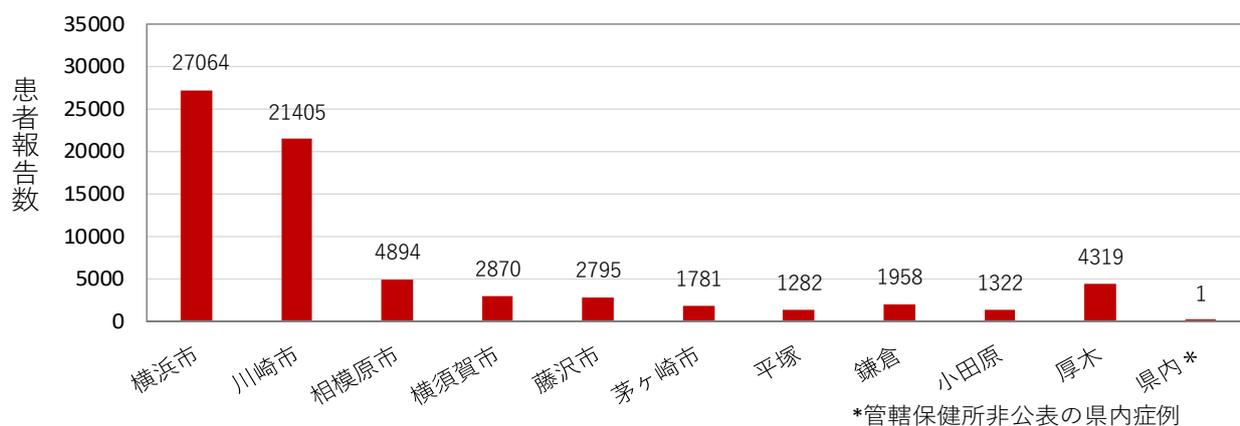
n=169,722



2022年 神奈川県

(2022年1月1日～2022年1月30日)

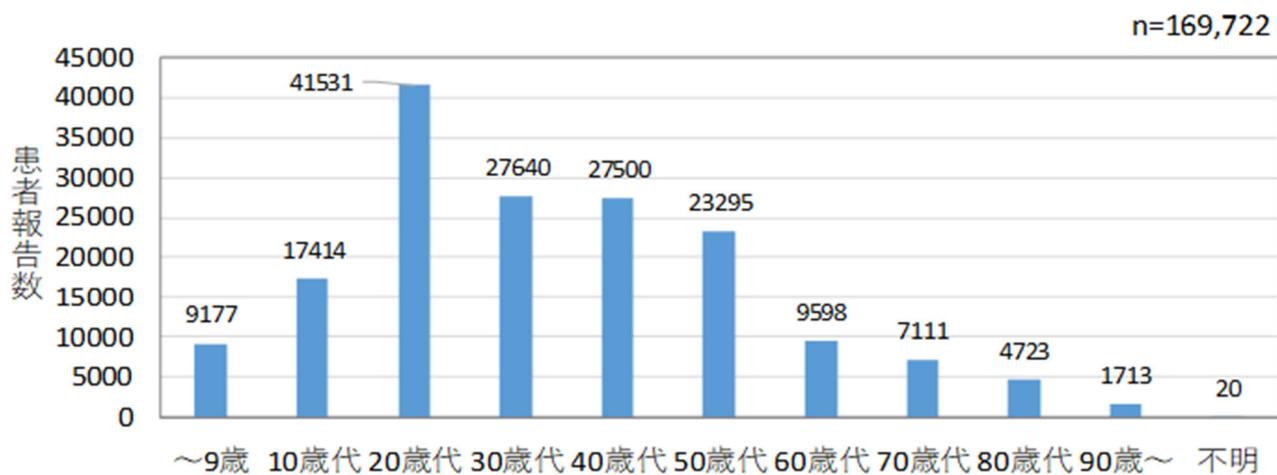
n=69,691



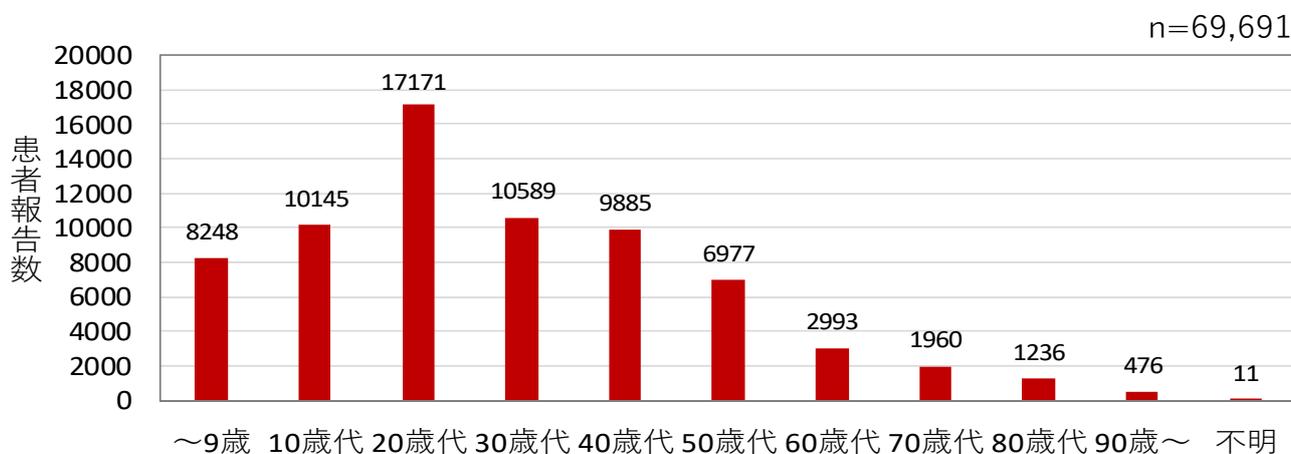
機関名	所管市町村
平塚保健福祉事務所	平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町
小田原保健福祉事務所	小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町
厚木保健福祉事務所	厚木市・海老名市・座間市・愛川町・清川村・大和市・綾瀬市
茅ヶ崎市保健所	茅ヶ崎市・寒川町

(ウ) 神奈川県の新型コロナウイルス感染症患者の年齢群別報告数

2020年第3週～2021年第51週 神奈川県
(2020年1月16日～2021年12月26日)



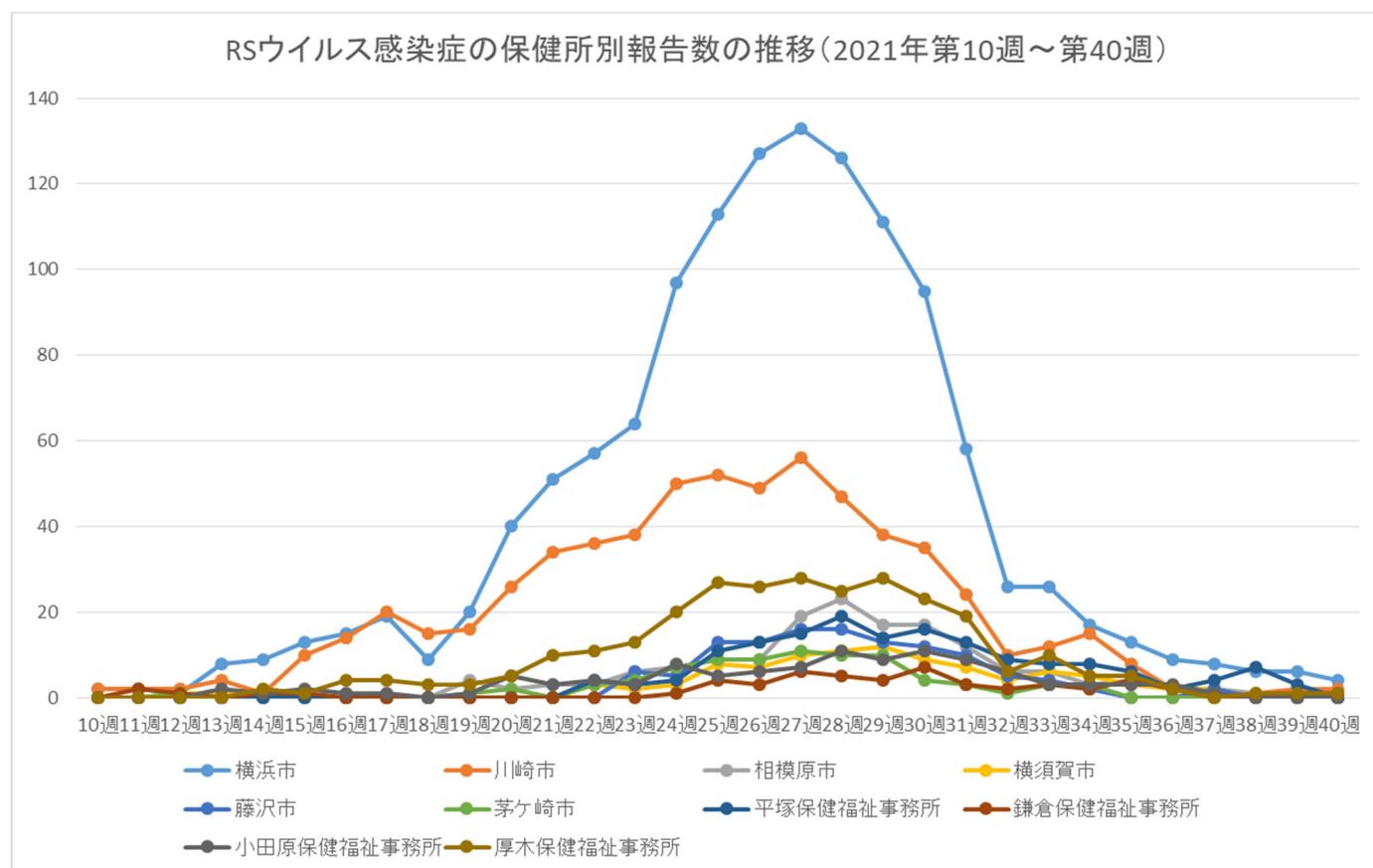
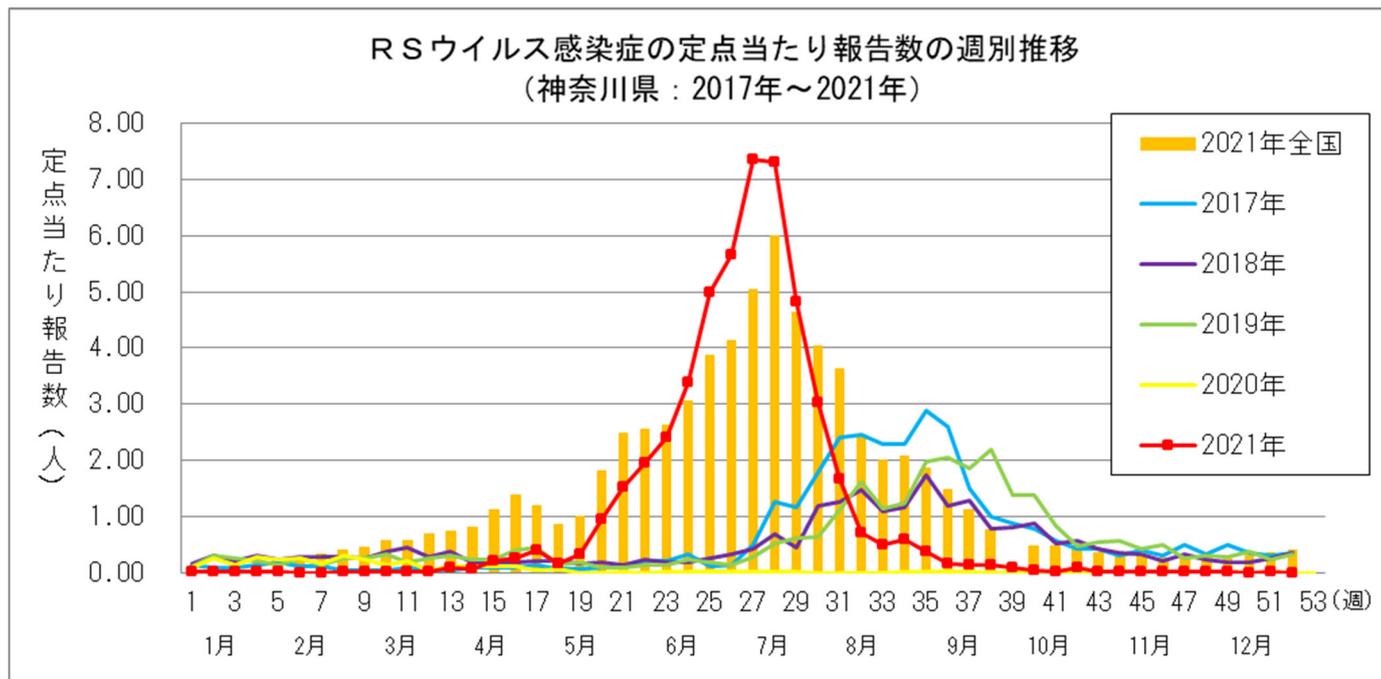
2022年 神奈川県
(2022年1月1日～2022年1月30日)



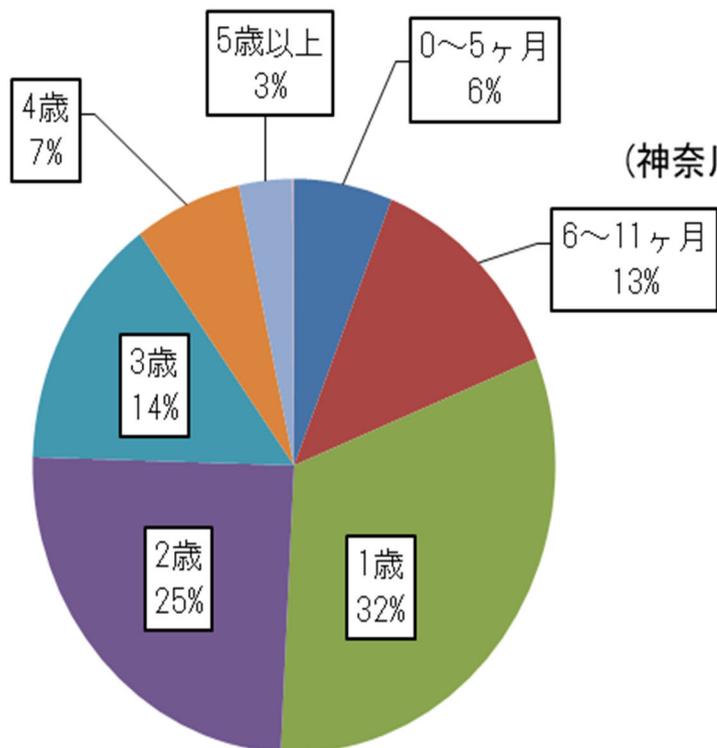
(2) RSウイルス感染症について

神奈川県内では2021年は2017年から2019年までに比べ流行の始期が早くなっており、全国の感染動向とはほぼ一致している。2021年の流行初期は横浜市、川崎市で報告がみられ、続いてその他の地域でも感染報告が出ている。

2021年の年齢別感染者数では3歳未満が全体の76パーセントを占めている。



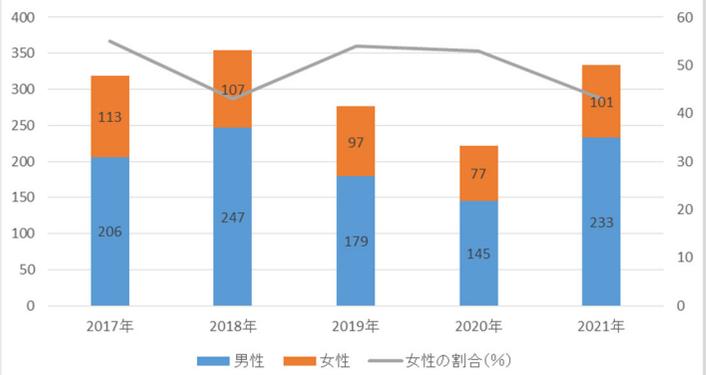
RSウイルス感染症
年齢群別累積報告割合
(神奈川県：2021年第1週～第52週)



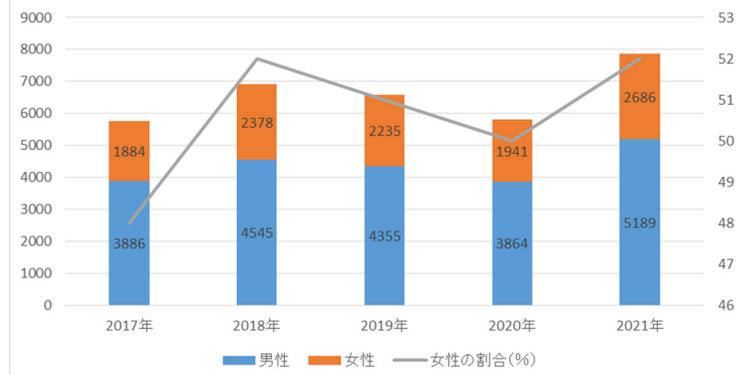
(3) 梅毒について

2019年、2020年と減少していた梅毒だが、2021年は全国、神奈川県ともに前年に比べ増加している。全報告数に占める女性の割合は全国では増加しているのに対して神奈川県では減少している。2019年から2021年の神奈川県内の年齢別割合は男女ともに大きな変化は認められない。女性の梅毒報告に占める6か月以内の性風俗産業従事歴ありは全国で減少傾向であるのに対し、神奈川県は増加傾向となっている。一方で男性梅毒報告に占める6か月以内の性風俗産業利用歴ありは神奈川県、全国ともに横ばいとなっている。神奈川県梅毒報告を病型別にみると、男性では早期顕症梅毒Ⅰ期が、女性では早期顕症梅毒Ⅱ期の割合が増加している。

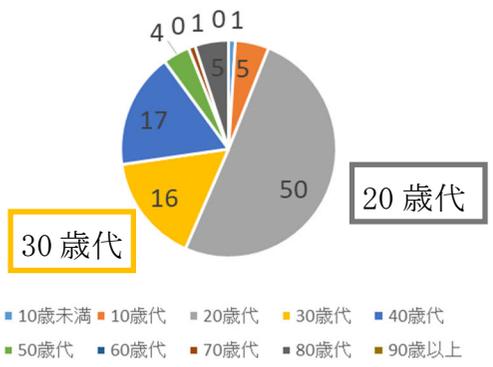
県内の男女別梅毒報告数の推移と全報告数に占める女性割合の推移



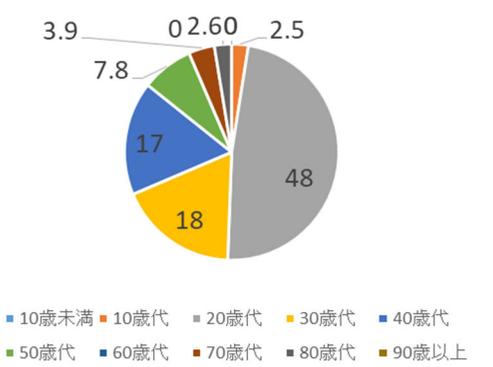
全国の男女別梅毒報告数の推移と全報告数に占める女性割合の推移



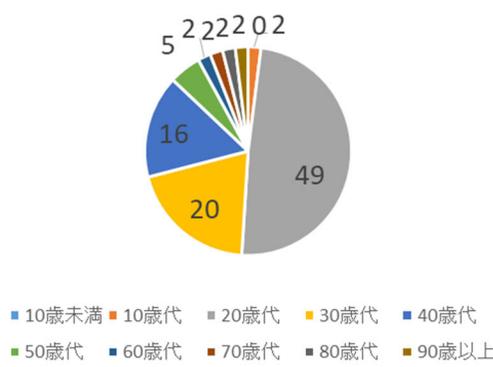
女性：2019年梅毒の年齢別割合(%)



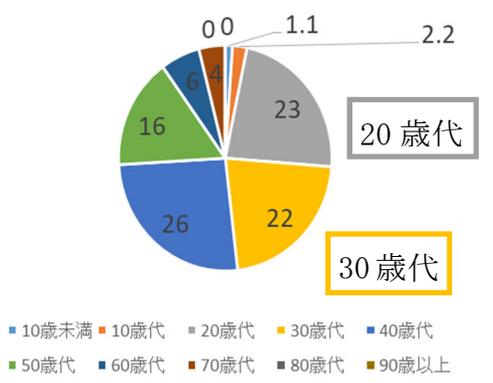
女性：2020年梅毒の年齢別割合(%)



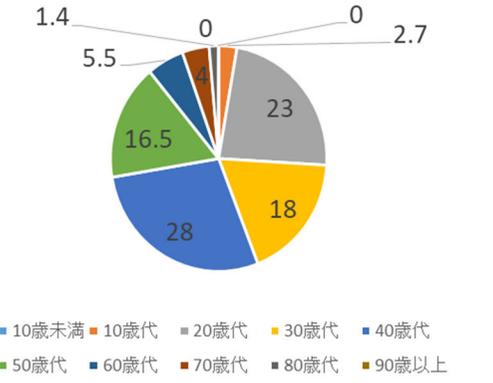
女性：2021年梅毒の年齢別割合(%)



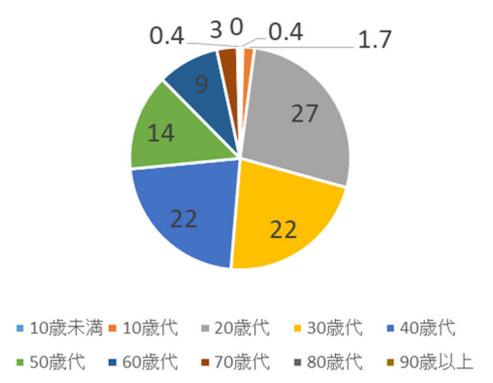
男性：2019年梅毒の年齢別割合(%)



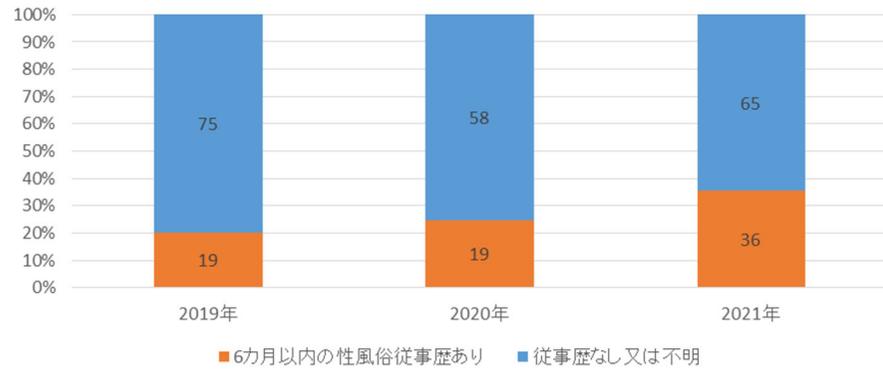
男性：2020年梅毒の年齢別割合(%)



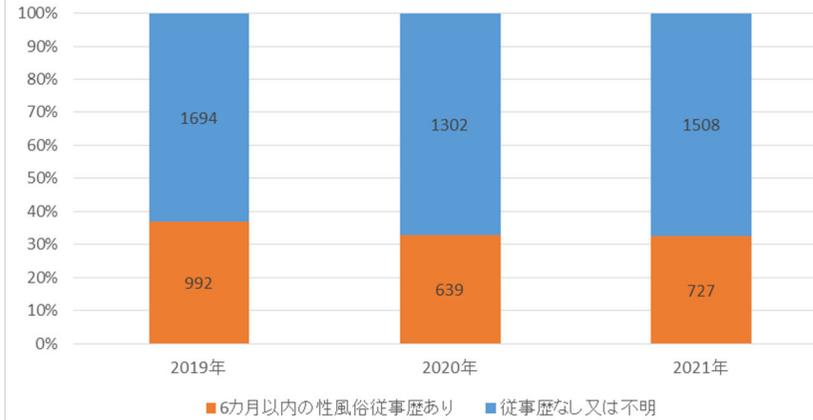
男性：2021年梅毒の年齢別割合(%)



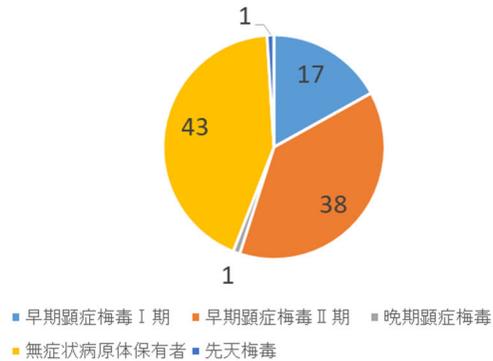
神奈川県内
女性梅毒報告における性風俗従事歴ありの割合の推移



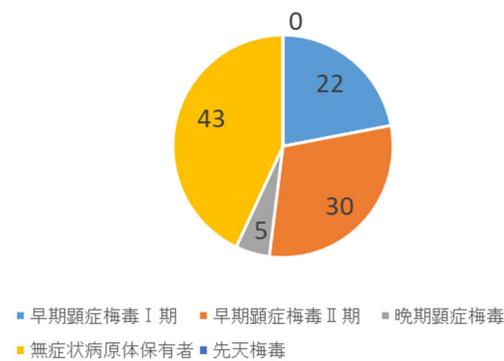
全国
女性梅毒報告における性風俗従事歴ありの割合の推移



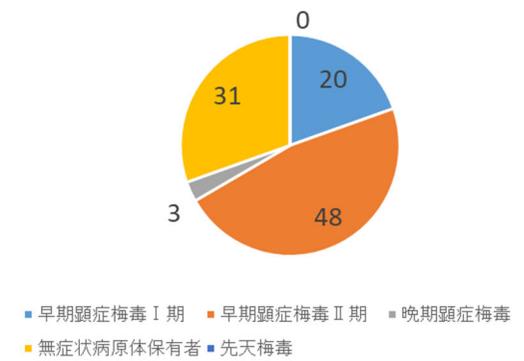
女性：2019年梅毒病型別割合 (%)



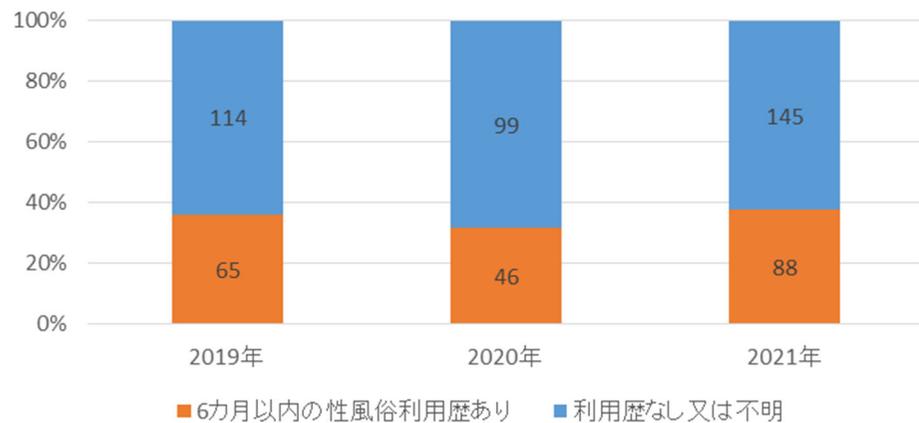
女性：2020年梅毒病型別割合 (%)



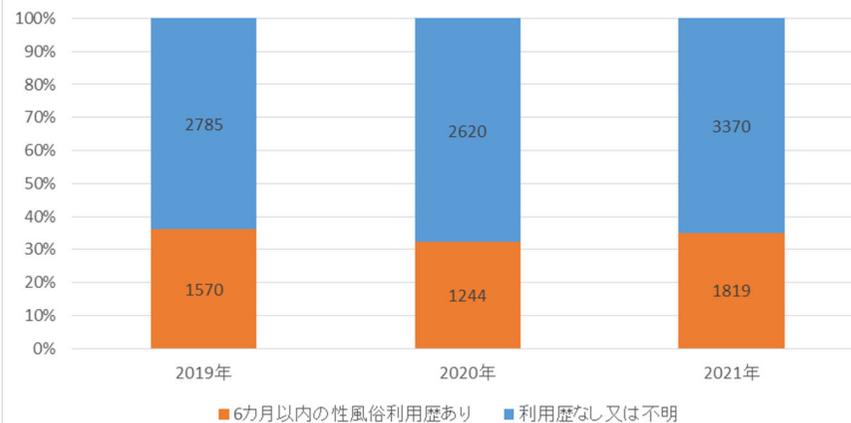
女性：2021年梅毒病型別割合 (%)



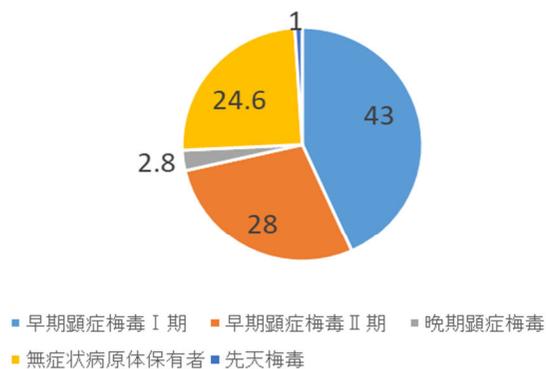
神奈川県内 男性梅毒報告における
性風俗利用歴ありの割合の推移



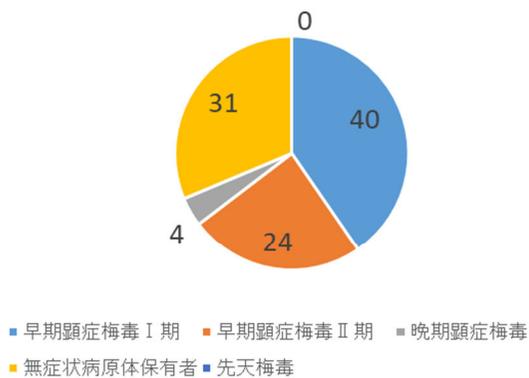
全国 男性梅毒報告における性風俗利用歴ありの割合の
推移



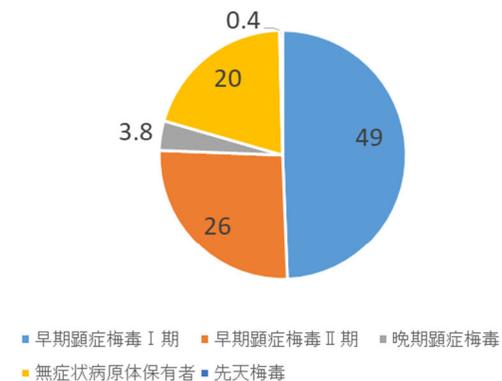
男性：2019年 梅毒病型別割合(%)



男性：2020年 梅毒病型別割合(%)



男性：2021年 梅毒病型別割合(%)



全数把握疾患保健所別累積報告数

資料

【令和4（2022）年1月12日現在 感染症発生動向調査による】

	二類		三類感染症		四類感染症										五類感染症																					
	結核		細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	つつが虫病	デング熱	ボツリヌス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん		
2020年総数	1153	2345	3	173	1	1	39	7	1	27	1	3	112	1	54	17	122	2	32	4	51	65	2	22	102	26	219	5	5	7	79	8	1			
2021年総数	1105	2378	254	165	42	108	61	4	1	17	2	1	1	57	17	122	1	17	7	40	67	3	12	91	18	333	12	5	1	21	1					
横浜市	450	1035		165			27	1			1		42	18	8	50		3	4	20	32		6	39	4	151	7	3		3	1					
川崎市	227	490		47			15	2			1		21	14	6	29		1	12	4	12		1	16	5	64	2	1		6						
相模原市	94	162		7			4		1				6	7	1	12		1	1	6			1	7	1	12				1						
県域	334	691	35	35	39	15	15	1	1	16	15	1	1	18	2	31	2	1	15	17	1	4	29	8	106	3	1	1	11							
横須賀市	58	107	1	1	6	5							6	1	1	3		3	4	2		1	8	2	14	1			1							
藤沢市	42	113	12	12	6	1	1		1				6	2	12			1	1	2	1	2	4	2	21	1	1			1						
茅ヶ崎市	46	58	1	1	1	1							1	3					1			1			4											
平塚	28	59	5	5	5	2							5	1	2				1			3			11	1										
秦野	28	70		2		3	2			3			5	3	1	5			6	5		1	1	1	10											
鎌倉	32	58	1	1	5								5	2	3	3			1			3			7					1						
三崎	4	5																							1											
小田原	23	48	5	5	3		1			5			3	1	1								2	1	4											
足柄上	4	15							6														1			1										
厚木	39	101	8	8	7	2	2		2				7	2	2				2		2	3	6	2	20					1	5					
大和	30	57	2	2	1		2						1	3	1							2	2	13						3						

< PART II > 2021年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況

2017年～2021年のウイルス検出状況を図1に示した。2021年に県内で検出されたウイルスは9,978件で、5年間で最も多かった。2020年に続き、検出ウイルスの大部分を SARS-CoV-2 が占めたため、月別検出状況は SARS-CoV-2 の流行状況を反映する形となった。

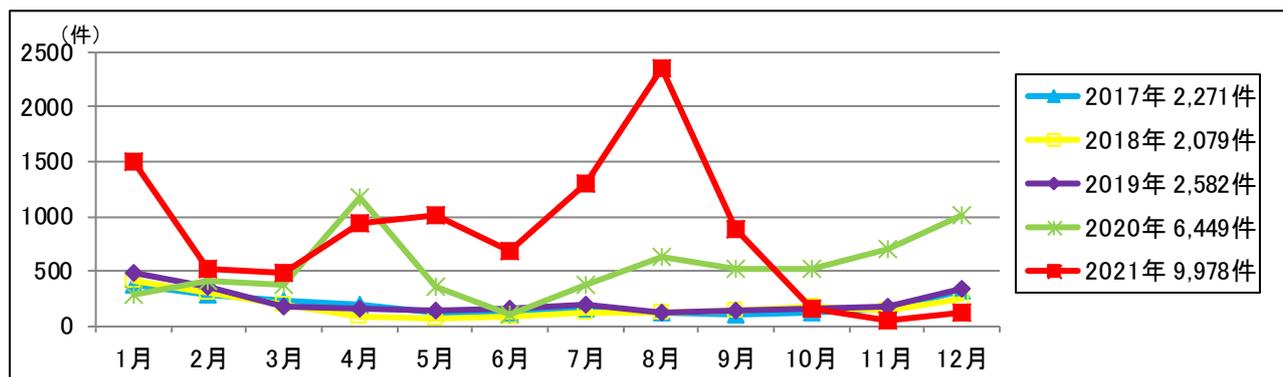


図1 ウイルス月別検出状況年別比

2021年に検出されたウイルスのうち、検出割合の多い上位11種について2017年～2021年の年別検出割合を図2に示した。最も多く検出されたウイルスは SARS-CoV-2 9,599件 (96.2%)、次いでRSウイルス85件 (0.9%)、ライノウイルス46件 (0.5%) の順であった。

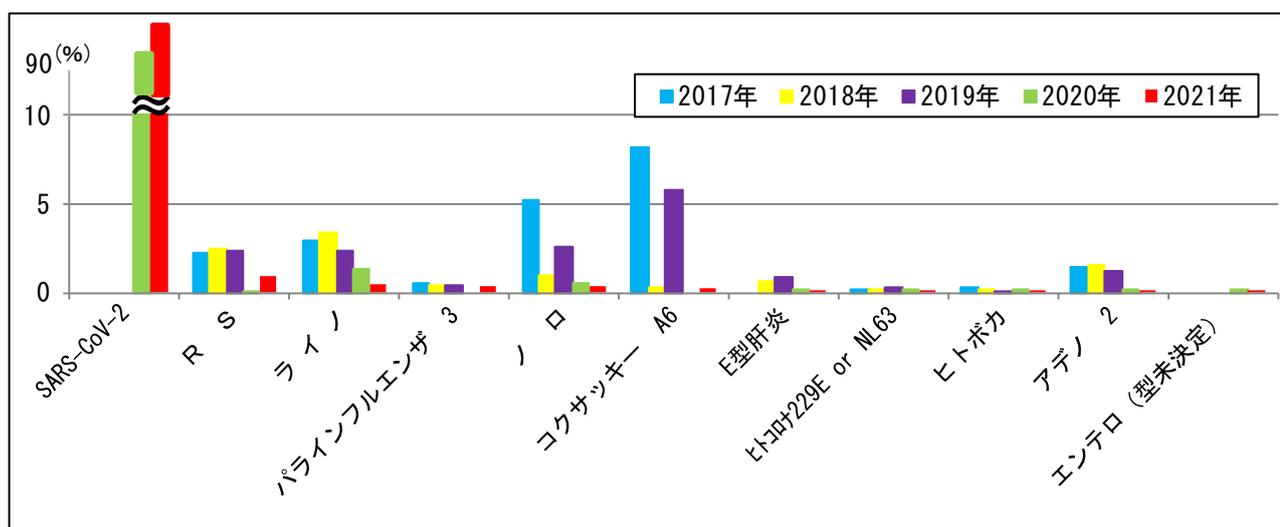


図2 主なウイルスの年別検出割合

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス検出状況表 (p 39～p 49) に記載する。

(木村睦未)

2 病原細菌検出概況

2017年～2021年の病原細菌検出状況を図1に示した。2021年に県内で検出された病原細菌は477件で、5年間で2番目に少なかった。月別検出状況は、6月が291件で他の月（1～45件）と比較して突出して多かった。

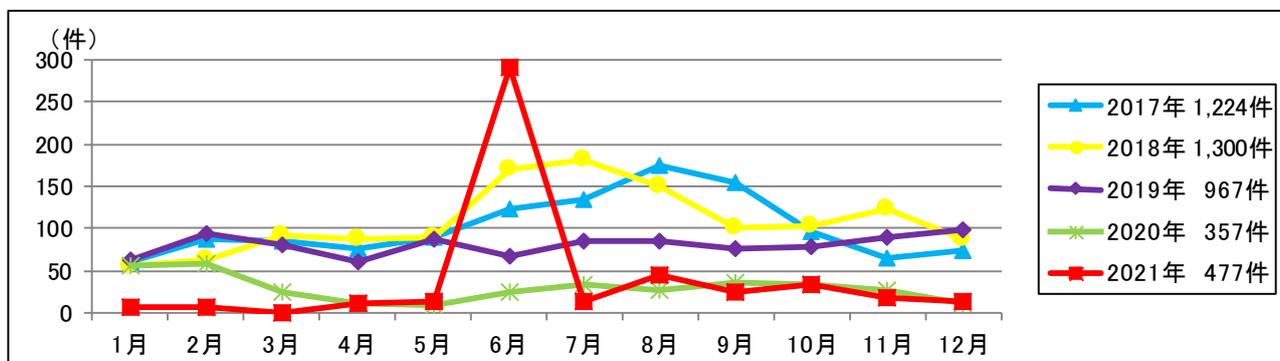


図1 病原細菌月別検出状況年別比較

2021年に検出された病原細菌のうち、検出割合の多い上位11種について2017年～2021年の年別検出割合を図2に示した。最も多く検出された病原細菌は腸管出血性大腸菌（EHEC）378件（79.4%）、次いでカンピロバクター ジェジュニ 27件（5.7%）、レジオネラ ニューモフィラ 23件（4.8%）の順であった。

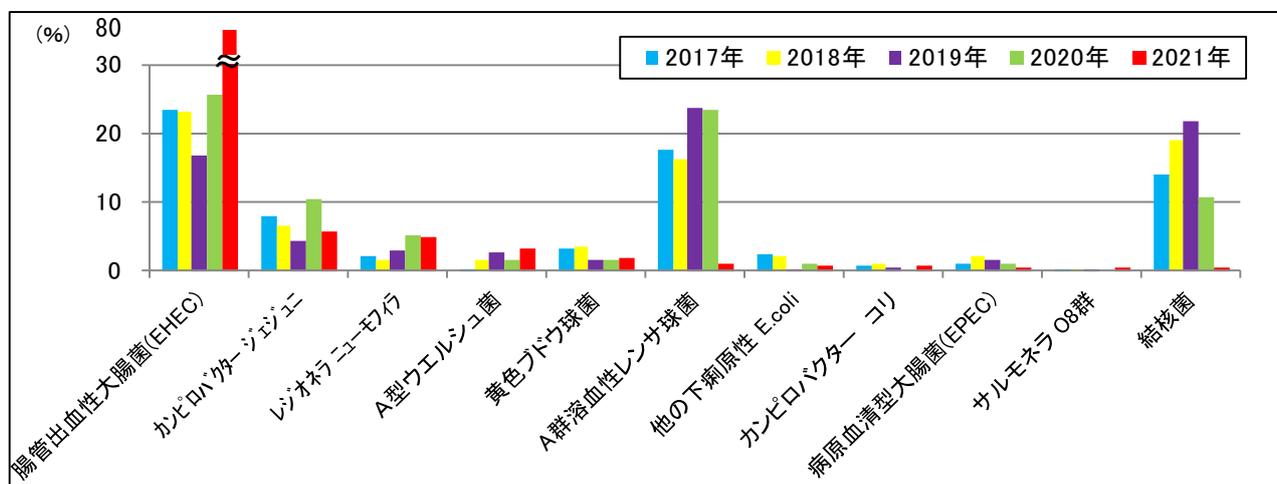


図2 主な病原細菌の年別検出割合

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表（p 50～p 53）に記載する。

（木村睦未）

3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患					定点把握対象疾患							新型コロナウイルス感染症	その他	合計	
	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様	流行性角結膜炎				無菌性髄膜炎
インフルエンザ AH3											1				1	
パラインフルエンザ 1						1									3	
パラインフルエンザ 2															4	
パラインフルエンザ 3						3				1					33	
パラインフルエンザ 4															10	
R S						37									48	
ヒトコロナ OC43															10	
ヒトコロナ 229E or NL63															12	
ヒトボカ															12	
コクサッキー A4										7					2	
コクサッキー A6								9	2			3			4	
エンテロ（型未決定）															11	
ヒトパレコ 1												3			6	
ライノ					1			1							44	
アデノ 1							2								5	
アデノ 2							1								10	
アデノ 5															3	
アデノ 6							1								1	
アデノ 37												4			4	
アデノ 53												1			1	
アデノ 56												4			4	
アデノ 64												1			1	
アデノ（型未決定）															2	
単純ヘルペス 1												1			3	
水痘・帯状疱疹												2			2	
サイトメガロ					1										1	
ヒトヘルペス 6					5							2			1	
A型肝炎		1													1	
E型肝炎	12														12	
ノロ								19							13	
サポ								2							2	
アストロ								1							1	
デング				1											1	
SARS-CoV-2													9598	1	9599	
オリエンチア ツツガムシ			10												10	
計	12	1	10	1	7	41	4	22	10	10	1	10	11	9598	240	9978

3-1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	2019年	2020年	2021年												合計		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ AH1pdm09	672	274															
インフルエンザ AH3	514	6														1	1
インフルエンザ A(亜型不明)	3	2															
インフルエンザ B	82	85															
パラインフルエンザ 1	6					2					1	1					4
パラインフルエンザ 2	13	2										3	1				4
パラインフルエンザ 3	11					1				15	19	2					37
パラインフルエンザ 4	4	3				1						2	5	1	1		10
R S	61	4	3		2	4	17	21	25	10	2	1					85
ヒトメタニューモ	45	9															
ヒトコロナ OC43	2	3						1	2	1		3			1	2	10
ヒトコロナ 229E or NL63	9	11			5	6						1					12
ヒトボカ	3	12	1	1				3	3	2						2	12
コクサッキー A2	1	1															
コクサッキー A4	1	3											3	5	1		9
コクサッキー A5	7																
コクサッキー A6	150		3									1	3	6	5		18
コクサッキー A10	3																
コクサッキー A16	85	4															
コクサッキー B3	6																
コクサッキー B4	9																
コクサッキー B5	1																
エコー 11	5	1															
エコー 18	1																
エコー 25	2																
エンテロ A71	1																
エンテロ (型未決定)		9	1		1			3	2	2		1	1				11
ヒトパレコ 1	4					1			5	3							9
ヒトパレコ 3	19						1										
ヒトパレコ 4	2																
ライノ	63	82	2	5	3	7	5	4	2	1		4	8	5			46
ムンプス	6	2															
麻疹	126	1															
風疹	255	6															
アデノ 1	21	4	1	1	1				3							1	7
アデノ 2	31	9		1		1		2	1				1	2	3		11
アデノ 3	51	8															
アデノ 4	6	1															
アデノ 5	6	1		2					1								3
アデノ 6	1							1						1			2
アデノ 37	1	1						1	1		1					1	4
アデノ 41	3																
アデノ 53	3	5								1							1
アデノ 54	6																
アデノ 56	1									2	1			1			4
アデノ 64																1	1
アデノ (型未決定)	12	1							1	1							2
単純ヘルペス 1	15	4	1		2										1		4
単純ヘルペス 2	1																
水痘・帯状疱疹	11	4		2					1					1			4
EB	5	1															
サイトメガロ	4	5		1													1
ヒトヘルペス 6	21	12	1	2	1	1				2						1	8
ヒトヘルペス 7	16	9															
A型肝炎	28	1				1											1
E型肝炎	24	14	1	2	2	2			1			2				2	12
ロタ	29	2															
ノロ	68	32	5	7		1	8	11									32
サボ	6					2											2
アストロ	7															1	1
デング	27	2									1						1
SARS-CoV-2		5802	1483	500	474	908	969	625	1241	2311	857	130	17	84			9599
ポリオ ヲカシ	6	11	1									3	4	2			10
計	2582	6449	1503	524	491	938	1010	682	1295	2346	876	152	48	113			9978

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	新型コロナウイルス感染症	その他	合計
R S			1							1
コクサッキー A4						5				5
コクサッキー A6					7	2	3			12
ヒトパレコ 1							3			3
ライノ					1					1
アデノ 2				1						1
水痘・带状疱疹									1	1
ヒトヘルペス 6		2					2			4
SARS-CoV-2								2183		2183
オリエンチア ツツガムシ	10									10
計	10	2	1	1	8	7	8	2183	1	2221

3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2019年	2020年	2021年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	301	111														
インフルエンザ AH3	219	3														
インフルエンザ B	23	19														
R S	2	1								1						1
コクサッキー A2	1	1														
コクサッキー A4	1											1	3	1		5
コクサッキー A5	5															
コクサッキー A6	103		3									2	3	4		12
コクサッキー A10	1															
コクサッキー A16	59	4														
コクサッキー B4	7															
エコー 11	1															
エコー 25	1															
ヒトパレコ 1	3								3							3
ヒトパレコ 3	9															
ライノ	7	1									1					1
ムンプス	6	1														
麻疹	73															
風疹	119	2														
アデノ 1	14	1														
アデノ 2	19	1				1										1
アデノ 3	30	6														
アデノ 4	2	1														
アデノ 5	5	1														
アデノ 6	1															
アデノ 54	4															
アデノ（型未決定）	7															
単純ヘルペス 1	7	2														
水痘・帯状疱疹		2											1			1
EB	1															
サイトメガロ		1														
ヒトヘルペス 6	6	4	1		1					2						4
ヒトヘルペス 7	7	6														
A型肝炎	3															
E型肝炎	6															
ロタ	3															
ノロ	18	17														
サポ	1															
アストロ	5															
デング	6	2														
SARS-CoV-2		690	123	42	125	312	288	206	241	480	223	87	8	48		2183
オリエンチア ツツガムシ	6	11	1									3	4	2		10
計	1092	888	128	42	126	313	288	209	244	481	223	93	19	55		2221

3-3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	E型肝炎	RSウイルス感染症	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	新型コロナウイルス感染症	その他	合計
	インフルエンザ AH3						1				
パラインフルエンザ 1		1								3	4
パラインフルエンザ 2										4	4
パラインフルエンザ 3		2			1					33	36
パラインフルエンザ 4										10	10
R S		27								48	75
ヒトコロナ OC43										10	10
ヒトコロナ 229E or NL63										12	12
ヒトボカ										12	12
コクサッキー A4										2	2
コクサッキー A6				1						4	5
エンテロ（型未決定）										11	11
ヒトパレコ 1										6	6
ライノ										43	43
アデノ 1										5	5
アデノ 2										10	10
アデノ 5										3	3
アデノ 6										1	1
アデノ 37							2				2
アデノ 56							4				4
アデノ（型未決定）										2	2
単純ヘルペス 1								1		3	4
水痘・帯状疱疹								1			1
E型肝炎	5										5
ノロ			4								4
アストロ			1								1
SARS-CoV-2									1389	1	1390
計	5	30	5	1	1	1	6	2	1389	223	1663

3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2019年	2020年	2021年												合計		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ AH1pdm09	158	83															
インフルエンザ AH3	117	2														1	1
インフルエンザ B	19	36															
パラインフルエンザ 1	6					2					1	1					4
パラインフルエンザ 2	13	2										3	1				4
パラインフルエンザ 3	10					1				14	19	2					36
パラインフルエンザ 4	4	3				1						2	5	1	1		10
R S	40	1	2		1	4	13	20	22	10	2	1					75
ヒトメタニューモ	45	9															
ヒトコロナ OC43	2	3						1	2	1		3			1	2	10
ヒトコロナ 229E or NL63	9	10			5	6						1					12
ヒトボカ	3	12	1	1				3	3	2						2	12
コクサッキー A4		3													2		2
コクサッキー A6	35											1			3	1	5
コクサッキー A10	2																
コクサッキー A16	11																
コクサッキー B3	5																
コクサッキー B4	1																
エコー 11	2	1															
エコー 18	1																
エコー 25	1																
エンテロ（型未決定）		9	1		1			3	2	2		1	1				11
ヒトパレコ 1	1					1			2	3							6
ヒトパレコ 3	10																
ヒトパレコ 4	2																
ライノ	52	79	2	5	3	7	5	4					4	8	5		43
ムンプス		1															
麻疹	39	1															
風疹	84	3															
アデノ 1	5	2	1	1					2							1	5
アデノ 2	11	6		1				2	1				1	2	3		10
アデノ 3	12	2															
アデノ 5	1			2					1								3
アデノ 6															1		1
アデノ 37								1	1								2
アデノ 41	3																
アデノ 53	2	1															
アデノ 56	1										2	1			1		4
アデノ（型未決定）	1	1							1	1							2
単純ヘルペス 1	6	2	1		2										1		4
単純ヘルペス 2	1																
水痘・帯状疱疹	1			1													1
A型肝炎	17	1															
E型肝炎	9	10	1	2		1						1					5
ロタ	3																
ノロ	13	3	1	1		1	1										4
サポ	2																
アストロ	2															1	1
デング	8																
SARS-CoV-2		2128	273	76	98	158	126	87	186	277	89	3	2	15			1390
計	770	2414	283	90	110	182	155	126	231	309	107	16	22	32			1663

3-4 川崎市健康安全研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	E 型 肝 炎	A 型 肝 炎	デ ン グ 熱	急 性 脳 炎	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	そ の 他	合 計
パラインフルエンザ 3					1									1
R S					9									9
コクサッキー A4									2					2
コクサッキー A6								1						1
ライノ				1									1	2
アデノ 1						2								2
アデノ 6						1								1
アデノ 37										2				2
アデノ 64										1				1
水痘・带状疱疹											1		1	2
サイトメガロ				1										1
ヒトヘルペス 6				3									1	4
A型肝炎		1												1
E型肝炎	7													7
ノロ							1						13	14
デング			1											1
SARS-CoV-2												3781		3781
計	7	1	1	5	10	3	1	1	2	3	1	3781	16	3832

3-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2019年	2020年	2021年												合計		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ AH1pdm09	137	53															
インフルエンザ AH3	98	1															
インフルエンザ B	21	21															
パラインフルエンザ 3	1									1							1
R S	19	2	1		1			4	1	2							9
ヒトコロナ 229E or NL63		1															
コクサッキー A4												2					2
コクサッキー A6	12											1					1
コクサッキー A16	14																
コクサッキー B3	1																
コクサッキー B4	1																
コクサッキー B5	1																
エコー 11	2																
エンテロ A71	1																
ライノ	4	2								2							2
麻疹	10																
風疹	38	1															
アデノ 1	2	1			1				1								2
アデノ 2	1	2															
アデノ 3	6																
アデノ 4	2																
アデノ 6								1									1
アデノ 37	1	1									1					1	2
アデノ 53	1	2															
アデノ 64																1	1
単純ヘルペス 1	2																
水痘・帯状疱疹	10	2		1					1								2
EB	4	1															
サイトメガロ	4	4		1													1
ヒトヘルペス 6	15	8		2		1										1	4
ヒトヘルペス 7	9	3															
A型肝炎	7					1											1
E型肝炎	9	4			2	1			1			1				2	7
ロタ	21	2															
ノロ	2		1	6					7								14
デング	9										1						1
SARS-CoV-2		1667	660	185	130	274	326	180	494	1058	430	32	6	6			3781
計	465	1778	662	195	134	277	331	191	499	1060	431	35	6	11			3832

3-5 相模原市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	新型コロナウイルス感染症	合計
SARS-CoV-2	1963	1963
計	1963	1963

3-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	2019年	2020年	2021年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	45	13														
インフルエンザ AH3	34															
インフルエンザ B	17	9														
コクサッキー A5	2															
コクサッキー A16	1															
麻疹	4															
風疹	8															
アデノ 3	2															
アデノ 4	2															
アデノ 53		2														
アデノ 54	2															
デング	4															
SARS-CoV-2		1053	375	185	103	142	186	136	300	447	81	7	1			1963
計	121	1077	375	185	103	142	186	136	300	447	81	7	1			1963

3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	把握対象		新型コロナウイルス感染症	合計
	感染性胃腸炎	流行性角結膜炎		
アデノ 53		1		1
サポ	2			2
SARS-CoV-2			159	159
計	2	1	159	162

3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 検出ウイルス	2019年	2020年	2021年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	31	14														
インフルエンザ AH3	46															
インフルエンザ A(亜型不明)	3	2														
インフルエンザ B	2															
風疹	6															
アデノ 3	1															
アデノ 53									1							
ノロ		2														
サポ						2										
SARS-CoV-2		155	37	11	10	13	42	6	9	9	17				5	159
計	89	173	37	11	10	15	42	6	10	9	17				5	162

3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	新型 コロナ ウイルス 感染症	合計
ノロ	14		14
SARS-CoV-2		123	123
計	14	123	137

3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	2019 年	2020 年	2021年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
アデノ（型未決定）	4														
A型肝炎	1														
ロタ	2														
ノロ	35	10	3					7	4						
サポ	3														
SARS-CoV-2		109	15	1	8	9	1	10	11	40	17	1		10	123
計	45	119	18	1	8	9	8	14	11	40	17	1		10	137

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）

4-1 神奈川全県（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち 海外渡航者	総数	うち 海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち 海外渡航者	
					総数	うち 海外渡航者	総数	うち 海外渡航者	総数	うち 海外渡航者	総数	うち 海外渡航者	総数	うち 海外渡航者	総数	うち 海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	162	1	91			3	1	3	7	280		5	25	18	29	1	6	378	
毒素原性大腸菌(ETEC)	8	7	1																
病原血清型大腸菌(EPEC)	14		4						1			2						3	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	2	1	3																
他の下痢原性 E.coli	2		4	1						1			1				1	4	
チフス菌	4	4																	
パラチフスA菌	4	4																	
サルモネラ O4群	10	1	4																
サルモネラ O7群	6	3	2																
サルモネラ O8群	2			2														2	
サルモネラ O9群	6	4													1			1	
サルモネラ O3,10群	2	1																	
サルモネラ O1,3,19群					1													1	
サルモネラ O13群							1											1	
サルモネラ 群不明	1																		
腸炎ビブリオ			2																
エロモナス キヤビエ	1		1																
カンピロバクター ジェジュニ	41		37				2	1	6			1	1	2	12	2		27	
カンピロバクター コリ	4											1			3			4	
黄色ブドウ球菌	14		6				1	2	2			1			1	2		9	
A型ウエルシュ菌	27		6									1	14					15	
セレウス菌	1																		
赤痢菌ソネ	1	1																	
レンサ球菌A群	228		84	1	1		1					1			1			5	
レンサ球菌B群	9		2																
レンサ球菌C群			1				1											1	
レンサ球菌C群	17		4				1											1	
レンサ球菌 上記以外の群			1																
肺炎球菌	71		32																
エンテロコッカス フェシウム	1																		
百日咳菌	2																		
レジオネラ属菌	2		2																
レジオネラ ニューモフィラ	28		19		1		1	3	2	6	1	5	2			2		23	
結核菌	209		38	2														2	
インフルエンザ菌	20		3																
クレブジエラ ニューモニエ	5																		
髄膜炎菌	34	1																	
淋菌	5	2																	
クラミジア トラクマチス	12		3																
マイコプラズマ ニューモニエ	12		7																
計	967	30	357	6	6	1	11	14	291	14	45	24	33	19	13		477		

4-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	10		6							5				2	9			16	
病原血清型大腸菌(EPEC)	1		2								1							1	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)			2																
他の下痢原性 E.coli	2		4	1						1		1					1	4	
サルモネラ O4群			1																
サルモネラ O7群			1																
エロモナス キヤピエ	1		1																
カンピロバクター ジェジュニ	1		3																
カンピロバクター コリ	1																		
黄色ブドウ球菌	1																		
レンサ球菌A群	131		58	1	1		1					1						4	
レンサ球菌C群			1				1											1	
レンサ球菌G群			1																
レンサ球菌 上記以外の群			1																
レジオネラ属菌	2		2																
レジオネラ ニューモフィラ	11		7					1	1	3	1	2						8	
マイコプラズマ ニューモニエ	12		7																
計	173		97	2	1		2	1	7	4	3	4	9			1		34	

4-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	126	1	66			3	1	3	6	270	3	23	5	16		6	336		
毒素原性大腸菌(ETEC)	8	7	1																
病原血清型大腸菌(EPEC)	11		2						1		1							2	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	2	1	1																
チフス菌	4	4																	
パラチフス A菌	4	4																	
サルモネラ O4群	5	1	1																
サルモネラ O7群	5	3	1																
サルモネラ O9群	6	4																	
サルモネラ O3,10群	1	1																	
サルモネラ 群不明	1																		
腸炎ピブリオ			2																
カンピロバクター ジェジュニ	39		34				2	1	6		1	1	2	12	2		27		
カンピロバクター コリ	3											1		3			4		
黄色ブドウ球菌	9		6				1	2	2			1		1	2		9		
A型ウェルシュ菌	27		6								1	14					15		
セレウス菌	1																		
赤痢菌ソクネ	1	1																	
レンサ球菌A群	64		19												1		1		
レンサ球菌B群	9																		
レンサ球菌G群	6						1										1		
肺炎球菌	23																		
エンテロコッカス フェシウム	1																		
百日咳菌	2																		
レジオネラ ニューモフィラ	8		8		1			2	1	1		2	1			1	9		
結核菌	141																		
インフルエンザ菌	14																		
クレブジエラ ニューモニエ	5																		
髄膜炎菌	32	1																	
淋菌	2	2																	
計	560	30	147		4	1	7	12	279	6	40	8	19	18	11		405		

4-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	23	12							1	5	1	2	7	4	1			21	
レンサ球菌A群	25	7																	
レンサ球菌B群		2																	
レンサ球菌G群	11	3																	
肺炎球菌	48	32																	
レジオネラ ニューモフィラ	9	4						1			2		1			1		5	
結核菌	68	38	2															2	
インフルエンザ菌	6	3																	
髄膜炎菌	2																		
計	192	101	2					1	1	5	3	2	8	4	1	1		28	

4-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1	2																	
レンサ球菌A群	6																		
レジオネラ ニューモフィラ														1					1
計	7	2												1					1

4-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1		2										4					4	
サルモネラ O4群	4		2																
サルモネラ O7群	1																		
サルモネラ O8群	2																		
サルモネラ O1,3,19群						1													1
サルモネラ O13群								1											1
レンサ球菌A群	2																		
淋菌	3																		
クラミジア トロコマチス	12		3																
計	25		7			1			1					4					6

4-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 菌種・菌型	2019年		2020年		2021年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1		3										1						1
病原血清型大腸菌(EPEC)	2																		
サルモネラ O4群	1																		
サルモネラ O8群					2														2
サルモネラ O3,10群	1																		
カンピロバクター ジェジュニ	1																		
黄色ブドウ球菌	4																		
計	10		3		2								1						3

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) ウイルス検査状況（発生動向調査）

ア 5類感染症（定点把握疾患）

(ア) インフルエンザ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

昨シーズン（2020/2021 シーズン、2020 年 36 週～2021 年 35 週）の横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く神奈川県域におけるインフルエンザの定点当たり患者報告数は、0～0.09 人と流行の判断基準となる 1.0 人を超えることはなかった。また、本シーズン（2021/2022 シーズン、2021 年 36 週～2022 年 35 週）4 月末時点の定点当たり患者報告数も 0～0.03 人と低く推移している。感染症発生動向調査（藤沢市および茅ヶ崎市からの一般依頼を含む）入院サーベイランスおよび集団かぜの検査依頼は無かった。

（豊倉いつみ、渡邊寿美、佐野貴子、近藤真規子、鈴木理恵子、櫻木淳一）

2021/22 シーズン（2021 年第 36 週～2022 年第 35 週）のうち、2022 年第 13 週（～4 月 3 日）時点における状況について報告する。

横浜市感染症発生動向調査において、インフルエンザ様疾患の定点あたり患者数は最大 0.029 人で推移し、2019/20 シーズンの 2020 年第 11 週に流行の目安となる 1.0 人を下回ってから、2 シーズン連続でインフルエンザの流行はみられなかった（図 1）。

病原体定点調査では 236 検体について検査を実施したが、インフルエンザウイルスは分離・検出されなかった。インフルエンザ施設別発生状況調査は集団発生事例の報告がなかったため、検査は実施されなかった。入院サーベイランス（その他依頼検査を含む）では 21 検体を検査し、インフルエンザウイルス（A 香港（H3）型）1 株が分離・検出された（A/横浜/1/2021）。本件はブラジルへの渡航歴がある患者の肺炎入院事例であった。分離されたウイルス株は、感染研が実施する薬剤感受性試験においてノイラミニダーゼ阻害薬およびエンドヌクレアーゼ阻害薬に対して感受性を示し、中和試験による抗原性解析では 2021/22 シーズンの国内ワクチン株（A/タスマニア/503/2020）の類似株である A/カンボジア/e0826360/2020 と抗原性が異なっていた。HA 遺伝子の系統樹解析では、A/横浜/1/2021 は 2021/22 シーズンのワクチン株の A/タスマニア/503/2020 と同じ 3C.2a1b.2 グループに属し、さらに 5 つのアミノ酸変異（Y159N, T160I, L164Q, G186D, D190N）したサブグループ 3c.2a1b.2a2 に含まれた。2021/22 シーズンに分離された各国のウイルスも同グループに含まれており、アミノ酸変異の蓄積がみられた（図 2）。

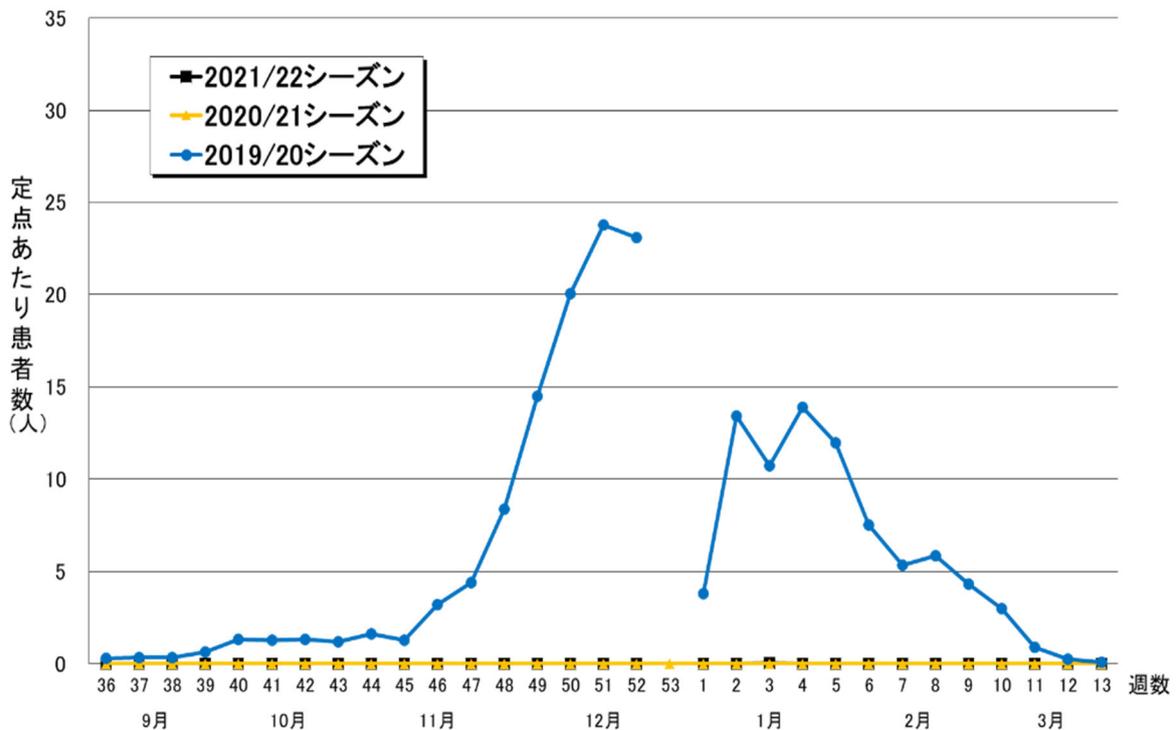


図 1 インフルエンザ定点あたり患者数

- 赤枠内
2021/22シーズンワクチン株
- 赤色
2021/22シーズン分離株
- 青色
2020/21シーズン分離株
- 緑色
2019/20シーズン分離株
- ★: 定点 ▲: 集団事例
- : 輸入事例
- ◆: 薬剤耐性アミノ酸変異株

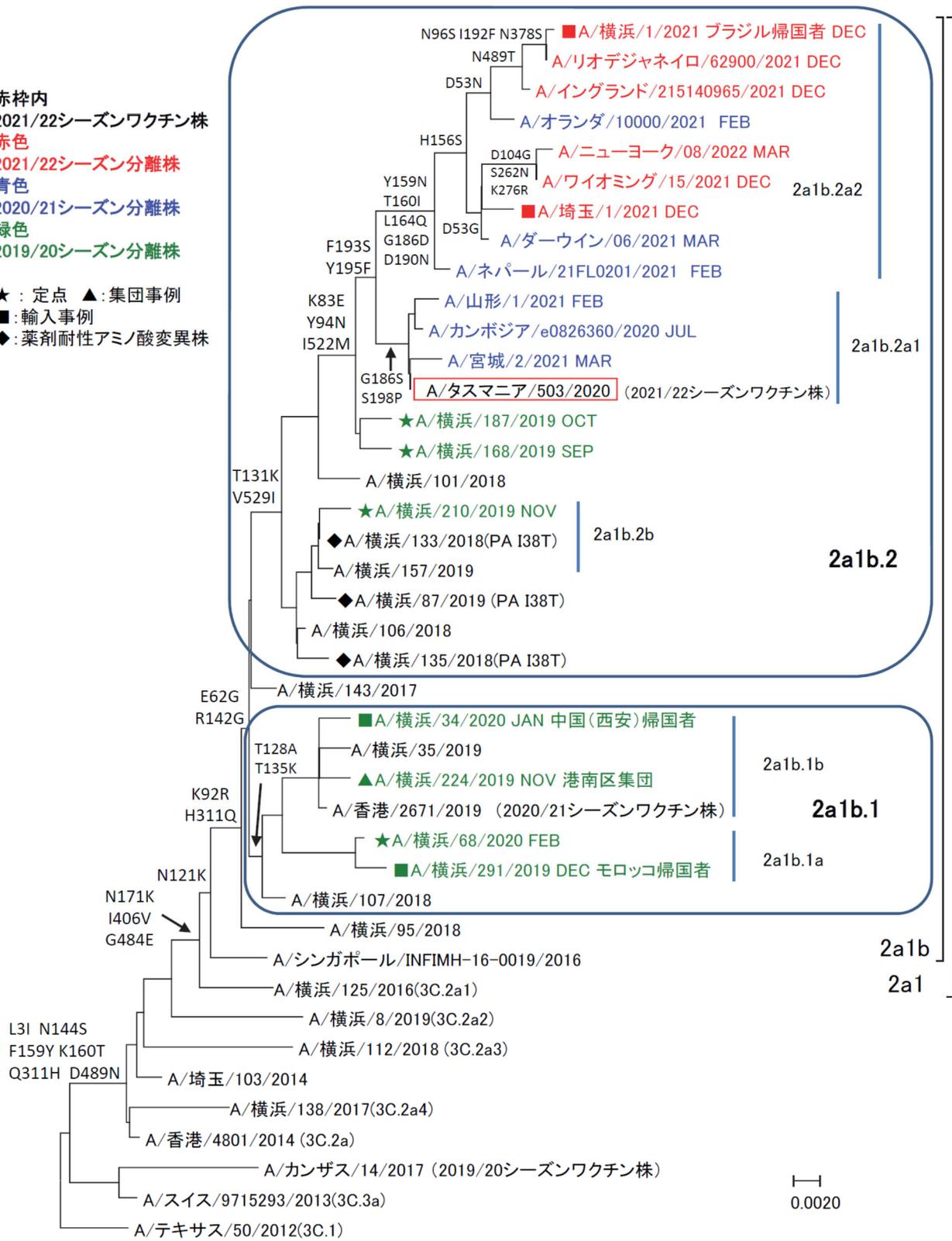


図2 A 香港 (H3) 型インフルエンザウイルスHA遺伝子 NJ系統樹

(清水耕平、小澤広規、川上千春)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況（図）によると、2020 年度に引き続き 2021 年度も患者数が流行時期になっても増加しなかった。2021/2022 シーズン（2021 年 36 週～2022 年 35 週）のうち 2022 年 3 月の第 4 週（第 12 週）までに流行開始の目安となる定点あたり 1.0 人を超えることはなく、2021 年 11 月の第 1 週（44 週）の定点あたり 0.08 人が最も高かった。なお、2021/2022 シーズンは、定点医療機関から当研究所への検体搬入はなかった。

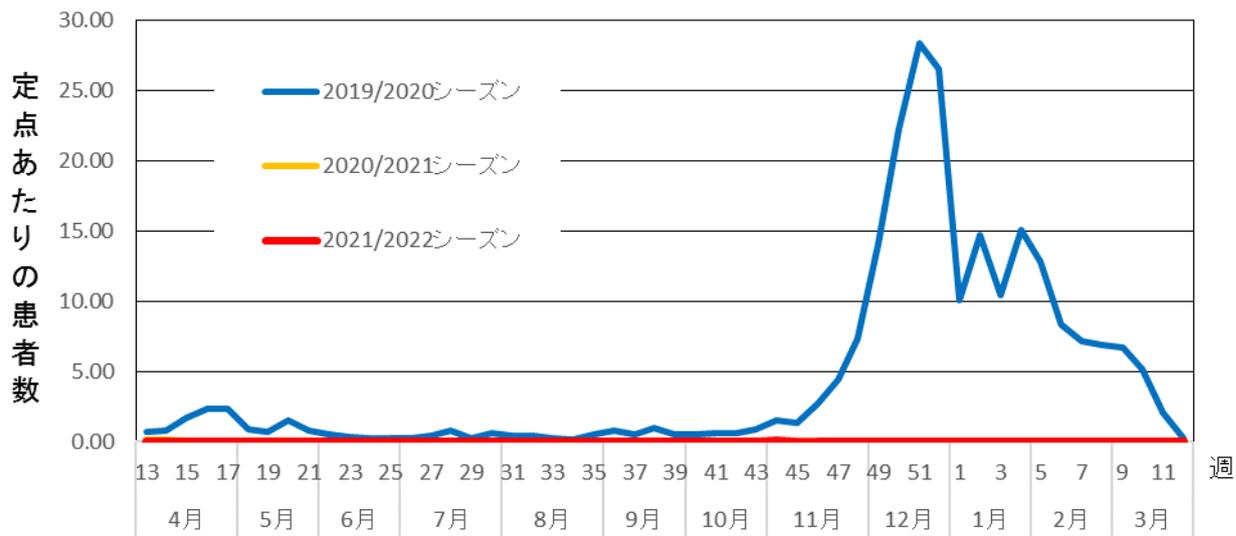


図 川崎市の週別インフルエンザ患者報告数の推移

(若菜愛澄、赤星千絵)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021/2022 シーズンの 2021 年 36 週～2022 年 13 週について、流行開始の目安となる定点あたり 1.0 人を超えることなく、52 週の定点あたり 0.06 人が最も高かった。なお、定点医療機関から検体の搬入はなく、型別等の詳細については不明である。

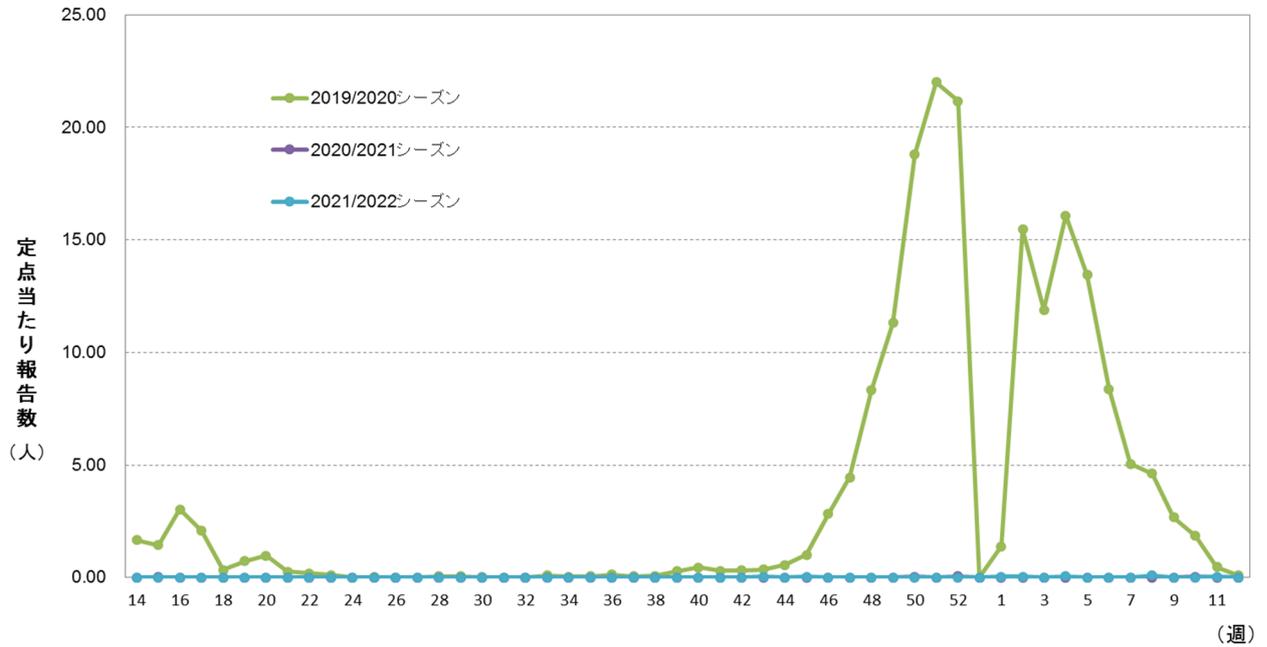


図 相模原市のインフルエンザウイルス検出状況

(吉川聡一、井村香織、金沢聡子)

(イ) ウイルス性感染性胃腸炎

a 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検査状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

感染症予測監視事業の一環として、感染性胃腸炎の原因ウイルスを把握する目的で、神奈川県域（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体 15 例について原因ウイルスの検索を行った。検索対象ウイルスは、ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルスおよびC群ロタウイルスとしたが、感染性胃腸炎となる原因ウイルスは検出されなかった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一）

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では、小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体 1 例について検査を実施し、ノロウイルス（GⅡ.4）が検出された。

（若菜愛澄、赤星千絵）

b 集団感染性胃腸炎事例からの原因ウイルス検査状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生がなかった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市内で発生した感染症としてのウイルス性集団胃腸炎の取扱事例数は 93 事例であった。ノロウイルスが 80 事例から検出され、その遺伝子群は GⅡが 79 事例、GⅠが 1 事例であった。その他にアストロウイルスが 8 事例、サポウイルスが 3 事例、ヒトパレコウイルスが 1 事例から検出され、さらにアストロウイルスとノロウイルスの混合事例が 1 事例あった。

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	2021.1	保育園	17	4	3	ノロウイルス	GII
2	2021.1	保育園	4	3	3	ノロウイルス	GII
3	2021.1	高齢者施設	17	3	2	ノロウイルス	GII
4	2021.1	保育園	不明	10	3	ノロウイルス	GII
5	2021.1	保育園	30	4	4	ノロウイルス	GII
6	2021.1	保育園	11	2	2	ノロウイルス	GII
7	2021.1	保育園	26	3	2	ノロウイルス	GII
8	2021.1	保育園	22	3	3	ノロウイルス	GII
9	2021.2	保育園	12	8	4	ノロウイルス	GII
10	2021.2	保育園	不明	7	4	ノロウイルス	GII
11	2021.2	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	GII
12	2021.2	保育園	25	3	1	ノロウイルス	GII
13	2021.2	保育園	22	3	2	ノロウイルス	GII
14	2021.3	保育園	16	7	6	ノロウイルス	GII
15	2021.3	保育園	11	2	2	ノロウイルス	GII
16	2021.3	保育園	21	3	3	ノロウイルス	GII
17	2021.3	小学校	10	3	3	ノロウイルス	GII
18	2021.3	保育園	13	3	3	ノロウイルス	GII
19	2021.3	保育園	21	4	3	ノロウイルス	GII
20	2021.3	保育園	23	3	3	サポウイルス	
21	2021.4	保育園	10	2	2	ノロウイルス	GII
22	2021.4	保育園	15	4	3	ノロウイルス	GII
23	2021.4	保育園	21	4	3	アストロウイルス	
24	2021.4	保育園	16	3	2	ノロウイルス	GII
25	2021.4	保育園	19	3	3	ノロウイルス	GI
26	2021.4	保育園	9	4	2	ノロウイルス	GII
27	2021.4	保育園	9	4	4	ノロウイルス	GII
28	2021.5	保育園	不明	2	1	ノロウイルス	GII
29	2021.5	保育園	15	3	3	ノロウイルス	GII
30	2021.5	保育園	27	6	6	ノロウイルス	GII
31	2021.5	保育園	9	4	4	ノロウイルス	GII
32	2021.5	幼稚園	14	4	3	ノロウイルス	GII
33	2021.5	保育園	19	5	2	ノロウイルス	GII
34	2021.5	保育園	10	3	2	ノロウイルス	GII
35	2021.5	保育園	19	3	2	ノロウイルス	GII
36	2021.5	保育園	不明	3	1	ノロウイルス	GII
37	2021.5	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GII

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
38	2021.5	保育園	9	3	1	ノロウイルス	GII
39	2021.5	保育園	不明	3	2	ノロウイルス	GII
40	2021.5	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
41	2021.5	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	GII
42	2021.5	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
43	2021.5	保育園	不明	6	3	ノロウイルス	GII
44	2021.5	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
45	2021.5	保育園	18	3	3	ノロウイルス	GII
46	2021.5	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	GII
47	2021.6	保育園	20	3	3	ノロウイルス	GII
48	2021.6	保育園	35	5	3	ノロウイルス	GII
49	2021.6	保育園	13	3	2	ノロウイルス	GII
50	2021.6	保育園	42	3	1	ノロウイルス	GII
51	2021.6	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
52	2021.6	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
53	2021.6	保育園	13	3	2	ノロウイルス	GII
54	2021.6	保育園	22	3	1	ノロウイルス	GII
55	2021.6	保育園	19	3	3	ノロウイルス	GII
56	2021.6	保育園	27	3	3	ノロウイルス	GII
57	2021.6	保育園	22	3	3	ノロウイルス	GII
58	2021.6	幼稚園	21	6	6	ノロウイルス	GII
59	2021.6	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GII
60	2021.6	保育園	18	3	3	ノロウイルス	GII
61	2021.7	保育園	61	4	4	ノロウイルス	GII
62	2021.7	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	GII
63	2021.7	保育園	17	6	5	ノロウイルス	GII
64	2021.7	保育園	20	4	4	ノロウイルス	GII
65	2021.7	保育園	14	4	2	ノロウイルス	GII
66	2021.7	保育園	6	4	4	ヒトパレコウイルス	
67	2021.7	保育園	12	2	2	ノロウイルス	GII
68	2021.8	保育園	14	2	2	ノロウイルス	GII
69	2021.8	保育園	14	3	2	ノロウイルス	GII
70	2021.8	保育園	8	3	3	ノロウイルス	GII
71	2021.9	保育園	37	3	2	ノロウイルス	GII
72	2021.10	保育園	13	4	4	サポウイルス	
73	2021.10	保育園	14	3	3	アストロウイルス	
74	2021.10	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GII
75	2021.11	保育園	4	3	3	ノロウイルス	GII

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
76	2021.11	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
77	2021.11	保育園	不明	3	2	アストロウイルス	
78	2021.11	保育園	27	2	1	サポウイルス	
79	2021.11	保育園	14	4	4	アストロウイルス	
80	2021.11	保育園	14	5	4	ノロウイルス	GII
81	2021.12	保育園	6	2	2	アストロウイルス	
82	2021.12	保育園	8	3	1	アストロウイルス	
83	2021.12	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
84	2021.12	保育園	13	2	2	ノロウイルス	GII
85	2021.12	小学校	24	3	3	ノロウイルス	GII
86	2021.12	保育園	21	3	3	ノロウイルス	GII
87	2021.12	保育園	不明	5	3	アストロウイルス	
88	2021.12	保育園	12	3	3	ノロウイルス	GII
89	2021.12	保育園	20	4	4	アストロウイルス、ノロ ウイルス	
90	2021.12	保育園	不明	7	7	ノロウイルス	GII
91	2021.12	保育園	7	2	2	ノロウイルス	GII
92	2021.12	保育園	10	4	2	アストロウイルス	
93	2021.12	保育園	9	3	2	ノロウイルス	GII
				326	261		

(熊崎真琴、宇宿秀三)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では、ウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が2事例あり、ノロウイルス GII が検出された(表)。

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群/遺伝子型
1	2021.2	保育園	21	9	6	ノロウイルス	GII.2
2	2021.6	小学校	不明	7	7	ノロウイルス	GII.17

(若菜愛澄、赤星千絵)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が1事例確認された。この事例からサポウイルスが検出された。

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	2021.4	高齢者施設	不明	3	2	サポウイルス	G I

(竹内恵美、古川美奈子)

⑤ 藤沢市

藤沢市保健所

藤沢市ではウイルスを原因とする集団胃腸炎が4事例確認され、すべてノロウイルスによるものであった。

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群/遺伝子型
1	2021.1	障がい者施設	10	3	3	ノロウイルス	G II.4
2	2021.5	保育園	30	3	2	ノロウイルス	G II.2
3	2021.5	保育園	34	5	5	ノロウイルス	G II.2
4	2021.6	保育園	43	5	4	ノロウイルス	G II.4

(佐藤健、松葉友美、水上稚子、平井有紀)

**(ウ) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、
流行性角結膜炎**

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 14 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、8 例から 8 株のウイルスが検出された。その内訳は、コクサッキーウイルス (CV) A6 型 7 株、ライノウイルス 1 株であった。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 7 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、7 例から 7 株のウイルスが検出された。その内訳は、CV-A4 型 5 株、CV-A6 型 2 株であった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 1 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、ヒトアデノウイルス (HAdV) 2 型が検出された。

(豊倉いつみ、佐野貴子、渡邊寿美、近藤真規子、鈴木理恵子、櫻木淳一)

<流行性耳下腺炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性耳下腺炎患者検体 3 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、ムンプスウイルスは検出されなかった。

<無菌性髄膜炎>

病原体定点医療機関あるいは医療機関より保健所に届け出があった無菌性髄膜炎患者 6 症例 13 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、3 症例 7 検体から 8 株のウイルスが検出された。その内訳は、1 例目は髄液と便から CV-A6 型、咽頭ぬぐい液から CV-A6 型とヒトヘルペスウイルス (HHV) 6、2 例目は咽頭ぬぐい液から HHV-6、3 例目は髄液、咽頭ぬぐい液および便からパレコウイルス A1 型 (PeV1) であった。

表 無菌性髄膜炎患者からのウイルス検出結果

No.	採取月	検体名	結果
1	1月	髄液	CV-A6
		咽頭ぬぐい液	CV-A6
		便	HHV-6 CV-A6
2	3月	咽頭ぬぐい液	HHV-6
		便	陰性
3	6月	髄液	PeV1
		咽頭ぬぐい液	PeV1
		便	PeV1

(佐野貴子、豊倉いつみ、渡邊寿美、近藤真規子、鈴木理恵子、櫻木淳一)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者 1 例についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、エンテロウイルス（CA-6）が検出された。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者 2 例についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、2 例ともエンテロウイルス（CA-4）が検出された。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 3 例についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、アデノウイルス（1 型 2 株、6 型 1 株）が検出された。

<流行性角結膜炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性角結膜炎患者検体 3 例についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、アデノウイルス（37 型 2 株、64 型 1 株）が検出された。

<無菌性髄膜炎>

病原体定点医療機関あるいは医療機関で採取された無菌性髄膜炎患者 7 症例 13 検体についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、2 症例 2 検体から 2 株のウイルスが検出された。その内訳は、1 例目は髄液からヘルペスウイルス（VZV）、2 例目は便からライノウイルス A であった。

（若菜愛澄、赤星千絵）

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

<流行性角結膜炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性角結膜炎患者検体 2 例について、ウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、すべてウイルスは検出されなかった。

（吉川聡一、井村香織、金沢聡子）

イ 4類感染症（全数把握疾患）

（ア）蚊媒介感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

< Dengue Virus >

神奈川県域では、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱疑い症例について、ウイルス遺伝子検査、デングウイルス NS1 抗原検査および抗体検査等を実施している。2021 年に当所にデング熱、ジカ熱、チクングニア熱疑い症例検体の搬入はなかった。

（鈴木理恵子、日紫喜隆行、高橋淳子、櫻木淳一）

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

< Dengue Virus >

フィリピンへの渡航歴があるデング熱疑いの患者 1 例について遺伝子検査を実施したところ、デングウイルス（4 型）が検出された。

（若菜愛澄、赤星千絵）

ウ 5類感染症（全数把握疾患）

（ア） 麻しん・風しん

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県域では麻しん・風しん特定感染症予防指針に基づき、麻しん及び風しん疑い例報告について遺伝子検査を実施している。

2021年は、麻しん疑い症例7例、風しん疑い症例2例（計24検体）について麻疹及び風疹ウイルス遺伝子の検査を実施したが、いずれの遺伝子も不検出であった。

（鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

<麻しん>

2021年に横浜市内の医療機関にて探知され届出又は相談のあった麻しん疑い症例5例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施したが麻疹ウイルスは検出されなかった。

また、風しん疑い症例で風疹ウイルス遺伝子が検出されなかった4例について、麻疹ウイルス遺伝子検査を行ったが麻疹ウイルスは検出されなかった。

<風しん>

2021年に横浜市内の医療機関にて探知され届出又は相談のあった風しん疑い症例4例について風疹ウイルス遺伝子の検査を実施したが風疹ウイルスは検出されなかった。

また、麻しん疑い症例で麻疹ウイルス遺伝子が検出されなかった5例について、風疹ウイルス遺伝子検査を行ったが風疹ウイルスは検出されなかった。

（宇宿秀三、清水耕平、小澤広規）

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021年に川崎市内の医療機関において診断された麻しん疑い例1例、風しん疑い例1例、麻しん及び風しん疑い例2例について遺伝子検査を実施したところ、麻疹ウイルス及び風疹ウイルスは検出されなかった。

（若菜愛澄、赤星千絵）

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021年に相模原市内の医療機関において麻しん疑い症例1例について、麻疹ウイルス並びに風疹ウイルス遺伝子検査を実施した。その結果、麻疹ウイルス及び風疹ウイルスともに検出されなかった。

(吉川聡一、井村香織、金沢聡子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021年に横須賀市内の医療機関において麻しんと臨床診断された1例について、麻疹ウイルス及び風疹ウイルスの遺伝子検査を実施した。結果は麻疹ウイルス風疹ウイルスともに陰性であった。

(長澤由美子、竹内恵美、天野肇)

(イ) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

医療機関より保健所に届け出があった急性脳炎患者2症例10検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、1症例2検体からヒトヘルペスウイルス6が検出された。

(佐野貴子、豊倉いつみ、渡邊寿美、近藤真規子、鈴木理恵子、櫻木淳一)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

病原体定点医療機関あるいは医療機関より保健所に届け出があった急性脳炎又は急性脳症患者（疑いを含む）12症例43検体についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、4症例12検体からウイルスが検出された。その内訳は、1例目は髄液、鼻咽頭ぬぐい液、血清、尿、便からヘルペスウイルス（6型）、尿からヘルペスウイルス（CMV）、2例目は髄液、咽頭ぬぐい液、血清、尿からヘルペスウイルス（6型）、3例目は鼻咽頭ぬぐい液からライノウイルスA、4例目は咽頭ぬぐい液、便からヘルペスウイルス（6型）であった。

(若菜愛澄、赤星千絵)

(ウ) HIV/エイズ

a 神奈川県におけるHIV/エイズの概要

医療危機対策本部室

2021年の神奈川県における新規登録HIV感染者・エイズ患者数は、総数で67人であった(表1)。

表1 新規登録HIV感染者・エイズ患者の性別年次推移(神奈川県)(人)

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
男性	総数	75	92	115	94	81	72	74	71	69	58	63
	感染者	51	60	87	67	50	48	52	48	41	27	41
	患者	24	32	28	27	31	24	22	23	28	31	22
女性	総数	8	8	4	3	6	10	8	4	2	7	4
	感染者	7	6	2	1	4	8	5	2	2	6	3
	患者	1	2	2	2	2	2	3	2	0	1	1
合計	総数	83	100	119	97	87	82	82	75	71	65	67
	感染者	58	66	89	68	54	56	57	50	43	33	44
	患者	25	34	30	29	33	26	25	25	28	32	23

2021年のHIV検査実施件数は、3,485件であった(表2)。

表2 HIV検査実施件数年次推移(件)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
県域	2,409	2,208	1,983	1,818	1,588	1,364	1,237	1,301	1,618	933	656
横浜市	4,169	4,057	4,312	4,360	3,354	2,888	2,977	2,863	2,870	1,483	1,068
川崎市	1,789	1,753	1,710	1,972	1,758	1,520	1,589	1,948	2,114	1,409	1,405
相模原市	491	499	538	522	480	471	525	506	526	85	76
横須賀市	262	262	227	260	202	201	174	201	230	69	33
藤沢市	436	430	447	460	364	339	359	458	514	250	215
茅ヶ崎市	-	-	-	-	-	-	50	56	65	25	32
合計	9,556	9,209	9,217	9,392	7,746	6,783	6,911	7,327	7,937	4,254	3,485

*自治体が実施する保健所以外の検査を含む

b HIV 検査の実施状況

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市・藤沢市及び茅ヶ崎市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市を除く）では、1987年2月より保健所においてHIV抗体検査の受付が開始され、当所で検査を担当している。1993年4月からはHIV抗体検査が無料化され、同年8月からはHIV-1抗体検査に加え、HIV-2抗体検査も実施が可能となった。2000年4月には相模原市、2006年4月には藤沢市、2017年には茅ヶ崎市が保健所設置市となり、各市にHIV検査事業が移管された。

県域の保健福祉事務所（以下、HWC）では、2006年4月から平塚HWC、6月から厚木、茅ヶ崎及び小田原HWC、2014年4月からは鎌倉HWCにおいてHIV即日検査が開始された。現在のHWCでのHIV検査は、平塚、鎌倉、小田原および厚木HWCで即日検査（以下、HWC即日検査）、厚木HWC大和センターで通常検査（以下、HWC通常検査）が実施されている。また、HIV検査と同時に受検可能な梅毒抗体検査としては、2014年4月から厚木HWC大和センターで通常検査、2018年3月からは平塚、鎌倉及び小田原HWC、4月からは厚木HWCで即日検査が実施されている。HWC以外の特設の即日検査施設（以下、特設検査）としては、2005年8月から横浜YMCA（厚木）に神奈川県即日検査センター、2014年からはかながわ県民センターに個別施策層の男性同性間性的接触者（以下、MSM）と日本語に不慣れな方に配慮した対象者限定の即日検査会が開設されたが、2021年4月からは港町診療所（横浜）に集約され、毎月第3土曜日に検査を受けている。

HIV検査数は、無料化された直後の1993年をピークに減少傾向を示していたが、全国的に即日検査の導入が始まった2004年以降、当県でも検査数が増加し始め、2005年の即日検査センターの設置、2006年のHWCへの即日検査の導入により、検査数が急激に増加した（図）。2007年に検査数が3,080件とピークを迎え、その後2017年まで減少が続いたが、2018年に全てのHWCで梅毒抗体検査が開始されたことから検査数が増加に転じた。しかしながら、2020年は新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言発令や特設検査の休止等によって検査数が931件と前年の42%減となり、その後も引き続き減少し、2021年は656件と1992年以降で最少の件数となった。2021年の検査種類別による検査数は、HWC即日検査351件、HWC通常検査75件、特設検査230件であり、前年と比較して、HWC即日検査は26%減、HWC通常検査は10%減、特設検査は38%減で、全体で30%減少した（表）。

2021年のHIV陽性数は5例（陽性率0.8%）で、その内訳はHWC即日検査で1例（0.3%）、HWC通常検査で1例（1.3%）、特設検査で3例（1.3%）であった。5例の性別はすべて男性で、国籍は日本国籍が3名、外国籍が2名であった。陽性例はすべてHIV-1であり、遺伝子型別は、サブタイプBが4例（日本国籍3例、外国籍1例）、CRF07_BCが1例（外国籍1例）であった。サブタイプBは1980年代中頃に欧米から日本に流入後、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触等による感染で拡大し、国内での主流株である。CRF07_BCは中国の静注薬物常用者の間で流行していたサブタイプBとCの組み換え体であるが、最近では、中国MSM間で流行が拡大しており、日本国内でも首都圏を中心に小規模な流行が報告されている。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、保健所等HIV検査の実施状況も未だ流動的であり、検査数の減少傾向に歯止めが掛からない状態となっている。しかしながら、陽性率は前年と同程度で推移しており、潜在的なHIV感染者は減少していないことが想定される。検査希望者が検査を受けられる体制を維持すること、また、男性同性間性的接触者および外国籍者等の個別施策層への検査普及啓発活動を積極的に行う必要があると考える。

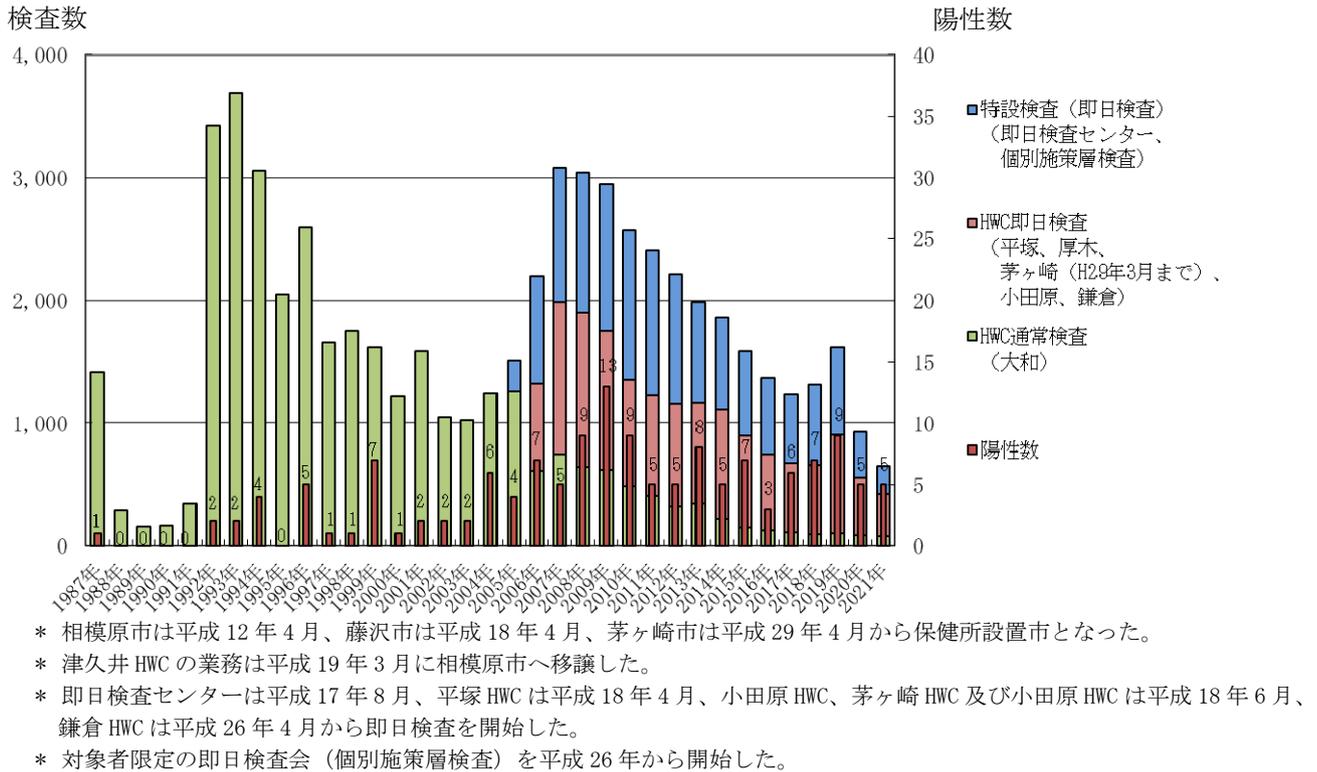


図 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市・藤沢市及び茅ヶ崎市を除く）での HIV 検査数、陽性数の年次推移（1987-2021年）

表 HIV 検査種類別による検査数及び陽性数（2006-2021年）

	HWC即日検査*			HWC通常検査**			特設検査（即日検査） （即日検査センターおよび個別施策層検査）			合計		
	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）
2006年（H18）	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
2007年（H19）	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
2008年（H20）	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
2009年（H21）	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
2010年（H22）	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
2011年（H23）	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
2012年（H24）	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%
2013年（H25）	817	2	0.2%	347	0	0.0%	819	6	0.7%	1,983	8	0.4%
2014年（H26）	897	0	0.0%	216	0	0.0%	748	5	0.7%	1,816	5	0.3%
2015年（H27）	752	1	0.1%	144	2	1.4%	691	4	0.6%	1,587	7	0.4%
2016年（H28）	625	0	0.0%	121	0	0.0%	627	3	0.5%	1,373	3	0.2%
2017年（H29）	568	0	0.0%	105	3	2.9%	563	3	0.5%	1,236	6	0.5%
2018年（H30）	569	1	0.2%	95	1	1.1%	652	5	0.8%	1,316	7	0.5%
2019年（R1）	809	2	0.2%	99	0	0.0%	708	7	1.0%	1,616	9	0.6%
2020年（R2）	475	1	0.2%	83	1	1.2%	373	3	0.8%	931	5	0.5%
2021年（R3）	351	1	0.3%	75	1	1.3%	230	3	1.3%	656	5	0.8%

* 平成18年4月から平塚HWC、平成18年6月から小田原HWC、茅ヶ崎HWC及び厚木HWC、平成26年4月から鎌倉HWCで即日検査を実施、平成29年4月から茅ヶ崎HWCは茅ヶ崎市に移管。

** 平成26年3月まで鎌倉HWC、三崎HWC、秦野HWC、大和HWC、足柄上HWC、平成26年4月から大和センターのみ（佐野貴子、近藤真規子、豊倉いつみ、渡邊寿美、鈴木理恵子、櫻木淳一）

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021年に実施したHIVの確認検査は1検体で、ウエスタンブロット法及びPCR法を実施し、陰性であった。

(若菜愛澄、赤星千絵)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021年は新型コロナウイルスの影響により、1月から3月までは事業中止、4月以降は月1回の即日検査及び12月の世界エイズデーにあわせて実施した即日検査のみ行った。

検査は第四世代試薬(IC法)を使用して行い、本法で陽性が疑われた検体については第四世代試薬で追加試験を行いウエスタンブロット、NAT検査にて確認検査を行った。

2021年の検査数は76件で、陽性が0件であった。

表 HIV検査種別による検査数、陽性数(2019-2021年)

	通常検査				即日検査			
	検査数	判定保留	陽性数	陽性率(%)	検査数	判定保留	陽性数	陽性率(%)
2019年	458	0	1	0.2%	51	0	0	0.0%
2020年	76	0	0	0.0%	9	0	0	0.0%
2021年	-	-	-	-	76	0	0	0.0%
合計	534	0	1	0.2%	136	0	0	0.0%

(井村香織、金沢聡子)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

新型コロナウイルスの影響により、1月から3月の通常検査は休止となった。4月から12月は、原則月2回実施していた検査を月1回とし、また1回あたりの検査数も減らしての対応となった。即日検査は12月の平日に予約人数を抑えた形で1回実施した。検査は1次検査でイムノクロマト法により陽性が疑われた検体について追加検査を行い、陽性であった検体については2次検査でウエスタンブロット法等により確認検査を行った。

2021年の検査数は33件で、内訳は通常検査が31件、即日検査が2件であり、結果は陽性が0件（陽性率0.0%）であった。

表 横須賀市のHIV検査数

	検査数	陽性数	陽性率
通常検査	31	0	0.0%
平日即日検査	2	0	0.0%
合計	33	0	0.0%

(古川美奈子)

⑤ 藤沢市

藤沢市保健所

月1回から4回、木曜日の午前中に即日検査を実施した。平日夜間即日検査および休日即日検査については、新型コロナウイルス感染症の流行により行うことができなかった。

検査は血中抗HIV-1抗体、抗HIV-2抗体およびHIV-1p24抗原を検出するイムノクロマト法で行った。本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

2021年の検査数は215件で、判定保留は2件あり、県衛生研究所の精密検査において1件が陽性と判定された。

(佐藤健、松葉友美、水上稚子、平井有紀)

エ 新型インフルエンザ等感染症

(ア) 新型コロナウイルス感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）

神奈川県衛生研究所

新型コロナウイルス感染症が発生した以降、2020年1月から検査を実施している。2021年1月～12月の新型コロナウイルス検査は、介護施設や病院等を中心にクラスター発生が懸念される集団検査が主流であった。2021年は、計7128検体について、新型コロナウイルス遺伝子検査を実施し、617検体から新型コロナウイルス遺伝子が検出され、新型コロナウイルス検出例については可能な限り、リアルタイムPCRによる変異株検査も実施した。2021年1月からはN501Y遺伝子（アルファ株）、6月からはL452R遺伝子（デルタ株）の検索を併せて実施した。L452R遺伝子については、国内での初発患者報告があった4月まで遡って検査を実施した。2021年は新型コロナウイルス陽性例567検体について変異株スクリーニング検査を実施したところ、N501Y遺伝子は162検体、L452R遺伝子は149検体が保有していた。

表 神奈川県域（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）における
新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

月	検体数	検出数	変異株検査数	N501Y 変異 遺伝子検出数	L452R 変異 遺伝子検出数
1月	1,487	123	92	0	0
2月	580	42	29	8	0
3月	423	64	61	15	0
4月	517	104	104	26	1
5月	893	81	81	69	4
6月	695	34	34	18	15
7月	706	31	31	17	8
8月	1,115	58	58	2	50
9月	356	34	34	2	30
10月	95	2	2	0	2
11月	41	0	0	0	0
12月	220	44	44	5	39
計	7,128	617	570	162	149

（鈴木理恵子、佐野貴子、日紫喜隆行、近藤真規子、渡邊寿美、豊倉いつみ、高橋淳子、石野珠紀、小泉明子、櫻木淳一）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2019年12月に中華人民共和国湖北省武漢市で流行が確認された後、2020年1月30日に世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言した。当所においても1月23日厚生労働省の通知「新型コロナウイルスに関する検査対応について」を受けてPCR検査系を立ち上げ、1月30日にコンベンショナルRT-PCRを、2月1日にリアルタイムRT-PCR検査を開始した。

2021年は6,087例の6,090件について検査を実施し、1,388例1,389件からSARS-CoV-2が検出された。月別の検査数を表に示す。

表 横浜市衛生研究所で実施した新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

2021年	検査症 例数	検査検 体数	陽性症 例数	陽性検 体数
1月	1,018	1,019	273	273
2月	425	425	76	76
3月	339	339	98	98
4月	995	995	158	158
5月	453	453	126	126
6月	579	579	87	87
7月	659	661	185	186
8月	490	490	276	276
9月	169	169	89	89
10月	9	9	3	3
11月	17	17	2	2
12月	934	934	15	15
総計	6,087	6,090	1,388	1,389

(宇宿秀三、小澤広規、川上千春)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021 年は、計 35,705 検体の PCR 検査を実施し、うち陽性は 4,009 検体であった（陰性確認等を含む）。なお、2021 年 7 月から本検査について一部外部委託を行っており、その結果は含めていない。

陽性検体における各変異株のスクリーニング検査は、N501Y 変異については 3 月から 7 月まで実施し、L452R 変異については 6 月から実施した。次世代シーケンサーを用いたゲノム解析は 7 月依頼の検体から当所で実施した（それ以前は国立感染症研究所にて実施）。その解析結果では、1 月に R.1 が検出され、その後アルファ株（B.1.1.7）、5 月からデルタ株（AY.29）、12 月からオミクロン株（BA.1）へと推移していた。

表 川崎市の新型コロナウイルス感染症の PCR 検査結果

2021 年	検査数	陽性数
1 月	4,901	674
2 月	2,623	198
3 月	1,832	137
4 月	2,956	315
5 月	3,966	352
6 月	3,187	197
7 月	4,204	519
8 月	7,202	1,072
9 月	3,382	443
10 月	485	32
11 月	295	13
12 月	672	57
総計	35,705	4,009

(佐々木国玄、赤星千絵)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

新型コロナウイルス感染症のPCR検査は、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従い2020年2月より実施しており、2021年1月から12月までの間、検査総数は17,281検体、うち陽性総数は1,961検体であった（陰性化確認を含む）。

2021年は第3波から始まり、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令などの影響を受けながら、3月から6月にかけての第4波、6月から10月にかけての第5波と全国の流行曲線と同様の患者数の増減を認めた。年間を通じて陽性率は5～15%と昨年度より全体的に増加した。

検査対象者を分類すると、疑似症患者は12.5%、接触者が87.3%、陰性化確認が0.2%であった。陰性確認は退院基準が変更されたことに伴い、激減した。また、市内検査数のうち民間検査機関による検査件数が84%以上となり、当市衛生研究所における検査数は16%を下回った。

また、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従い、変異株のスクリーニング検査も実施した。

表 相模原市における新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

	検査数	陽性数	陽性率 (%)
1月	2,596	374	14.41
2月	1,452	184	12.67
3月	877	101	11.52
4月	1,154	132	11.44
5月	1,827	186	10.18
6月	1,812	136	7.51
7月	2,527	300	11.87
8月	2,963	447	15.09
9月	783	81	10.34
10月	93	7	7.53
11月	19	1	5.26
12月	89	0	0.00
総計	16,192	1,949	

(吉川聡一、矢島理志、木内郁代、井村香織、田村有美、坂扶美子、金沢聡子、播磨由利子)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021 年は、当センターではクラスター感染事例等の検査が主体であった。10 月、11 月は全国的に陽性者数が減少したことから検査依頼が激減したと推察される。検査数は 2,331 検体、そのうち陽性数は 159 検体であった（表 1）。

2 月から N501Y 変異遺伝子検査を開始し、1 月末から 6 月までに検出された陽性検体のうち 77 検体について実施したところ、24 検体がアルファ株疑いであった。6 月からは L452R 変異遺伝子検査を開始し、6 月 10 日から 12 月までに検出された陽性検体 44 検体について実施したところ、25 検体がデルタ株疑いであった（表 2）。12 月の検査対象は主にオミクロン株の濃厚接触者であった。L452R 変異遺伝子検査の結果から、2 検体がオミクロン株疑いであった。

表 1 横須賀市健康安全科学センターの新型コロナウイルス感染症の PCR 検査結果

	検体数	陽性数
1 月	209	37
2 月	369	11
3 月	264	10
4 月	129	13
5 月	416	42
6 月	404	6
7 月	220	9
8 月	98	9
9 月	168	17
10 月	0	0
11 月	1	0
12 月	53	5
総計	2,331	159

表 2 横須賀市健康安全科学センターの新型コロナウイルス感染症の変異遺伝子 PCR 検査結果

	N501Y		L452R	
	変異遺伝子 検査数	変異遺伝子 検出数	変異遺伝子 検査数	変異遺伝子 検出数
1月から6月	77	24	4	0
7月から12月	—	—	40	25

*N501Y は 6 月まで実施した。L452R は 6 月 10 日から開始した。

(長澤由美子、竹内恵美、古川美奈子、天野肇)

2021年は、延べ5,013検体の検査を実施し、うち陽性は123検体であった（経過者を含む）。

当センターの新型コロナウイルス検査はクラスターが懸念される学校や施設での患者発生にかかわる集団検査が主で、1月下旬、5月中旬、8月下旬のそれぞれ第3波、第4波、第5波のピークに前後して検査数も増加している。10月下旬以降、患者発生数が激減、検査数も減少するが、11月下旬、海外において新たな変異株・オミクロン株が確認されると、当該株に接触のあった帰国者を対象とした検査が増加した。また当センターにおいて12月中旬からオミクロン株スクリーニング検査を開始した。医療機関で陽性となった検体についてN501YおよびL452R変異の検査をし、Ct値を確認するため新型コロナウイルスPCR検査も実施した。医療機関において抗原の定性検査キットを使用し陽性と判定されたが当センターで確認したところ陰性であった検体も数例含まれている。

検査は主に感染研法で行っていたが、12月中旬より抽出が簡易な市販の検出キットを導入し、分析時間の短縮と検査対応数の増を図っている。

表 藤沢市の新型コロナウイルス感染症のPCR検査結果

	検査数	陽性数
1月	644	15
2月	309	1
3月	100	8
4月	281	9
5月	438	1
6月	459	10
7月	630	11
8月	786	40
9月	673	17
10月	313	1
11月	38	0
12月	342	10
総計	5,013	123

(佐藤健、松葉友美、水上稚子、平井有紀)

(2) 感染症流行予測調査

ア 感受性調査 (抗体保有状況)

(ア) インフルエンザ

神奈川県衛生研究所

本調査は、インフルエンザの本格的な流行開始前かつインフルエンザワクチン接種前に、インフルエンザワクチン株に対する健常者等の血清抗体価を測定することにより抗体保有状況を把握すること、また、2021/2022 シーズンの流行予測及び感受性者に対して注意喚起するなどの資料とすることを目的として1972年度より実施されており、神奈川県では1983年度から調査に参加している。

試験方法は、2021年7月～9月のインフルエンザワクチン接種前に採血された214名について、以下の2021/2022 シーズンワクチン株 (以下、調査株) に対するHI抗体価を測定した。

調査株

- a) A / Victoria(ビクトリア) / 1 / 2020 [A(H1N1)亜型]
- b) A / Tasmania (タスマニア) / 503 / 2020 [A(H3N2)亜型]
- c) B / Phuket (プーケット) / 3073 / 2013 [B型(山形系統)]
- d) B / Victoria (ビクトリア) / 705 / 2018 [B型(ビクトリア系統)]

抗体価の評価は厚生労働省健康局結核感染症課、国立感染症研究所感染症疫学センターが発行している「感染症流行予測調査報告書」に従い、感染リスクを50%に抑える目安と考えられているHI抗体価1:40以上を抗体保有と定義し、抗体保有率を示した。

- a) A / Victoria(ビクトリア) / 1 / 2020は、2021/2022シーズンに新たにA(H1N1)亜型のワクチン株に選定された株である。本調査株に対する抗体保有率は平均11%で、10～14歳群の抗体保有率は42%、15～19歳群は25%、その他の年齢群では全て10%未満であった。

表 A/Victoria(ビクトリア) /1/2020 [A(H1N1)亜型] に対するHI抗体保有状況

抗体価 年齢	H I 抗体価									検査数 (人)	抗体保有率 (%)
	<10	10	20	40	80	160	320	640	≥1280		
0～4歳	23	1	0	0	0	0	0	0	0	24	0
5～9歳	9	7	5	1	1	0	0	0	0	23	9
10～14歳	3	5	6	5	4	1	0	0	0	24	42
15～19歳	8	7	3	4	1	1	0	0	0	24	25
20～29歳	12	4	6	1	1	0	0	0	0	24	8
30～39歳	13	9	2	0	0	0	0	0	0	24	0
40～49歳	13	3	7	1	0	0	0	0	0	24	4
50～59歳	16	5	3	0	0	0	0	0	0	24	0
60歳以上	19	1	1	1	1	0	0	0	0	23	9
計	116	42	33	13	8	2	0	0	0	214	11

- b) A / Tasmania (タスマニア) / 503 / 2020は、2021/2022シーズンに新たにA(H3N2)亜型のワクチン株に選定された株である。本調査株に対する抗体保有率は平均5%で、15～19歳群の抗体保有率は13%であったが、その他の年齢群では10%未満であった。

表 A/Tasmania (タスマニア) /503/2020 [A(H3N2)亜型] に対するHI抗体保有状況

年齢	抗体価									検査数 (人)	抗体保有率 (%)
	<10	10	20	40	80	160	320	640	≥1280		
0～4歳	22	0	1	1	0	0	0	0	0	24	4
5～9歳	7	5	10	0	1	0	0	0	0	23	4
10～14歳	8	7	9	0	0	0	0	0	0	24	0
15～19歳	7	10	4	2	1	0	0	0	0	24	13
20～29歳	8	8	6	1	1	0	0	0	0	24	8
30～39歳	12	5	6	1	0	0	0	0	0	24	4
40～49歳	11	8	5	0	0	0	0	0	0	24	0
50～59歳	10	8	4	0	2	0	0	0	0	24	8
60歳以上	15	4	4	0	0	0	0	0	0	23	0
計	100	55	49	5	5	0	0	0	0	214	5

- c) B / Phuket (プーケット) / 3073 / 2013は、2015/2016 シーズンよりB型(山形系統)のワクチン株に選定されている株である。本調査株に対する抗体保有率は平均25%で、20～29歳群、30～39歳群、40～49歳群、50～59歳群の抗体保有率は38～42%、10～14歳群、15～19歳群の抗体保有率は21～29%であったが、60歳以上群では13%、0～4歳群、5～9歳群では10%未満であった。

表 B/Phuket (プーケット) /3073/2013 [B型 (山形系統)] に対するHI抗体保有状況

年齢	抗体価									検査数 (人)	抗体保有率 (%)
	<10	10	20	40	80	160	320	640	≥1280		
0～4歳	23	1	0	0	0	0	0	0	0	24	0
5～9歳	13	5	3	2	0	0	0	0	0	23	9
10～14歳	9	3	7	2	2	1	0	0	0	24	21
15～19歳	4	7	6	4	3	0	0	0	0	24	29
20～29歳	7	3	5	3	5	1	0	0	0	24	38
30～39歳	4	3	8	5	4	0	0	0	0	24	38
40～49歳	5	1	9	6	2	1	0	0	0	24	38
50～59歳	7	3	4	4	5	1	0	0	0	24	42
60歳以上	15	2	3	3	0	0	0	0	0	23	13
計	87	28	45	29	21	4	0	0	0	214	25

- d) B / Victoria (ビクトリア) / 705 / 2018は、2020/2021 シーズンよりB型(ビクトリア系統)のワクチン株に選定されている株である。本調査株に対する抗体保有率は平均14%で、50～59歳群は38%、40～49歳群は29%の抗体保有率を示したが、60歳以上群では17%、15～19歳群、20～29歳群で13%、その他の年齢群では10%未満であった。

表 B/Victoria (ビクトリア) /705/2018 [B型 (ビクトリア系統)] に対するHI抗体保有状況

年齢	抗体価									検査数 (人)	抗体保有率 (%)
	<10	10	20	40	80	160	320	640	≥1280		
0～4歳	24	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0
5～9歳	21	0	1	1	0	0	0	0	0	23	4
10～14歳	17	2	3	0	2	0	0	0	0	24	8
15～19歳	12	6	3	3	0	0	0	0	0	24	13
20～29歳	11	4	6	2	1	0	0	0	0	24	13
30～39歳	16	6	2	0	0	0	0	0	0	24	0
40～49歳	3	5	9	4	1	2	0	0	0	24	29
50～59歳	8	1	6	4	4	0	1	0	0	24	38
60歳以上	13	4	2	2	1	0	1	0	0	23	17
計	125	28	32	16	9	2	2	0	0	214	14

(豊倉いつみ、渡邊寿美、佐野貴子、鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一)

(イ) 麻疹

神奈川県衛生研究所

麻疹感受性調査は、麻疹含有ワクチン（麻疹単体ワクチン、MR ワクチン等）の接種効果を追跡するとともに、麻疹排除の維持と、予防接種計画のための資料とすることを目的とし 1978 年度に開始され、神奈川県では 2013 年度より調査に参加している。試験方法は、ゼラチン粒子凝集法による PA 抗体価の測定を行い、PA 抗体の評価は厚生労働省健康局結核感染症課、国立感染症研究所感染症疫学センターが発行している「感染症流行予測調査報告書」に従い、 $<1:16$ を麻疹感受性者とし、 $1:16$ 以上を抗体保有者とした。また、発症予防可能レベルは、 $1:128$ 以上と考えられている。

2021 年 7 月～9 月の間に採血された 530 名について、麻疹抗体価を測定した結果、PA 抗体価 $1:16$ 以上の抗体保有率は全体で 96.6%（512 名）であった。年齢群別では、麻疹ワクチン接種前の 1 歳未満の乳児の抗体保有率は 54.5%、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 86.4%、2 歳～4 歳では 100.0%と上昇している。5 歳～9 歳、10 歳～14 歳、20 歳～24 歳、25 歳～29 歳では抗体保有率は 100.0%、その他の年齢群でも抗体保有率は 96.0%以上であった。2020 年度の全国の流行予測調査結果では、2 歳以上すべての年齢群で 96%以上であり、全国の抗体保有レベルと同様であった。また、麻疹の発症予防の目安とされる PA 抗体価 $1:128$ 以上の抗体保有率は、昨年 of 全国の流行予測調査では 85.3%であるのに対し、本調査の抗体保有率は 80.9%と低かった。

2015 年 3 月 27 日、日本は世界保健機関西太平洋事務局（WPRO）によって、麻疹排除国と認定され 6 年が経過した。抗体保有状況調査は、麻疹対策及び麻疹排除の維持を継続していくうえで重要である。2021 年度の神奈川県における麻疹抗体保有率（96.6%）は、昨年の全国平均の 96.3%と同等であるが、発症予防レベルである $1:128$ 以上の抗体保有率（80.9%）は全国平均の 85.3%を大きく下回り油断できない状況にある。今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況を調査するとともに、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要である。

表 麻疹ウイルス抗体保有状況（2021年7月）

年齢	抗体価		PA抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%)		
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	≥2048		1:16 以上	1:128 以上	
1歳未満	5	4		1	1						11	54.5	9.1
1歳	3				2	5	4	5	3		22	86.4	86.4
2～4歳			1	2	3	7	11	10			34	100.0	91.2
5～9歳				1	6	7	6	3			23	100.0	95.7
10～14歳		1	2		5	6	12	4			30	100.0	90.0
15～19歳	1		1	6	5	9	5	3			30	96.7	73.3
20～24歳			3	3	3	9	6	5	1		30	100.0	80.0
25～29歳		1	1	10	4	7	3	2	2		30	100.0	60.0
30～34歳	1	1	1	5	5	6	5	4	3		31	96.8	74.2
35～39歳	1	1		3	4	4	7	6	3		29	96.6	82.8
40～49歳	3	3	2	13	15	25	22	18	14		115	97.4	81.7
50～59歳	3	1	3	8	16	14	18	26	26		115	97.4	87.0
60歳以上	1	2	1	2	4	4	4	8	4		30	96.7	80.0
計	18	14	15	54	73	103	103	94	56		530	96.6	80.9

(鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一)

(ウ) 風疹

神奈川県衛生研究所

風疹感受性調査は、風疹ワクチンの接種効果を追跡するとともに、今後の流行の予測と予防接種計画策定の資料とすることを目的とし1971年度に開始され、神奈川県では2013年度より調査に参加している。試験方法は赤血球凝集抑制試験によるHI抗体価の測定とし、HI抗体価の評価は、厚生労働省健康局結核感染症課、国立感染症研究所感染症疫学センターが発行している「感染症流行予測調査報告書」では、1:8以上を抗体保有者とし、感染阻止に必要と考えられているHI抗体価1:32以上とされている。しかし、風疹の感染阻止に有効な抗体価に関しては国内では未だ議論が定まっていないのが現状である。

2021年7月～9月の間に採血された530名（男性350名、女性180名）の風疹HI抗体価を測定した結果、抗体価1:8以上の抗体保有率は全体で87.4%、男女別では男性84.0%、女性93.9%であった。

2020年度の全国流行予測調査結果では、1歳未満の抗体保有率は32.0%、1歳で63.0%に上昇し、2歳から30歳代では90%以上を維持し、30歳代までは男女の差は見られず、40歳代から50歳代の年齢群では、男女差が大きい（男<女）特徴がある。今回の神奈川県における調査では、1歳未満の抗体保有率は45.5%であるが、定期接種が開始された1歳では78.9%に上昇し、2歳から30歳代では90%以上を維持していた。30歳代までの男女差は見られないものの、男女別では男性の抗体保有率（男性84.0%<女性93.9%）が低く、特に40歳代の年齢群での男女差（男性80.0%<女性100.0%）が大きく、全国の特徴（男性83.6%<女性98.0%）と一致していた。小児期に定期接種の機会がなかった1962年4月2日から1979年4月1日生まれの男性（40～49歳、50～59歳の年齢群）は、80.0%、77.0%と他の年齢群と比べ未だ抗体保有率は低かった。例年、女性50～59歳の年齢群の抗体保有率が90%以上であったが、今回の調査では、80.0%と例年に比べ低い傾向であった。抗体保有率の低い層は今後の感染と流行の主体になると考えられ、これらの年齢層別の抗体保有状況を引き続き監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への風疹ワクチン接種を継続して奨励する必要があると思われる。

表 風疹ウイルス抗体保有状況（2021年7月）

年齢	抗体価		HI抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024		1:8 以上	1:32 以上
1歳未満	6	2		1		1		1		11	45.5	27.3
1歳	4		1			1	4	7	2	19	78.9	73.7
2～4歳		4		2	7	14	3	6	1	37	100.0	89.2
5～9歳		1	2	7	9	3	1			23	100.0	87.0
10～14歳		2	1	9	13	4	1			30	100.0	90.0
15～19歳	1	2	5	7	12	3				30	96.7	73.3
20～24歳	1	1	3	8	11	2	4			30	96.7	83.3
25～29歳	2	1	6	11	4	4	2			30	93.3	70.0
30～34歳	3	1	5	6	7	6	1	2		31	90.3	71.0
35～39歳	2		4	3	8	5	3	3	1	29	93.1	79.3
40～49歳	20	2	4	9	18	24	24	5	9	115	82.6	77.4
50～59歳	26	2	2	5	14	22	20	17	7	115	77.4	73.9
60歳以上	2	1	3	6	6	2	4	4	2	30	93.3	80.0
計	67	19	36	74	109	91	67	45	22	530	87.4	77.0

表 風疹ウイルス抗体保有状況【男性】（2021年7月）

年齢	抗体価		HI抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%)		
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024		1:8 以上	1:32 以上	
1歳未満	4	2				1			1		8	50.0	25.0
1歳	2		1				2	1	1		7	71.4	57.1
2～4歳		2		2	2	8	3	2	1		20	100.0	90.0
5～9歳				2	6	2					10	100.0	100.0
10～14歳			1	3	7	3	1				15	100.0	93.3
15～19歳	1	2	3	3	6						15	93.3	60.0
20～24歳	1	1	2	4	5		2				15	93.3	73.3
25～29歳	1		3	6	1	4					15	93.3	73.3
30～34歳	2		2	3	2	3	1	2			15	86.7	73.3
35～39歳	1		2	1	4	3	2	1	1		15	93.3	80.0
40～49歳	20	2	2	7	15	20	22	5	7		100	80.0	76.0
50～59歳	23	2	1	2	13	20	18	15	6		100	77.0	74.0
60歳以上	1	1	1	2	3		1	4	2		15	93.3	80.0
計	56	12	18	35	64	64	52	31	18		350	84.0	75.4

表 風疹ウイルス抗体保有状況【女性】（2021年7月）

年齢	抗体価		HI抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%)		
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024		1:8 以上	1:32 以上	
1歳未満	2			1							3	33.3	33.3
1歳	2					1	2	6	1		12	83.3	83.3
2～4歳		2			5	6		4			17	100.0	88.2
5～9歳		1	2	5	3	1	1				13	100.0	76.9
10～14歳		2		6	6	1					15	100.0	86.7
15～19歳			2	4	6	3					15	100.0	86.7
20～24歳			1	4	6	2	2				15	100.0	93.3
25～29歳	1	1	3	5	3		2				15	93.3	66.7
30～34歳	1	1	3	3	5	3					16	93.8	68.8
35～39歳	1		2	2	4	2	1	2			14	92.9	78.6
40～49歳			2	2	3	4	2		2		15	100.0	86.7
50～59歳	3		1	3	1	2	2	2	1		15	80.0	73.3
60歳以上	1		2	4	3	2	3				15	93.3	80.0
計	11	7	18	39	45	27	15	14	4		180	93.9	80.0

(鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一)

(エ) 水痘

神奈川県衛生研究所

本調査は、ヒトの水痘帯状疱疹ウイルスに対する抗体保有状況を調査し、水痘ワクチンの効果を調査すること、また今後の流行予測と予防接種計画の資料とすることを目的とし、水痘ワクチンが定期接種対象疾患となった 2014 年度より全国的に実施され、神奈川県でも 2016 年度から調査に参加している。

2021 年 7 月～9 月の間に採血された 270 名について、水痘帯状疱疹ウイルスに対する IgG 抗体の測定を EIA 法により行った結果、抗体陽性とされる EIA 抗体価 4.0 以上の水痘抗体保有率は、全体で 66.7% (180 名) であった (表 1)。年齢群別に見ると、0 歳では 18.2%、1 歳では 31.6%、2 歳から 3 歳では 48.4%、4 歳から 9 歳では 27.6%、10 歳から 14 歳では 70.0%、15 歳から 19 歳では 80.0%、20 歳から 24 歳では 83.3%、25 歳から 29 歳では 83.3%、30 歳から 39 歳では 83.3%、40 歳以上では 96.7%であり、10 歳未満で低い傾向が見られた。前回、調査を実施した 2019 年での抗体保有率は 73.3%であり、2021 年では 10 歳から 14 歳と 40 歳以上を除いて抗体保有率の低下が見られた (表 2)。

水痘ワクチンの定期接種は 2014 年 10 月 1 日から開始され、生後 12 月から生後 36 月に至るまでの間 (1 歳の誕生日の前日から 3 歳の誕生日の前日) を対象とし、3 か月以上の間隔をおいて 2 回接種が実施されている。今回の調査では、2019 年よりも抗体保有率が低下し、また、10 歳未満の抗体保有率が低い傾向にあることが分かった。全国における水痘ワクチン接種率は、2020 年は 1 歳で約 75%、2 歳から 3 歳で 95%以上となっており、また、定期接種化後は水痘患者報告数が大きく減少しているとの報告もあることから、抗体保有率の動向は引き続き注視していく必要がある。

15 歳代以上では抗体保有率が 70%を超えているが、一定数の感受性者も存在しており、水痘は成人が罹患すると重症化すること、妊婦が感染すると先天性感染を引き起こす可能性もあることから、成人の感受性者へのワクチン接種も検討すべきと思われる。

表 1 年齢群別水痘抗体価一覧表（2021年）

年齢群	水痘 検体数	抗体陰性 <2.0	判定保留 2.0-3.9	抗体陽性 4.0<
0歳	11	5 45.5%	4 36.4%	2 18.2%
1歳	19	6 31.6%	7 36.8%	6 31.6%
2-3歳	31	2 6.5%	14 45.2%	15 48.4%
4-9歳	29	5 17.2%	16 55.2%	8 27.6%
10-14歳	30	6 20.0%	3 10.0%	21 70.0%
15-19歳	30	0 0.0%	6 20.0%	24 80.0%
20-24歳	30	2 6.7%	3 10.0%	25 83.3%
25-29歳	30	0 0.0%	5 16.7%	25 83.3%
30-39歳	30	2 6.7%	3 10.0%	25 83.3%
40歳以上	30	0 0.0%	1 3.3%	29 96.7%
合計	270	28 10.4%	62 23.0%	180 66.7%

表 2 年齢群別水痘抗体保有率（2021年、2019年）

年齢	2021年	2019年
0歳	18.2%	50.0%
1歳	31.6%	45.0%
2-3歳	48.4%	60.0%
4-9歳	27.6%	43.3%
10-14歳	70.0%	60.0%
15-19歳	80.0%	86.7%
20-24歳	83.3%	93.3%
25-29歳	83.3%	86.7%
30-39歳	83.3%	86.7%
40歳以上	96.7%	96.7%
合計	66.7%	73.3%

（佐野貴子、豊倉いつみ、渡邊寿美、近藤真規子、鈴木理恵子、櫻木淳一）

イ 感染源調査 (ア) 日本脳炎

神奈川県衛生研究所

わが国の日本脳炎患者数は、1950年代には年間数千人の発生があったが、1967年から1976年に実施された積極的なワクチン接種により患者は急速に減少し、1980年代には年間数十人となった。1992年以降は毎年10名以下の患者発生に留まり、患者発生地域は西日本に集中している。ブタは日本脳炎ウイルスに対する感受性が高く、ブタ体内で増殖したウイルスは、蚊を介してヒトや他の動物へ感染する。日本脳炎ウイルスの侵淫状況を把握し、ヒトへの感染予防の注意を促すため、前年の秋以降に生まれた県内産の豚について日本脳炎ウイルスの抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後5～8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、2021年7月から9月までの期間に80頭（1回10頭、8回実施）について、血中のJaGAr01株に対する抗体調査を実施した。その結果、今年度は80検体中3検体（7月、8月、9月に各1検体）から血球凝集抑制抗体が検出されたが、最近の感染を示唆する2-メルカプトエタノール（2-ME）感受性抗体（IgM抗体）は検出されなかった。2021年に神奈川県内での日本脳炎ウイルスの活動は確認されたものの、IgM抗体は保有しておらず最近の感染ではないと考えられた。例年のブタの日本脳炎感染源調査では、西日本の抗体保有率は高く、東日本で低い傾向があり、患者発生報告も同様に西日本では数例あるが、東日本でほとんどみられず、神奈川県内でも患者発生はなかった。ブタの日本脳炎ウイルスの抗体保有状況は、その地域での日本脳炎ウイルス侵淫状況を反映し、その活動が活発である場合には、日本脳炎の予防接種を受けていない乳幼児や高齢者は蚊に刺されないようにするなどの注意喚起を行うためにも、今後も継続してブタの日本脳炎抗体保有状況の調査を実施する必要がある。

（鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一）

(3) 感染症媒介蚊のサーベイランス

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県では、デングウイルス等の感染症を媒介する蚊の生息状況調査を 10 カ所の公園で毎年 6 月から 10 月まで、各公園内に 2 カ所ずつ CO₂ トラップを 24 時間設置し蚊を採取していたが、2021 年は SARS-CoV-2 の流行拡大により本事業は中止となった。

(鈴木理恵子、日紫喜隆行、高橋淳子、櫻木淳一)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

デングウイルス、ジカウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルスなどを含むフラビウイルス属や、チクングニアウイルス等による感染症を媒介する蚊の 2021 年度サーベイランス事業は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける危機管理対策の一環として、開催地周辺を含めた市内 24 か所でライトトラップ法による捕集、さらに、開催地とイベントや観光客の多い公園（4 か所 12 ポイント）で人囮法による蚊の捕集を行い実施した。

ライトトラップの設置、回収、当所への搬送に関しては、主に横浜市各区福祉保健センター生活衛生課の協力で実施、7 か所については、一連の作業を（公社）神奈川県ペストコントロール協会（PCO）に委託した。ライトトラップ法の捕集は、PCO 委託 7 か所で 5 月 11 日から 10 月 12 日までの期間中、二週に 1 回計 12 回、その他 17 か所で 6 月 1 日から 10 月 12 日までの期間中、二週に 1 回計 10 回実施した。人囮法の捕集は、5 月 12 日から 10 月 13 日までの期間中、二週に 1 回計 12 回実施した。捕集した蚊類の匹数は、それぞれ表 1、表 4、種別は表 2、表 5 に示した。

ウイルス検査は、ライトトラップ法で捕集した蚊雌成虫 7,707 匹、人囮法で捕集したヒトスジシマカとコガタアカイエカの蚊雌成虫のみ 208 匹、計 7,915 匹を対象に行った。種別に 50 匹を上限としたプール検体を 275 プール作成し、フラビウイルス属遺伝子は、共通プライマーを使用したコンベンショナル RT-PCR、チクングニアウイルス遺伝子は、特異的プライマー・プローブを使用したリアルタイム PCR を実施した。その結果、ライトトラップ法、人囮法共にすべての検体で、いずれのウイルス遺伝子も不検出であった（表 3、表 6）。

表1 ライトトラップ法による蚊雌成虫捕集匹数（横浜市）

区名	回数 設置月	1		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
		5月	5月	6月	6月	6,7月	7月	7,8月	8月	8月	9月	9月	10月	
1 鶴見	大黒中央公園	実施せず		9	9	16	31	48	59	4	59	123	14	372
2 神奈川	三ツ沢公園	実施せず		24	12	5	107	27	10	80	16	11	1	293
3 西	掃部山公園	実施せず		32	51	26	217	162	129	125	21	17	38	818
4 西	臨港パーク	41	82	80	22	35	139	100	70	44	75	132	11	831
5 中	山下公園	42	28	17	14	1	15	10	4	3	12	14	2	162
6 中	横浜公園	34	13	35	10	42	12	4	3	6	8	3	7	177
7 中	港の見える丘公園	22	32	4	6	10	7	32	9	52	8	23	0	205
8 南	シンボルタワー	実施せず		79	26	15	73	17	23	14	10	60	21	338
9 南	蒔田の森公園	実施せず		12	24	5	14	19	58	31	47	73	19	302
10 港南	久良岐公園	実施せず		6	39	18	12	42	16	4	30	39	9	215
11 保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園	実施せず		14	10	20	24	43	30	22	25	35	11	234
12 旭	こども自然公園	実施せず		7	15	8	4	53	101	32	8	40	3	271
13 磯子	坪呑公園	実施せず		9	17	20	4	25	29	21	8	10	5	148
14 金沢	海の公園	実施せず		22	120	44	9	59	28	32	65	22	16	417
15 港北	新横浜駅前公園	37	5	65	42	19	55	20	28	39	20	33	8	371
16 港北	新横浜公園(東ゲート)	35	3	10	17	14	33	6	7	5	16	13	3	162
17 港北	新横浜公園(西ゲート)	8	0	11	20	10	10	1	1	5	4	5	3	78
18 緑	北八朔公園	実施せず		69	48	13	139	53	23	141	55	242	15	798
19 青葉	桜台公園	実施せず		4	4	3	2	0	1	1	6	45	1	67
20 都筑	都筑中央公園	実施せず		2	29	8	108	45	4	44	3	23	0	266
21 戸塚	舞岡公園	実施せず		2	9	7	5	19	18	7	3	3	12	85
22 栄	本郷ふじやま公園	実施せず		18	14	16	8	68	2	10	34	63	36	269
23 泉	泉中央公園	実施せず		0	4	33	26	54	77	21	33	97	61	406
24 瀬谷	二ツ橋南公園	実施せず		5	4	27	27	87	154	71	20	14	13	422
総計		219	163	536	566	415	1,081	994	884	814	586	1,140	309	7,707

表2 ライトトラップ法による蚊雌成虫の種類別匹数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
アカイエカ群	213	121	355	347	201	163	80	41	34	88	106	50	1,799
ヒトスジシマカ	4	40	125	165	181	845	849	796	740	441	822	224	5,232
コガタアカイエカ	0	0	1	0	1	7	1	4	5	9	35	8	71
ヤマトヤブカ	0	0	17	30	11	22	20	19	13	20	59	16	227
オオクロヤブカ	0	0	7	7	2	9	14	5	4	9	54	1	112
キンパラナガハシカ	1	2	25	13	9	13	11	4	2	14	48	5	147
その他 (*1)	1	0	6	4	10	22	19	15	16	5	16	5	119
総計	219	163	536	566	415	1,081	994	884	814	586	1,140	309	7,707

(*1) その他は、カラツイエカ、ハマダラナガスネカ、破損の激しいものを含む

表3 ライトトラップ法で捕集した蚊雌成虫のウイルス遺伝子検査結果（*2）

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
フラビウイルス属	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（*2）アカイエカ群のジカウイルス、チクングニアウイルス遺伝子検査は実施せず

表4 人囮法による蚊雌成虫捕集匹数（横浜市）

実施公園	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
	設置月	5月	5月	6月	6月	7月	7月	8月	8月	9月	9月	9月	10月	
1 中区	①	0	2	0	0	1	1	2	2	7	12	8	0	35
2 山下公園	②	0	1	0	1	0	0	0	3	9	5	1	1	21
3 園	③	4	1	0	5	2	3	5	4	6	6	7	0	43
4 中区	④（*3）	0	0	0	1	1	／	2	4	4	3	1	1	17
5 横浜公園	⑤	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	1	6
6 園	⑥	1	1	2	1	1	3	1	7	4	4	10	2	37
7 港北区	⑦	0	0	0	0	2	1	0	0	3	1	1	0	8
8 新横浜公園	⑧	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
9 園	⑨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 中区	⑩	1	0	2	0	1	1	2	0	3	3	1	0	14
11 大通り公園	⑪	3	1	0	1	2	2	2	0	3	2	2	4	22
12 園	⑫	1	0	1	3	1	1	0	1	2	5	1	2	18
総計		12	6	6	13	11	12	14	21	43	42	34	11	225

（*3）ポイント④ 6回は立ち入り禁止のため実施せず

表5 人囮法による蚊雌成虫の種類別匹数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総計
アカイエカ群	0	1	2	4	0	0	1	0	0	1	0	3	12
ヒトスジシマカ	11	5	4	8	10	12	13	21	42	40	32	8	206
コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他（*4）	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	5
総計	12	6	6	13	11	12	14	21	43	42	34	11	225

（*4）その他は、オオクロヤブカ、破損の激しいものを含む

表6 人囮法で捕集した蚊雌成虫のウイルス遺伝子検査結果（*5）

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
フラビウイルス属	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（*5）ヒトスジシマカ、コガタアカイエカ雌成虫のみ実施

（林 宏子、伊藤真弓、小曾根恵子、宇宿秀三、田中伸子）

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では毎年5月から10月まで市内7箇所の保健所支所にライトトラップを設置し、蚊の捕集と蚊媒介感染症のウイルス調査を行っていたが、2020年からSARS-CoV-2の流行により本事業の実施を見合わせており、2021年も実施しなかった。

(若菜愛澄、赤星千絵)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021年、東京2020オリンピック競技会の事前キャンプ地となっていた4か所の周辺において、デングウイルス等媒介蚊の調査のため、6月及び7月は月2回、8月から10月までは月1回、ヒトスジシマカのメスのウイルス保有状況調査を実施した。蚊の採取方法は人囮法で実施し、採取後の蚊を分類した後、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性だった。なお、7月前半と9月については、悪天候のため調査を中止した。

表 相模原市のデング熱等媒介蚊検査結果

採集月 (ヒトスジシマカ雌数)	6月		7月		8月	9月	10月	総計
相模大野中央公園	2	1	中止	7	1	中止	2	13
グリーンプール周辺	6	13	中止	8	4	中止	13	25
ギオンアリーナ周辺	4	6	中止	2	3	中止	2	17
相模大野中央公園 (南区)	2	1	中止	15	3	中止	10	31
合計	14	21	0	32	11	0	27	86

遺伝子の検出結果								
デングウイルス	陰性	陰性	中止	陰性	陰性	中止	陰性	
チクングニアウイルス	陰性	陰性	中止	陰性	陰性	中止	陰性	
ジカウイルス	陰性	陰性	中止	陰性	陰性	中止	陰性	

(矢島理志、吉川聡一、木内郁代、井村香織、坂扶美子、田村有美、金沢聡子、播磨由利子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として2021年6月から10月まで計5回実施した。設置場所は三笠公園敷地内、動物愛護センター敷地内、くりはま花の国敷地内およびソレイユの丘敷地内とし、BGセンチネルトラップを使用し蚊を捕獲、分類した後、ウエストナイルウイルス遺伝子、デングウイルス遺伝子、チクングニアウイルス遺伝子及びジカウイルス遺伝子についてRT-PCRを実施した。その結果、いずれの遺伝子も不検出であった。

表 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊（雌）検査結果

採集月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
三笠公園	9	17	41	21	4	92
動物愛護センター	15	17	19	5	6	62
くりはま花の国	1	5	5	2		13
ソレイユの丘	11	19	26	3	3	62
総計	36	58	91	31	13	229

蚊の種類	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ	14	4	7		2	27
コガタアカイエカ						0
ヒトスジシマカ	16	49	73	31	10	179
ヤマトヤブカ	1	1				2
オオクロヤブカ					1	1
キンバラナガハシカ		3	7			10
ハマダラナガスネカ						0
イエカ類		1	1			2
ヤブカ類	5		3			8
分類不能						0
総計	36	58	91	31	13	229

ウイルス遺伝子検査結果

ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(長澤由美子、天野肇)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

デングウイルス等媒介蚊の調査のため、2021年6月から10月まで、市内の公園等4カ所で、ヒトスジシマカ雌のウイルス保有状況を調査した。蚊の採取方法は人囃法で実施し、採取後の蚊を分類した後、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性だった。

表 藤沢市のデング熱等媒介蚊検査結果

採取月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
江の島（サムエルコッキング苑）	17	6	5	4	6	38
江の島（中津宮）	0	4	0	0	0	4
奥田公園	19	17	4	35	6	81
円行公園	0	2	9	16	6	33
総計	36	29	18	55	18	156

ウイルス遺伝子検査結果					
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ジカウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(佐藤健、松葉友美、水上稚子、平井有紀)

2 細菌性感染症

(1) 細菌性腸管系感染症検査状況

ア 3類感染症

(ア) 腸管出血性大腸菌感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

2021年1月から12月に当所に搬入された腸管出血性大腸菌（Enterohemorrhagic *Escherichia coli*: EHEC）菌株は21株であった。その血清型と毒素型は表のとおりであり、0157が11株と一番多く、026が7株及び0111が3株であった。家庭内感染事例は6事例15株であった。

表 神奈川県の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

(単位：株)

所管保健福祉事務所 センター等	血清型・毒素型				合 計
	0157		026	0111	
	VT1&2	VT2	VT1	VT1	
平塚保健福祉事務所	3	1	1		5
平塚保健福祉事務所秦野センター					0
鎌倉保健福祉事務所					0
鎌倉保健福祉事務所三崎センター					0
小田原保健福祉事務所			2	3	5
小田原保健福祉事務所足柄上センター					0
厚木保健福祉事務所		4	4		8
厚木保健福祉事務所大和センター		3			3
茅ヶ崎市保健所					0
合計	3	8	7	3	21

(政岡智佳、今井良美、鈴木美雪、岩井宏樹、古川一郎)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2021年1月から12月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は425株であった。その血清型と毒素型は表のとおりであり、0群別では0111が一番多く255株(60.0%)であった。次いで0157が66株、026が18株、0174が13株、0156が12株、0175が12株、それ以外の血清群が17血清群49株となった。0111は保育園において集団発生があったため分離菌株の数が例年より大幅に増加した。それ以外に0174、0156などの珍しい血清群の株が例年より多く分離された。

表 横浜市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT1&2	21
0157 : H7	VT2	24
0157 : H-	VT1	2
0157 : H-	VT1&2	18
0157 : H-	VT2	1
026 : H11	VT1	17
026 : H-	VT1	1
0111 : H-	VT1	252
0111 : H-	VT1&2	3
0174 : H-	VT1&2	5
0174 : H8	VT1&2	6
0174 : H21	VT2	2
0156 : H25	VT1	12
0175 : H15	VT1	12
0121 : H19	VT2	8
0103 : H11	VT1	3
0103 : H2	VT1	3
09 : H-	VT2	1
09 : H7	VT2	3
091 : H-	VT1	1
091 : H-	VT1&2	3
0128 : H2	VT1&2	4
03 : H21	VT1	3
076 : H19	VT1&2	3
0168 : H8	VT2	3
098 : H-	VT1	2
08 : H-	VT2	1
028ac : H25	VT1	1
0101 : H-	VT1	1
0145 : H-	VT1	1
0182 : H25	VT2	1
OUT : H45	VT1	5
OUT : H9	VT1	1
OUT : H29	VT2	1
計		425

(小泉充正、松本裕子、小川敦子、後藤千恵子、川端奈津子、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021年1月から12月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は65株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、最も多い血清型は0157の42株(64.6%)であった。

表 川崎市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157	VT1&2	39
	VT2	3
026	VT1	10
091	VT1&2	1
	VT1	1
0103	VT1	1
0111	VT1&2	1
0128	VT1&2	1
OUT	VT1&2	1
	VT1	4
	VT2	3
計		65

(吉田裕一、三亀美津穂、阿部光一郎、安澤洋子、福島和弥)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021年1月から12月までに相模原市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は7株であった。その血清型及び毒素型は表のとおりで、最も多い血清型は0157の3株(43%)であった。

表 相模原市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT2	2
0157 : H7	VT1&2	1
026 : H11	VT1	2
091 : H14	VT1	1
OUT : HNM	VT2	1
計		7

(木内郁代、田村有美、坂扶美子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021年1月から12月までに、医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び横須賀市保健所から提出された、感染症法に基づく発症者・発症者家族及び接触者の検便は10件で、分離された腸管出血性大腸菌は4株であった。その血清型及び毒素型を表に示す。

表 横須賀市の腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	菌株数
0103 : HNM	VT1, <i>eae</i>	4

(片倉孝子、金川治義)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

2021年1月から12月までに感染症法に基づく感染症病原菌検査として当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は1株であった。その血清型及び毒素型は026:H11、VT1であった。

(佐藤健、松葉友美、水上稚子、平井有紀)

(イ) 細菌性赤痢・コレラ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

<赤痢菌>

2021年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）において赤痢菌株が検出された事例は認められなかった。

<コレラ菌>

2021年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）においてコレラ菌株が検出された事例は認められなかった。

（政岡智佳、今井良美、鈴木美雪、岩井宏樹、古川一郎）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

<赤痢菌>

2021年1月から12月までに横浜市内で赤痢菌が分離された事例は認められなかった。

<コレラ菌>

2021年1月から12月までに横浜市内でコレラ菌が分離された事例は認められなかった。

（松本裕子、酒井敬介）

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

<赤痢菌>

2021年1月から12月までに川崎市において赤痢菌が分離された事例は認められなかった。

<コレラ菌>

2021年1月から12月までに川崎市においてコレラ菌が分離された事例は認められなかった。

（吉田裕一、三亀美津穂、阿部光一郎、安澤洋子、福島和弥）

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

<赤痢菌>

2021年1月から12月までに相模原市内において赤痢菌が検出された事例は認められなかった。

<コレラ菌>

2021年1月から12月までに相模原市内においてコレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(木内郁代、田村有美、坂扶美子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

<赤痢菌>

2021年1月から12月までに横須賀市において赤痢菌が検出された事例は認められなかった。

<コレラ菌>

2021年1月から12月までに横須賀市においてコレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(片倉孝子、金川治義)

(ウ) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)

神奈川県衛生研究所

2021年1月から12月までに神奈川県内(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)において腸チフス・パラチフス菌株が検出された事例は認められなかった。

(政岡智佳、古川一郎)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2021年1月から12月までの間に横浜市内において腸チフス・パラチフス菌株が検出された事例は認められなかった。

(松本裕子、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021年1月から12月までに川崎市内においてチフス、パラチフスA菌が分離された事例は認められなかった。

(吉田裕一、三亀美津穂、阿部光一郎、安澤洋子、福島和弥)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021年1月から12月までに相模原市内においてチフス菌、パラチフスA菌が検出された事例は認められなかった。

(木内郁代、田村有美、坂扶美子)

④ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021年1月から12月までに横須賀市内においてチフス菌、パラチフスA菌が検出された事例は認められなかった。

(片倉孝子、金川治義)

イ 5類感染症

(ア) 細菌性感染性胃腸炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2021年1月から12月までの間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。病原菌の検出数は17件中4件（23.5%）であり、全て下痢原性大腸菌であった。

表 神奈川県の細菌性感染性胃腸炎検査状況

(単位：件)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	3	2	1	1	0	3	2	1	0	3	0	1	17
陽性検体数	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	4
陽性率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	23.5
下痢原性大腸菌						1	1	1				1	4
不検出	3	2	1	1	0	2	1	0	0	3	0	0	13

(鈴木美雪、政岡智佳、古川一郎)

ウ 薬剤耐性菌

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2021年1月から12月までに神奈川県内（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で分離され当所に送付された薬剤耐性菌のうち、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）は12株及びCRE疑いは2株であった。CRE菌株のうち2株からカルバペネマーゼ遺伝子が検出され、その全てが *bla*_{IMP-1} であった。菌種別の搬入数は *Klebsiella aerogenes* が6株と一番多く、次いで *Enterobacter cloacae* 及び *Klebsiella oxytoca* が2株、さらに *Klebsiella pneumoniae* 及び *Citrobacter freundii* が1株であった。CRE疑いの2株については、検査の結果届出対象外となった。この他に、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）29株及び基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ（ESBL）産生疑い *K. oxytoca* 6株が搬入されパルスフィールド・ゲル電気泳動（PFGE）法で遺伝子型別を実施した。その結果、MRSAでは3つのクラスターが形成され各クラスター内の菌株の関連が疑われた。ESBL産生疑い *K. oxytoca* では、PCR法でESBL遺伝子は検出されなかったが、全ての菌株のPFGEパターンの類似性が高く菌株同士の関連が疑われた。

表 神奈川県のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

（単位：株）

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子 陽性株数	カルバペネマーゼ遺伝子 内訳(株数)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	6		
<i>Klebsiella oxytoca</i>	2	2	IMP-1(2)
<i>Enterobacter cloacae</i>	2		
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1		
<i>Citrobacter freundii</i>	1		
計	12	2	

（政岡智佳、鈴木美雪、古川一郎）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2021年1月から12月までに横浜市で分離され当所に送付された薬剤耐性菌は、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）4株、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）79株（届出対象51株、届出対象外28株）、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）2株であった。VREは全て *vanA* 遺伝子を保有する *Enterococcus faecium* であった。CREの詳細は表のとおりである。

表1 横浜市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ内訳
<i>Citrobacter freundii</i> complex	2	1	IMP-1
<i>Citrobacter koseri</i>	1	0	
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	22	8	IMP-1
<i>Escherichia coli</i>	1	0	
<i>Escherichia hermannii</i>	1	1	IMP-1
<i>Klebsiella aerogenes</i>	18	0	
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	6	6	NDM-5 (1), IMP-1 (5)
計	51	16	

表2 横浜市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象外患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ陽性数	カルバペネマーゼ内訳
<i>Citrobacter farmeri</i>	1	1	IMP-11
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	16	13	IMP-19 (1), IMP-1 (12)
<i>Escherichia coli</i>	2	0	
<i>Klebsiella aerogenes</i>	4	0	
<i>Klebsiella oxytoca</i>	1	1	IMP-11
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	3	0	
グラム陰性桿菌	1	1	IMP-11
計	28	16	

（松本裕子、小泉充正、後藤千恵子、酒井敬介）

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021年1月から12月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が38株（発生届出対象患者由来31株、届出対象外7株）であり、詳細は表に示した。

表1 川崎市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（発生届出対象患者）

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子	カルバペネマーゼ
		陽性数	遺伝子内訳(株数)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	17	0	-
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	3	0	-
<i>Enterobacter cloacae</i>	2	0	-
<i>Escherichia coli</i>	6	0	-
<i>Citrobacter braakii</i>	2	0	-
<i>Citrobacter freundii</i>	1	0	-
計	31	0	

表2 川崎市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果（届出対象外）

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子	カルバペネマーゼ
		陽性数	遺伝子内訳(株数)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	2	0	-
<i>Enterobacter cloacae</i>	2	0	-
<i>Escherichia coli</i>	1	2	IMP-1(1)、IMP-19(1)
<i>Citrobacter freundii</i>	2	2	IMP-1(2)
計	7	4	

(吉田裕一、三亀美津穂、阿部光一朗、安澤洋子、福島和弥)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

2021年1月から12月までに相模原市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が7株であり、詳細は表に示した。

表 相模原市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子 陽性数	カルバペネマーゼ 遺伝子内訳(株数)
<i>Enterobacter cloacae</i>	2	0	-
<i>Klebsiella aerogenes</i>	5	0	-
計	7	0	

(矢島理志、金沢聡子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021年1月から12月までに横須賀市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が5株、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）が1株であった。詳細は表に示した。

表1 横須賀市のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査結果

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子陽性数	カルバペネマーゼ遺伝子
<i>Klebsiella aerogenes</i>	2	0	
<i>Enterobacter cloacae</i>	1	0	
<i>Enterobacter hormachei</i>	2	1	IMP-1
計	5	1	

表2 横須賀市のバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の検査結果

菌種	株数	バンコマイシン耐性遺伝子
<i>Enterococcus faecium</i>	1	<i>vanA</i>
計	1	

(片倉孝子、金川治義)

⑥ 藤沢市

藤沢市保健所

2021年1月から12月までに藤沢市内の医療機関等で分離され当所に搬入された薬剤耐性菌は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が3株であった。カルバペネマーゼ遺伝子が陽性と判定された菌株はなかった。

(佐藤健、松葉友美、水上稚子、平井有紀)

(2) 細菌性呼吸器系感染症検査状況

ア 2類感染症

(ア) 結核

a 感染診断検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

結核感染診断法として Interferon-gamma release assay (IGRA) が開発され、現在国内ではクオンティフェロン®TB-ゴールド：QFT-4G（以下 QFT とする）と T-スポット®.TB (T-SPOT) が使用されている。これらは、従来のツベルクリン反応検査よりも信頼性が高く、結核予防対策上の有用性が期待されており、「結核に関する特定感染症予防指針（2016年11月改正）」においても、IGRA を積極的に活用することが重要であるとされている。当所では、各保健福祉事務所及びセンターの結核接触者健康診断（健診）に対応するため、QFT 検査を実施している。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における 2021 年の検査検体数は 482 検体であった。検査結果は、陽性が 37 検体（7.7%）、陰性が 444 検体（92.1%）、判定不可が 1 検体（0.2%）であった（表）。

表 結核接触者検診における QFT 検査結果（2019 年～2021 年）

年	事例数	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
			検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
2019	271	1,242	88	(7.1)	25	(2.0)	1,128	(90.8)	1	(0.1)
2020	202	580	36	(6.2)	—	(—)	543	(93.6)	1	(0.2)
2021	121	482	37	(7.7)	—	(—)	444	(92.1)	1	(0.2)

※2019 年 1～3 月の 341 検体については QFT-3G を使用したため判定保留の結果判定項目が含まれている。同年 4 月～12 月の 901 検体及び 2020 年以降の検体については QFT-4G を使用したため、判定保留の結果判定項目はない。

2019 年から 2021 年の被験者と患者の接触場所別事例数を図に示した。2021 年の事例数を接触場所別にみると延べ 150 事例となり、その内訳は、前年同様に家庭が 89 事例と最も多く、職場が 16 事例、医療機関が 10 事例であった。1 事例あたりの検体数は、職場が 3.3 検体と最も多く、医療機関が 3.2 検体、家庭が 2.2 検体であった。接触場所別の陽性率は、職場が 15.1%（8 検体/53 検体）と最も高く、家庭が 7.1%（14 検体/196 検体）、医療機関は 32 検体全て陰性だった。

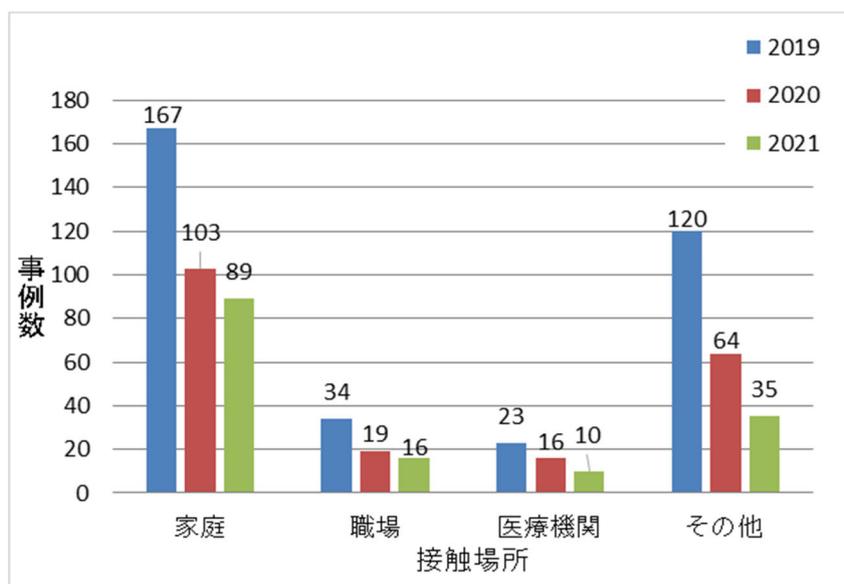


図 被験者と患者の接触場所別事例数 (2019～2021年)

(中嶋直樹、三谷詠里子、鈴木美雪、陳内理生、伊達佳美、稲田貴嗣、古川一郎、櫻木淳一)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では結核接触者検診を2007年からQFT検査、2013年12月からはT-SPOT.TB検査を実施してきた。2021年はT-SPOT.TB検査から再びQFT検査へ段階的に移行することとなり、T-SPOT.TB検査件数は35件で結果は陽性3件(8.6%)、陰性31件(88.6%)、陰性判定保留1件(2.8%)で、QFT検査件数は300件で結果は、陽性28件(9.3%)、陰性257件(85.7%)、判定保留15件(5.0%)であった。

表 川崎市の結核接触者検診におけるT-SPOT.TB検査結果(2021年)

検体数	陽性	陽性判定保留	陰性判定保留	陰性	判定不可
	検体数(%)	検体数(%)	検体数(%)	検体数(%)	検体数(%)
35	3(8.6)	0(0.0)	1(2.8)	31(88.6)	0(0.0)

表 川崎市の結核接触者検診におけるQFT検査結果(2021年)

検体数	陽性	判定保留	陰性	判定不可
	検体数(%)	検体数(%)	検体数(%)	検体数(%)
300	28(9.3)	15(5.0)	257(85.7)	0(0.0)

(赤木英則、淀谷雄亮、西里恵美莉)

③ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市では2009年から結核接触者検診におけるQFT検査を実施している。2021年は、検査件数270件、陽性19件（7.0%）であった。

表 相模原市の結核接触者検診におけるQFT検査結果（2019～2021年）

年	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
		検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
2019年	188	9	(4.8)	0	(0.0)	179	(95.2)	0	(0.0)
2020年	171	17	(9.9)	0	(0.0)	154	(90.1)	0	(0.0)
2021年	270	19	(7.0)	0	(0.0)	251	(93.0)	0	(0.0)
合計	629	45	7.2	0	0.0	584	92.8	0	0.0

(矢島理志、井村香織、金沢聡子)

b 遺伝子型別検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県では、結核菌分子疫学調査事業に基づき、所管保健福祉事務所等に登録された結核患者から分離された結核菌株を収集し、VNTR法（24解析領域）による遺伝子型別検査を実施している。2021年は31株を検査し、結果を得た。結果をミニマム・スパニング・ツリー（MST）で図示した。

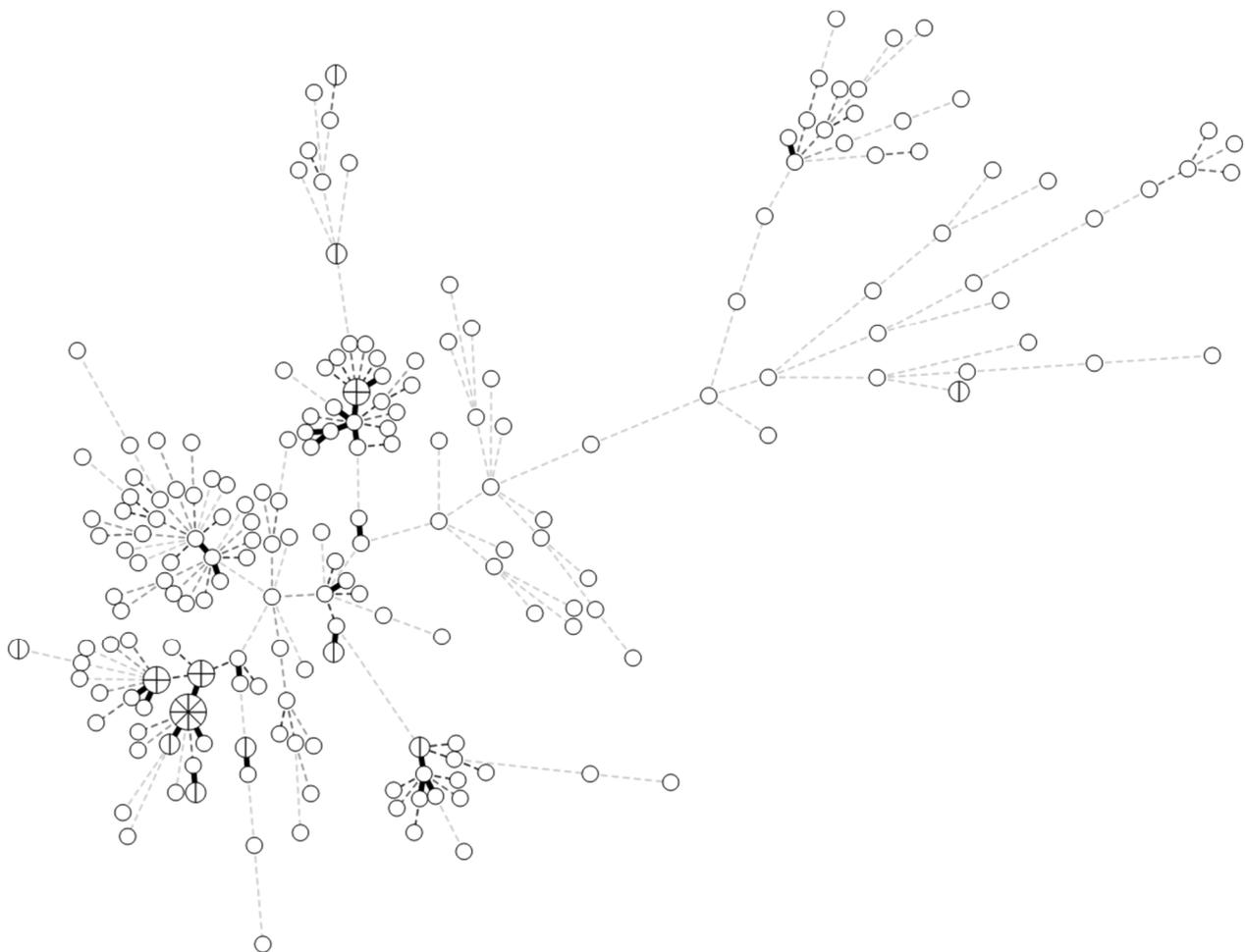


図 2019～2021年に収集した結核菌のVNTR法によるMST

実線：1領域違い、点線：2領域以上違い

（中嶋直樹、三谷詠里子、陳内理生、伊達佳美、古川一郎、櫻木淳一）

② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市では、横浜市結核分子疫学調査実施要領に基づき、市内で登録された結核患者から分離された結核菌株を収集し、VNTR 法による遺伝子型別検査を実施している。2021 年 1 月から 12 月までに 85 株を検査し、そのうち重複検体を除いた 83 株について、瀬戸らの方法 (Seto J, Wada T, et al. Infect Genet Evol. 2015 35:82-88) を用いて遺伝系統の推定を実施した結果、北京型株 67.5% (56 株)、非北京型株 32.5% (27 株) であった。

(小川敦子、後藤千恵子、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市では、結核菌分子疫学調査事業に基づき、各区保健所支所に登録された結核患者等から分離された結核菌株を収集し、VNTR 法による遺伝子型別検査を実施している。2021 年は 18 株について検査を行った。VNTR 型別結果から、瀬戸らの方法 (Seto J, Wada T, et al. Infect Genet Evol. 2015 35:82-88) を用いて遺伝系統の推定を実施した結果、北京型株 66.7% (12 株)、非北京型株 33.3% (6 株) であった。

(赤木英則、淀谷雄亮、西里恵美莉)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市では 2020 年から結核対策事業に基づき、市内で登録された結核患者等から分離された結核菌株を収集し、VNTR 法による遺伝子型別検査を実施している。2021 年は 32 株について検査を行った。VNTR 型別結果から、瀬戸らの方法 (Seto J, Wada T, et al. Infect Genet Evol. 2015 35:82-88) を用いて遺伝系統の推定を実施した結果、北京型株 71.9% (23 株)、非北京型株 28.1% (9 株) であった。

(矢島理志、坂扶美子、金沢聡子)

イ 4類感染症

(ア) レジオネラ症

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く） 神奈川県衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった神奈川県域の医療機関の患者検体（喀痰等）について、培養法およびLAMP法（必要に応じて）による検査を実施している。2021年は、16検体を培養法で検査し、8検体（50.0%）が陽性だった。培養法により検出されたレジオネラ属菌8株は、7株がレジオネラニューモフィラ血清群1、1株がレジオネラニューモフィラ血清群5であった。

（中嶋直樹、三谷詠里子、陳内理生、伊達佳美、古川一郎、櫻木淳一）

- ② 横浜市 横浜市衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった横浜市内の医療機関の患者検体について、喀痰等呼吸器検体については、培養法による検査を実施している。2021年は、27検体を検査し、9検体（33.3%）が陽性であった。検出されたレジオネラ属菌9株は、8株がレジオネラニューモフィラ血清群1、1株がレジオネラニューモフィラ血清群6であった。それ以外に医療機関から菌株が3株搬入され、2株がレジオネラニューモフィラ血清群1、1株がレジオネラニューモフィラ血清群5であった。

（松本裕子、酒井敬介）

- ③ 川崎市 川崎市健康安全研究所

レジオネラ症の発生届があった川崎市内の医療機関の患者検体（喀痰等）について、培養法およびLAMP法による検査を実施している。2021年は、培養法で11検体を検査し、5検体（45.4%）が陽性であった。培養法により検出されたレジオネラ属菌5株は、4株がレジオネラニューモフィラ血清群1、1株がレジオネラニューモフィラ血清群2であった。

（赤木英則、淀谷雄亮、西里恵美莉）

- ④ 相模原市 相模原市衛生研究所

レジオネラ症の発生届があった相模原市内の医療機関の患者検体について、喀痰等呼吸器検体については、培養法による検査を実施している。2021年は、1検体を検査しレジオネラニューモフィラ血清群1が陽性であった。

（木内郁代、田村有美、坂扶美子）

- ⑤ 横須賀市 横須賀市健康安全科学センター

レジオネラ症の発生届があった横須賀市内の医療機関の患者検体について、培養法による検査を実施している。2021年は、喀痰1検体を検査し、陰性であった。

（片倉孝子、宍戸みずほ、金川治義）

ウ 5 類感染症

(ア) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症発生動向調査の一環として、小児科定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し、当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。2021年1月から12月までに搬入された検体30件中4検体からA群溶血性レンサ球菌が分離され、全てTB3264型であった。

2018～2021年のT型の経年推移を図に示した。検出数は2018年以降最も少なかった。

表 A 群溶血性レンサ球菌のT型別結果

血清型	T1	T3	T4	T6	T11	T12	T13	T25	T28	TB3264	計
株数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4

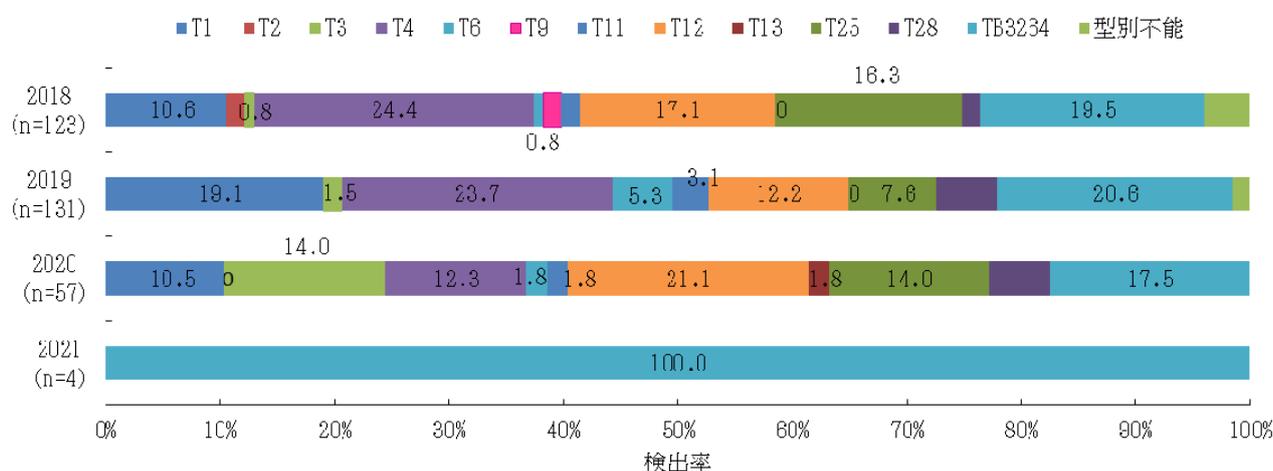


図 A 群溶血性レンサ球菌 T 型検出率の経年推移 (2018～2021 年)

(伊達佳美、岡村文、三谷詠理子、中嶋直樹、陳内理生、古川一郎、櫻木淳一)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、小児科定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。2021年1月から12月までに搬入された検体5件中1検体から、A群溶血性レンサ球菌TB3264型が分離された。

表 A 群溶血レンサ球菌のT型別結果

	TB3264	計
2021年1～12月	1	1

(後藤千恵子、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。2021年1月から12月までに搬入された検体は1件で、A群溶血性レンサ球菌は分離されなかった。

(赤木英則、淀谷雄亮、西里恵美莉)

④ 相模原市

相模原市衛生研究所

相模原市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において採取された咽頭ぬぐい液について溶血性レンサ球菌の検査を実施している。溶血性レンサ球菌の感染を疑い2021年に搬入された4検体からはA群溶血性レンサ球菌が分離された事例は認められなかった。

(木内郁代、坂扶美子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021年1月から12月までに、当センターにおいてA群溶血性レンサ球菌が分離された事例は認められなかった。

(片倉孝子、金川治義)

(イ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、 侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

2021年は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株7株について、一部国立感染症研究所に依頼し血清型別等を行ったので、その結果を表に示す。

依頼した株は全てG群であり、菌種が *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であった。その *emm* 遺伝子型は *stG* 6792.3 (100%) と *stG* 4222.0(100%) が各2株、*stG* 245.0(100%)、*stG* 653.0(100%) *stG* 10.0 (100%) が各1株であった。

当所に2021年に搬入された侵襲性肺炎球菌感染症起因株7株について国立感染症研究所に依頼し、血清型別検査を実施した結果、3型、22F型、23A型、24B型、24F型、31型および34型であった。侵襲性インフルエンザ菌感染症および侵襲性髄膜炎菌感染症起因株の搬入はなかった。

表 神奈川県 of 劇症型溶血レンサ球菌の同定結果

No.	年齢	性別	Lancefield 群別	菌種	<i>emm</i> 遺伝子型
1	57 歳	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG10.0 (100%)</i>
2	72 歳	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG6792.3 (100%)</i>
3	71 歳	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG6792.3 (100%)</i>
4	87 歳	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG4222.0(100%)</i>
5	92 歳	F	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG4222.0(100%)</i>
6	92 歳	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG245.0(100%)</i>
7	59 歳	M	G	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	<i>stG653.0(100%)</i>

(陳内理生、伊達佳美、岡村文、三谷詠理子、中嶋直樹、古川一郎、櫻木淳一)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2021年は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株 20 事例 25 株について、一部国立感染症研究所に依頼し血清型別等を行った。その結果は表に示す。

侵襲性インフルエンザ菌感染症起因株 6 事例 6 株について血清型及び莢膜遺伝子の決定を行った。5 株が無莢膜株であり血清型別不能であった。1 株が e 型であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症の事例は認められなかった。

侵襲性肺炎球菌感染症起因株 14 事例 15 株について、国立感染症研究所に依頼し血清型別を行った。15B 型、22F 型、24B 型、24F 型がそれぞれ 2 株、3 型、6C 型、7C 型、15A 型、16F 型、23A 型、35F 型がそれぞれ 1 株であった。

表 横浜市の劇症型溶血性レンサ球菌の同定結果

No.	分離月	性別	年齢	ランスフィールド型	血清型, 菌種等
1	1	男	74	A	T4 , M4 , <i>emm4. 0</i>
2	1	男	28	B	II
3	2	女	83	G	<i>stG6792. 11</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
4	2	女	84	B	III
5	3	男	81	A	T11 , M型別不能 , <i>emm44. 0</i>
6	3	女	53	B	I b
7	3	女	64	A	T14/49 , M型別不能 , <i>emm49. 0</i>
8	5	男	67	G	<i>Streptococcus anginosus</i>
9	6	女	96	A	T型別不能 , M型別不能 , <i>emm81. 0</i>
10	6	男	57	A	T型別不能 , M型別不能 , <i>emm81. 0</i>
11	8	男	77	G	<i>stG6792. 3</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
12	9	女	55	A	T型別不能 , M型別不能 , <i>emm76. 0</i>
13	10	女	93	G	<i>stG6792. 3</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
14	10	男	51	B	I b
15	11	男	84	G	<i>stC6979. 0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
16	11	男	73	A	T型別不能 , M型別不能 , <i>emm81. 0</i>
17	12	男	76	A	T型別不能 , M型別不能 , <i>emm82. 0</i>
18	12	女	96	G	<i>stG840. 0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
19	12	男	87	G	<i>stG652. 0</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>
20	12	男	86	G	<i>stG6792. 3</i> , <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>

(後藤千恵子、松本裕子、小泉充正、酒井敬介)

③ 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021 年は劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株 4 株、侵襲性インフルエンザ菌感染症起因株 3 株および侵襲性肺炎球菌感染症起因株 16 株が搬入された。侵襲性髄膜炎菌感染症の事例は認められなかった。

劇症型溶血性レンサ球菌は A 群 1 株、B 群 1 株、G 群 2 株であった。

インフルエンザ菌は当所において血清型別検査を実施した結果、全て無莢膜型であった。

肺炎球菌は当所においてマルチプレックス PCR による血清型推定及び、国立感染症研究所に依頼し血清型別検査を実施した。15 歳未満の小児は 5 症例であり、15A 型、20 型、22F 型、23A 型および 35B 型がそれぞれ 1 株であった。15 歳以上は 11 症例で、7F 型、15A 型および 23A 型がそれぞれ 2 株、15B 型、15F/15A (15F もしくは 15A) 型、23F 型、31 型および 35 型がそれぞれ 1 株であった。

(赤木英則、淀谷雄亮、西里恵美莉)

④ 相模原市

相模原市市衛生研究所

2021 年は劇症型溶血性レンサ球菌感染症起因株 1 株が搬入され、劇症型溶血性レンサ球菌 B 群であった。

(木内郁代、田村有美、坂扶美子)

⑤ 横須賀市

横須賀市健康安全科学センター

2021 年は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症に関する検査依頼は認められなかった。

(片倉孝子、金川治義)

(ウ) マイコプラズマ肺炎

① 神奈川県 (横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法および PCR 法による検査を実施している。2021 年 1 月から 12 月までに搬入された検体はなかった。

(陳内理生、伊達佳美、櫻木淳一)

(エ) 百日咳

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関から百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS481-PCR 法及び PTP1/p2-PCR 法による検査を実施している。2021 年は 1 検体が搬入されたが、培養法及び IS481-PCR 法ともに陰性であった。

(伊達佳美、古川一郎、櫻木淳一)

② 横浜市

横浜市衛生研究所

2021 年 1 月から 12 月までに横浜市内では百日咳菌に関する検査依頼は認められなかった。

(松本裕子、酒井敬介)

3 その他の感染症

(ア) つつが虫病

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）

神奈川県衛生研究所

神奈川県のつつが虫病患者発生数は、1990 年（平成 2 年）の 112 名をピークに減少傾向を示し、近年では毎年 20 名程度の患者数で推移している。

神奈川県では、つつが虫病又は日本紅斑熱を疑う症例について、つつが虫病及び日本紅斑熱の病原体遺伝子検査を実施している。本年は 10 例について遺伝子検査を実施したところ、日本紅斑熱遺伝子はすべての検体で検出されなかったが、つつが虫病遺伝子が 8 例から検出された。その遺伝子型は、Kawasaki 型 4 例、Kuroki 型 3 例、Karp 型 1 例であった。

つつが虫病患者 8 名からの聞き取り調査で得られた推定感染地は、神奈川県内 7 例、長野県 1 例で、県内の推定感染地は、小田原市 3 例、山北町 2 例、南足柄市、秦野市が各 1 例であった。2021 年のつつが虫病感染時の行動は、例年と同様に平地の畑での農作業や山間部での作業であった。

(鈴木理恵子、高橋淳子、櫻木淳一)

② 川崎市

川崎市健康安全研究所

2021 年に川崎市内の医療機関において診断された日本紅斑熱疑い例 1 例、つつが虫病疑い例 1 例について遺伝子検査を実施したところ、日本紅斑熱及びつつが虫の病原体遺伝子は検出されなかった。

(若菜愛澄、赤星千絵)

【参考資料】

< 予防接種実施状況 >

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

(単位:人)

			平成30年度		令和元年度	
			全国	神奈川県	全国	神奈川県
沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 不活化ポリオ混合ワクチン (DPT-IPV)	1期 初回接種	第1回	899 624	39 530	881 417	64 210
		第2回	906 388	39 958	889 081	64 919
		第3回	911 094	40 249	894 620	65 208
	1期追加接種		941 384	42 403	935 162	68 056
日本脳炎ワクチン	1期 初回接種	第1回	1 206 295	48 576	1 118 488	73 858
		第2回	1 198 094	48 343	1 127 566	75 040
	1期追加接種		1 199 217	48 040	1 169 482	78 221
	第2期		1 166 513	49 837	1 137 460	76 901
ヒブワクチン	第1回		894 959	38 978	875 258	63 476
	第2回		896 345	39 386	863 790	63 184
	第3回		896 866	39 560	854 881	62 623
	第4回		914 777	40 455	866 106	63 758
小児用肺炎球菌ワクチン	第1回		897 159	39 081	880 314	63 797
	第2回		899 530	39 518	881 497	64 349
	第3回		900 018	39 665	883 367	64 661
	第4回		913 985	40 499	904 067	66 287
子宮頸がん予防ワクチン	第1回		6 810	271	17 297	1 211
	第2回		5 746	208	13 571	995
	第3回		4 184	143	9 701	718
水痘ワクチン	第1回		932 471	40 961	906 739	66 180
	第2回		855 983	38 798	862 389	63 606
麻しん・風しんワクチン	第1期		922 446	41 033	901 994	65 825
	第2期		956 935	42 023	972 967	68 898
インフルエンザワクチン	総 数		17 087 513	502 274	18 122 888	595 141
	60歳以上65歳未満		26 237	827	26 272	713
	65歳以上		17 061 276	501 447	18 096 616	594 428

「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成

※「麻しん・風しんワクチン」は、「麻しん風しん混合ワクチン」、「麻しんワクチン」、「風しんワクチン」を合わせたものである。

※年齢階級別の計数が不詳の市区町村があるため、総数と年齢階級別の計が一致しない場合がある。

<感染症関係機関>

2022年4月現在

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区本町 6-50-10	045 (671) 2121
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1818
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7171
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8484
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通 35	045 (224) 8181
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区浦舟町 2-33	045 (341) 1212
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南 4-2-10	045 (847) 8484
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6262
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6161
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2323
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7878
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2323
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2323
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2323
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2323
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 8484
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 8181
横浜市泉福祉保健センター	横浜市泉区和泉中央北 5-1-1	045 (800) 2323
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5656
横浜市衛生研究所	横浜市金沢区富岡東 2-7-1	045 (370) 8460
川崎市健康福祉局保健医療政策部	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2111
川崎区役所地域みまもり支援センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3113
幸区役所地域みまもり支援センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6666
中原区役所地域みまもり支援センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3113
高津区役所地域みまもり支援センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3113
宮前区役所地域みまもり支援センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3113
多摩区役所地域みまもり支援センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3113
麻生区役所地域みまもり支援センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5100
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生研究所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-14	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鶴沼 2131-1	0466 (50) 3593
茅ヶ崎市保健所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県健康医療局医療危機対策本部室	横浜市中区日本大通 1	045 (210) 1111
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
厚木保健福祉事務所大和センター	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
鎌倉保健福祉事務所三崎センター	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
平塚保健福祉事務所秦野センター	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
小田原保健福祉事務所足柄上センター	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4456
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4457
横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9480
横浜市民立市民病院	横浜市神奈川区三ツ沢西町 1-1	045 (316) 4580
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市民立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本台 4-3-1	042 (761) 6020
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 0467-83-4400 (代表)